TOSHIBA
Leading Innovation >>>

東芝HDD&DVDレコーダー取扱説明書

VARDIA

形名 **RD-E302**

▶応用編

本冊子では、ネットdeナビ、機能設定、困ったときの解決法、総合さくいんなどについて書かれています。

「わからない・困った！」そんなときは…

➡「困ったときの解決法」(89 ページ～)をご覧ください。

「説明してある箇所を探したい！」そんなときは…

➡「総合さくいん」(101 ページ～)をご覧ください。

はじめに

『応用編』を活用して RDがさらに便利に！楽しく！

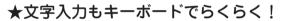
本書は、以下の機能をお楽しみいただくための、接続、設定や操作のしかたを解説しています。
また、本機の操作などに困ったときもお役立てください。

パソコンやインターネットに接続して、ネットワーク機能を使う！

本機とパソコンをつないで、「ネット de ナビ」を使えばとても便利に！

★パソコンから本機を操作できる！

パソコンから録画予約や変更、ライブラリの確認などができます。また、パソコン画面上のリモコンで、本機を操作できます。

★文字入力もキーボードでらくらく！

タイトル情報の編集やキーワードの登録を行なうことができます。パソコンのキーボードから文字入力できます。

★パソコンで録画番組などを見ることができる！

パソコンで放送中の番組や録画した番組を見ることができます。

など…

パソコンと接続することで楽しみが広がります！

本機のいろんな機能の設定を変更できるよ！

はじめての設定／管理設定
チャンネル／入力設定
通信設定
DVD プレイヤー設定
操作・表示設定
再生機能設定
録画機能設定

本機のさまざまな機能の設定をお使いの条件やお好みに合わせて変えられます。

接続方法によって使える機能が異なるので、最初に「ネット接続設定」章をよく読んで接続するパソコンなどの動作環境や、接続方法などを確認してね！！

さらにブロードバンド常時接続の環境につなげば もっと楽しく！

★外出先からメールで録画予約できる！

eメールの本文に録画予約の内容を入力し、設定したメールアドレスに送信すると、録画予約できる機能です。

★インターネット番組表（iEPG）から録画予約できる！

お好きなiEPG録画予約サイトを二つ設定できます。

★予約ランキングやクリップ映像など「おすすめサービス」が楽しめる！

おすすめの番組リストや番組予約状況のランキングを表示したり、クリップ映像をダウンロードしたりしてお楽しみいただけます。

などなど…

ネットワーク機能を最大限に活用できるおすすめの接続方法です！

※ブロードバンド常時接続環境につないだ場合でも、お客様のネットワーク環境などの条件によっては、ご利用になれない機能があります。

操作などに困ったら…？

安全上のご注意

製品本体および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ､安全に正しくお使いいただくために､重要な内容を記載しています。次の内容(表示･図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

■ 表示の説明

表示	表示の意味
⚠警告	“取扱いを誤った場合、人が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注意	“取扱いを誤った場合、人が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。

*1：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

■ 図記号の例

図記号	図記号の意味
⃠ 禁止	“⃠”は、**禁止**（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
● 指示	“●”は、**指示**する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
△ 注意	“△”は、**注意**を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

別冊（導入・設定編）の安全上のご注意を必ずお読みください。

もくじ

もくじ（つづき）

• 意匠、仕様などは改良のため予告なく変更することがあります。
• 本書に描かれているイラスト、画面表示などは見やすくするために誇張、省略があり実際とは異なる場合があります。
• 本書で説明しているイラスト、画面表示などは、例として表示してあります。

ネットワーク機能を利用するために、接続や設定をしましょう！

ネット接続設定

本機をブロードバンド常時接続の環境で、インターネットに接続する方法や、パソコンとつないで本機を操作するための設定などを説明しています。

本機のネットワーク機能と設定について

ネットワーク機能の接続や設定の前にお読みください。

本機のネットワークを利用した主な機能には、以下のものがあります。

- パソコンから本機を操作する、ネット de ナビ機能
- ネット de ダビング対応機器（当社製 HDD&DVD レコーダー（HD DVD ドライブ搭載機及び VTR 一体型含む）など）とのネットワーク間ダビング
- iNET を利用した、地上アナログ放送などの番組表情報の取得
- 「番組ナビ」の「おすすめサービス」機能
- DLNA 機能を使ったタイトル配信
- 本機を制御するプログラム（ソフトウェア）の最新版のダウンロード（⇨ 76 ページ）

用途やお客様のネットワーク環境によって、接続や設定方法が異なります。以下の表で確認してから接続や設定をしてください。
ネットワーク機能が働かないときには、設定をもう一度確認してください。

ネットワーク機能	説　明	動作環境
ネットdeナビ（⇨24ページ）	本機の操作や設定などをweb画面で行なえる機能です。また、以下のような便利な機能が利用できます。	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4） ・Java VM Ver.1.5（Mac OS Xは1.4.2）（⇨10ページ）
└ iEPGで録画予約をする（⇨30ページ）	インターネット番組表(iEPG)を利用して録画予約ができます。	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4）（⇨ 10 ページ）
└ eメールで録画予約をする（⇨40ページ）	外出先などからeメールで録画予約ができます。	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4）（⇨ 10 ページ）
└ ネットdeリモコン（⇨43ページ）	ブラウザに表示されたリモコン画面で本機を操作できます。	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4） ・Java VM Ver.1.5（Mac OS X は 1.4.2）（⇨10ページ）
└ ネットdeモニター（⇨46ページ）	録画番組などをweb画面で見ることができます。	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4） ・Java VM Ver.1.5（Mac OS X は 1.4.2）（⇨ 10 ページ）
ネットdeダビング（⇨操作編145ページ）	ネットdeダビング対応機器とLANで接続し、ネットワーク間ダビングが行なえます。	
番組ナビ - iNET 番組ナビ（iNET）の設定（⇨導入・設定編72ページ）	タイトル名や番組説明をインターネットから自動取得する機能です。	
番組ナビ - おすすめサービス（⇨操作編78ページ）	おすすめの番組や録画予約ランキングを表示したり、クリップ映像のダウンロードなどができます。	
ジャストクロック - 時計サーバ（⇨導入・設定編47ページ）	専用のサーバーに本機が自動的にアクセスし、自動で時刻を合わせます。	
DLNA対応機器にタイトルを配信する（ネットdeサーバー機能を使用する）（⇨49ページ）	ネットワークに接続したDLNA対応機器(デジタルメディアプレイヤー)にタイトルを配信します。	⇨ 49 ページをご覧ください。

ネットワーク機能の準備の流れ

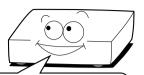
本機をブロードバンド常時接続の環境に接続してお使いになる場合の、準備の流れです。

1. 動作環境、制限事項や免責事項をお読みになり、理解および同意をする（➡10、11 ページ）
2. 本機をブロードバンド常時接続の環境に接続する（➡14、15 ページ）
3. イーサネット設定をする（➡16 ページ）
4. ネットワークを利用した各機能の設定をする（➡13 ページや、このページの表を参考にしてください）

基本的な設定	必要な設定	ネットワーク環境※	
		ブロードバンド常時接続環境あり	ブロードバンド常時接続環境なし
・イーサネット設定(➡16ページ〜)		○	△
・イーサネット設定（➡ 16 ページ〜） ーブロードバンド常時接続の環境が必要です。（➡ 14、15 ページ）	・番組情報サイトの設定（➡ 20 ページ） ・iEPG ／番組ナビのチャンネル名を設定する（➡ 28 ページ）	○	×
・イーサネット設定（➡ 16 ページ〜） ーブロードバンド常時接続の環境が必要です。（➡ 14、15 ページ）	・メール録画予約機能の設定（➡ 21 ページ）	○	×
・イーサネット設定（➡ 16 ページ〜）	・その他の設定 ーリモコンアクセスポート番号（➡ 22 ページ）	○	○
・イーサネット設定（➡ 16 ページ〜）	・QuickTime（Ver.7.0.3）のインストールと設定（➡ 10、48 ページ） ・ネット de モニターの設定（➡ 46 ページ）	○	○
・イーサネット設定（➡ 16 ページ〜）	・ネット de ダビング設定（➡ 16 ページ） ーダビング要求を【受け付ける】に設定する ーグループ名を入力する（ダビングしたい機器のグループ名はすべて同じ名前に設定します。） ーグループパスワードを入力する（ダビングしたい機器のパスワードはすべて同一のものに設定します。）	○	△
・イーサネット設定（➡ 16 ページ〜） ーブロードバンド常時接続の環境が必要です。（➡ 14、15 ページ）	・番組情報サイトの設定（➡ 20 ページ）	○	×
・イーサネット設定（➡ 16 ページ〜） ーブロードバンド常時接続の環境が必要です。（➡ 14、15 ページ）	・番組ナビ設定（➡導入・設定編 72 ページ） ー「地上アナログ／ライン入力の番組データ取得」を【iNET】または【しない】に設定する ・おすすめサービス設定（➡操作編 78 ページ）	○	×
・イーサネット設定（➡ 16 ページ〜） ーブロードバンド常時接続の環境が必要です。（➡ 14、15 ページ）	・ジャストクロック（➡導入・設定編 47 ページ） ・その他の設定ー時計サーバ（➡ 22 ページ）	○	×
・イーサネット設定（➡ 16 ページ〜）	・DLNA 設定（➡ 49 ページ）	○	○

※ ○＝利用できます／△＝制限つきで利用できます／×＝利用できません
「ブロードバンド常時接続環境あり」でも、お客様のネットワーク環境などの条件によっては、ご利用できない機能があります。

動作環境について

ネットワークを利用する機能や、ネットdeナビ機能には、どんなパソコンやOSが対応しているの？

本機は、IEEE（米国電気電子技術者協会）802.3規格に準拠しています。ネットワークを利用する機能や、ネットdeナビ機能をお使いいただくためには、以下の環境が必要です。ネットワークやパソコンに接続する前にお確かめください。

ネットワーク接続環境

ブロードバンド常時接続の環境。

お知らせ

- 動作環境は、予告なく変更される場合があります。また、すべての動作を保証するものではありません。
- 本機に関する最新情報は、当社ホームページでご確認ください。
  http://www3.toshiba.co.jp/hdd-dvd/support/
- パソコンやWWWブラウザの下記以降のバージョンについてお使いいただけるかは「RDシリーズサポートダイヤル」（⇨裏表紙）にお問い合わせください。

※以下はネットdeナビ機能に必要な動作環境です。

パソコン

OS：Windows® 2000／XP
　　Mac OS X(10.4)
　　上記OS以外の環境での動作は保証していません。
カラーモニター：16ビットカラー以上、800×600ドット以上
必要なデバイス：LANポート(100Base-TX／10Base-T)

WWW ブラウザ

Windows® 2000の場合：Internet Explorer 6.0
Windows® XPの場合：Internet Explorer 6.0/7.0
Mac OSの場合：　Safari 2.0.3
上記以降のバージョンについては、すべての動作を保証するものではありません。

ネットdeナビの機能を使うには、Java VM Ver.1.5(Mac OS Xは1.4.2)がインストールされている必要があります。最新のJava VMを入手するには、米国Sun Microsystems, Inc.のhttp://java.com/ja/のサイトでご確認ください。

ネット de ナビの機能「ネット de モニター」を使うには、QuickTime Ver.7.0.3 がインストールされている必要があります。QuickTime を入手するには、Apple Computer, Inc. のサイト http://www.apple.co.jp/quicktime/download/ でご確認ください。
（2008年4月現在）

用語と商標について

- Microsoft、Windows、Internet Explorer は米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
  Windows® 2000...Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system Service Pack4 (SP4)日本語版
  Windows® XP...Microsoft® Windows® XP operating system 日本語版
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Macintosh、Mac、Safari、QuickTimeは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Incの商標です。
- 本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。
- JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。
- DLNA®およびDLNA CERTIFIED™はDigital Living Network Alliance®の商標です。

つかいこなしのポイント！

「制限事項と免責事項」（⇨11 ページ）もよくお読みいただき、ご理解いただいた上でネット de ナビをお使いください。

制限事項と免責事項

本機のネットワークを利用した機能をお使いになる前に、以下の免責事項・制限事項などを必ずよくお読みください。

制限事項

- ネットdeナビ機能は、本機をネットワークにつなぎ、本機が動作状態のときにだけ使用できます(ネットdeナビ機能の電源待機状態でのメール予約確認機能は除く)。
  また、「録画予約」を設定した場合とパソコンなどからWakeOnLAN機能を利用する場合を除き、本機能で本体側の電源を「入」にすることはできません。
- **ネットdeナビ機能の動作環境：**
  1. OS（オペレーティングシステム）：
     Windows® 2000、Windows® XP（日本語版）
     Mac OS X(10.4)（日本語版）
  2. DOS/V互換パソコンまたはMacintoshコンピュータ(LANコネクタが必要)（市販品）
  3. WWWブラウザ(Windows®)：Internet Explorer(対応バージョンについては、10ページをご覧ください。)
     WWWブラウザ(Mac OS)：Safari（対応バージョンについては、10ページをご覧ください。）

  「iEPG予約機能」、「メール予約機能」をご使用になる場合には、あわせて以下の環境が必要です。
  4. インターネット常時接続環境(ブロードバンド接続必須)
  5. 設置場所からパソコンで送受信可能なeメールアカウント(POPサーバーおよびSMTPサーバーを使用したサービス)
  6. ハブ機能を持ったブロードバンドルーター（DHCP機能搭載を推奨)
  7. 有線のLAN接続が家庭の環境で困難な場合、無線LANアクセスポイントと本機につなぐ無線LANイーサネットアダプタ(市販品)
- 動作環境にすべて合致していても正常に動作しない場合や、何らかの不具合が発生することがあります。すべての環境での動作を保証するものではありません。
- 本機の通信機能は、米国電気電子技術協会IEEE802.3に準拠しています。
- 本機の通信状態、またはネットdeナビ機能で本機とパソコン間の通信状態によっては、表示が遅くなったり、表示や通信にエラーが発生する場合があります。
- プロバイダ(インターネット接続事業者)側の設定や制限によっては、本機能の一部が使用できない場合があります。
- 電話通信事業者およびプロバイダとの契約費用および通信に使用される通信費用は、お客様ご自身でお支払いください(メール予約の送受信の費用も含む)。
  なお、プロバイダ指定の回線接続機器(ADSLモデムなど)に10BASE-Tまたは、100BASE-TXのLANポートがない場合は接続できません。
- ADSLでご利用いただくには、ADSLモデムが必要です。通信事業者やプロバイダが採用している接続の方式や契約の約款などによっては、本製品をご利用いただけない場合や同時接続する台数に制限や条件がある場合があります。(契約が一台に制限される場合、すでに接続されているパソコンがあると、本機を二台目として接続することが認められていないことがあります)
- プロバイダによってはルータの使用を禁止あるいは制限している場合があります。
  詳しくはご契約のプロバイダにお問い合わせください。
- ブロードバンド常時接続のパソコンと接続する場合は、カテゴリー5と表示された10BASE-T/100BASE-TXのLANケーブルをご使用ください。
  直接本機とパソコンを接続する場合は、市販のクロスケーブルをご使用ください。
- セキュリティソフトウェア自体やその設定によっては、本機能の一部が使用できない場合があります。

●以下は、ネットdeナビ機能を対象とした制限事項になります。

- ネットdeナビ機能は、パソコン上で録画予約を設定・変更したり、タイトル名・チャプター名・番組情報等のテキスト情報の編集や各種設定の変更、サムネイル表示、DVD-Videoメニューの背景データの取込みはできますが、それ以外の情報の取得や変更、追加はできません。
- 本機とパソコンを直接接続する場合には別途市販のLANケーブル(クロスケーブル)を、ハブやルータとの接続には別途、市販のLANケーブル(ストレートケーブル)をご用意ください。
- 「メール予約機能」をご利用になるには、POP3またはAPOPに対応したご家庭から接続可能なeメールのアカウントが別途必要です。携帯電話などのメールアドレスのように、ご家庭のパソコンからアクセスできないeメールのアカウントはご利用になれません。
  本機が同ネットワーク経由でインターネットプロバイダのメールサーバーにアクセスできるよう、常時接続されている必要があります。なお、本機とメールサーバーとの接続に際し、パソコンの電源を入れておく必要はありませんが、パソコン側で自動的にメールサーバーからメールを受信してサーバー側のメールを受信時に削除されるように設定している場合、本機で予約メールを受信する前に消えることがありますので、サーバーにコピーを残すなどの設定変更が必要です。
- 携帯電話からのメール予約には、インターネットメールを使用してください。ショートメールのような携帯電話間だけのメール機能では使用できません。
- ポータルサイトのwebメール(POP3対応していない)はメール予約の設定には使用できません(録画予約完了通知のアドレスには設定できます)。

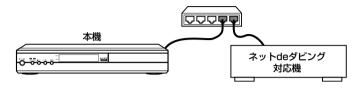
免責事項

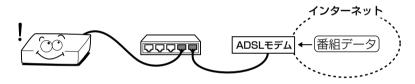
- 本機能によって接続した機器に通信障害等の不具合が生じた場合の結果について、当社は一切の責任を負いません。
- お客様の居住環境が、ブロードバンド常時接続にできない場合、当社は一切責任を負いません。
- 火災、地震などの自然災害、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた障害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本機能の使用または使用不能から生ずる付随的な障害(事業利益の損失、事業の中断、記録内容の変化・消失、インターネット契約料金・通信費用の損失など)に関して、当社は一切責任を負いません。
- 取扱説明書および本書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 接続した機器、使用されるソフトウェアとの組み合わせによる誤動作や、ハングアップなどから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 本機能を使用中、万一何らかの不具合によって、録画・録音・編集されなかった場合の内容の補償および付随的な損害(事業利益の損失、事業の中断など)に対して、当社は一切の責任を負いません。
- インターネットを使用して提供されるサービスは、予告なく一時停止したり、サービス自体が終了される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

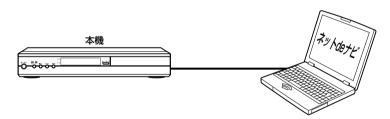
1

ネットワーク機能の概要

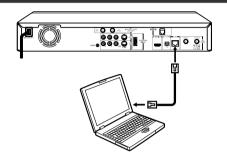
対応機器とのネットワーク間ダビングをする（ネット de ダビング）

●同一ネットワーク上のネットdeダビング対応機器(当社製HDD&DVDレコーダー（HD DVDドライブ搭載機およびVTR一体型を含む))にダビングすることができます。(操作編145ページ)

iNET を利用して番組表データを取得する

●本機をブロードバンド常時接続の環境でインターネット接続しておくと、インターネットを利用して番組データサーバーから番組データをダウンロードできます。

パソコンで本機を操作する（ネット de ナビ）

●本機とパソコンを接続して、パソコンから本機を操作することができます。(24ページ〜)

接続方法によって使えるネットワーク機能が異なります

パソコンと接続するためには、LAN 接続できるパソコンが必要です。
パソコンと直接接続する方法と、ブロードバンド常時接続のパソコンと接続する方法があります。それぞれの接続の方法で使えるネットワーク機能が異なります。

パソコンと直接接続する場合

■ 接続・設定の概要

・【イーサネット利用設定】を【利用する】に設定する（導入・設定編 ⇨78 ページ）

ステップ 1

①ネットワークに接続する
（⇨14 ページ～）
②イーサネット設定をする
（⇨16 ページ～）

ステップ 2

「ネット de ナビ」ができます

①パソコンの設定をする
（⇨18 ページ）
②ネット de ナビを起動する
（⇨19 ページ）

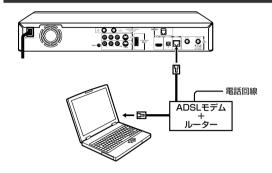
iNET を利用して番組データを取得するなど､本機のネットワーク機能を最大限に活用するには､ブロードバンド常時接続環境との接続が必要です。

⇨8 ページの「本機のネットワーク機能と設定について」もご覧ください。

ブロードバンド常時接続のパソコンと接続する場合

■ 接続・設定の概要

・【イーサネット利用設定】を【利用する】に設定する（導入・設定編 ⇨78 ページ）

ステップ 1

「ネット de ダビング」※ができます

※ルーターを使ってネット de ダビング対応機器と本機を接続する場合

①ネットワークに接続する
（⇨14 ページ～）
②イーサネット設定をする
（⇨16 ページ～）

ステップ 2

「iNET を利用して番組データ取得」ができます

①「番組ナビ設定 ー 地上アナログ／ライン入力の番組データ取得」で「iNET」を設定する
（⇨導入・設定編 72 ページ）

ステップ 3

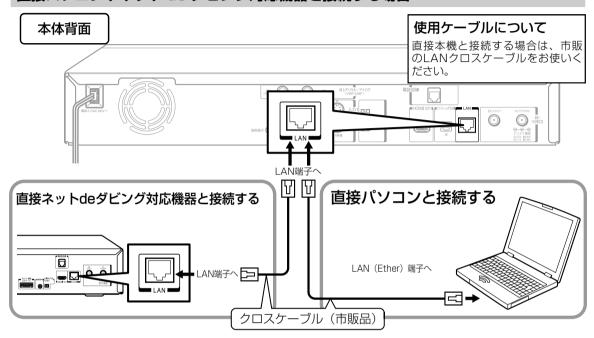
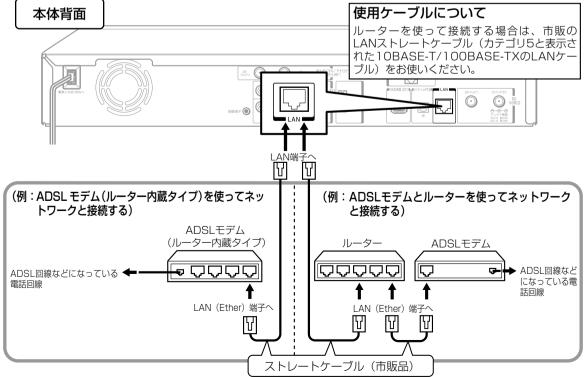
「ネット de ナビ」ができます

①ネット de ナビを起動する
（⇨19 ページ）
②ネット de ナビ設定をする
（⇨20 ページ）
③iEPG チャンネル名を設定する
（⇨28 ページ）

※③は、録画予約サイト(iEPGサイト)を使って録画予約をする場合に必要な設定です。

ネットワークに接続する

本機の「LAN」端子を使って直接パソコンやネットdeダビング対応機器と接続する方法と、ブロードバンド常時接続の環境でインターネットに接続する方法を説明します。用途に合わせて接続をしてください。

直接パソコンやネット de ダビング対応機器と接続する場合

本機のみをブロードバンド常時接続対応モデムと接続する場合

本機とパソコンやネット de ダビング対応機器をブロードバンド常時接続対応モデムに接続する場合

本体背面

使用ケーブルについて

ルーターを使って接続する場合は、市販のLANストレートケーブル（カテゴリ5と表示された10BASE-T/100BASE-TXのLANケーブル）をお使いください。

LAN端子へ

（例：ADSLモデム（ルーター内蔵タイプ）を使ってネットワーク、パソコンやネットdeダビング対応機器と接続する）

ADSLモデム（ルーター内蔵タイプ）

ADSL回線などになっている電話回線

LAN（Ether）端子へ

ネット de ダビング対応機器

LAN端子へ

LAN（Ether）端子へ

（例：ADSLモデムとルーターを使ってネットワーク、パソコンやネットdeダビング対応機器と接続する）

ルーター　ADSLモデム

ADSL回線などになっている電話回線

LAN（Ether）端子へ

ストレートケーブル（市販品）

ネット de ダビング対応機器

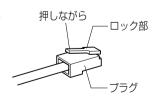
LAN端子へ

LAN（Ether）端子へ

※「番組ナビ」での ADSL モデム（ルータータイプなど）の接続では、パソコンと本機との接続は不要です。ただし、プロキシサーバーの設定が必要な場合、追加設定が必要となります。（➡ 17 ページ）

※「編集ナビ」での「ネット de ダビング」の対応機器と同一ネットワーク内で接続するときは、パソコンと本機との接続は不要です。

ご注意

- **LAN ケーブルの抜き差しをするときは、必ず本機とパソコンや接続する機器の電源を切ってから行なってください。**
- LAN ケーブルの抜き差しは、プラグを持って行なってください。
  抜くときは、LAN ケーブルを引っ張らず、ロック部を押しながら抜いてください。
- LAN 端子に電話のモジュラーケーブルを接続しないでください。
  故障の原因となる場合があります。
- CATV インターネット、B フレッツなども使用できますが、さまざまな接続形態がありますので回線業者やプロバイダの指示に従ってください。

お知らせ

- 本機をブロードバンド常時接続環境に接続して使用するには、新規に IP アドレスを設定することになります（➡ 17 ページ）。プロバイダによっては、インターネットに接続できる機器の台数が制限されている場合があります。詳しくはご契約のプロバイダにお問い合わせください。

イーサネット設定をする

準備

①「スタートメニュー」画面から、「設定メニュー」を表示する。
②「通信設定」→「イーサネット利用設定」→「利用する」の順に選択、決定する。

イーサネット設定をする

タブを選択して画面を切り換えます

不正なアクセスなどを防ぐため、「本体ユーザー名」と「本体パスワード」を必ず入力する必要があります。ユーザー名とパスワードは、他人に知られたり、容易に推測されないような、お客様独自のものにしてください。
これらの入力をしないと、設定を完了できません。

1 下の表と次のページの表にしたがって、「ネットdeナビ／ネットdeダビング」画面と「アドレス／プロキシ」画面の各項目を設定する

2 設定が終わったら【登録】を選び、決定を押す

設定項目（ネット de ナビ／ネット de ダビング画面）

■ネット de ナビ設定

（パソコンから本機にアクセスするための設定です。）

本体名	半角英数字記号 15 文字以内	通常は設定を変える必要はありません。本機を複数台接続する場合は、それぞれ本体ごとに変更してください。
本体ユーザー名	半角英数字記号 16 文字以内	パソコンから本機にアクセスするための ID です。 他人に知られたり、容易に推測されないような、お客様独自のものにしてください。（避けた方がよい例 : ご自身やご家族の名前、電話番号、誕生日、住所の地番、車のナンバー、同じ数字や記号の単純な並び など）
本体パスワード	半角英数字記号 16 文字以内	パソコンから本機にアクセスするためのパスワードです。 他人に知られたり、容易に推測されないような、お客様独自のものにしてください。（避けた方がよい例 : ご自身やご家族の名前、電話番号、誕生日、住所の地番、車のナンバー、同じ数字や記号の単純な並び など） パスワードを入力すると「*」で表示されます。 パスワードを忘れたときは、新たなパスワードを入力し、設定してください。
本体ポート番号	80	通常は設定を変える必要はありません。うまく接続できないときや、機能の一部が働かないときに、2000 ～ 10000 の間で変更します。

■ネット de ダビング設定

（ネット de ダビング機能を使う場合に設定します。）

ダビング要求	受け付ける	東芝製 HDD&DVD レコーダー（HD DVD ドライブ搭載機および VTR 一体型を含む）を複数台ネットに接続して相互ダビングするときに選びます。
	受け付けない	ネットを通してのダビングを許可しません。
グループ名	例：TOSHIBA	複数台をネットに接続しているときのグループ名を設定します。
グループパスワード		グループ名を設定したときに、パスワードを設定します。

■ネット de ダビングの設定についての重要なお知らせ

すでにお持ちのRDシリーズ(ネットdeダビング対応の従来モデル)とネットdeダビングするときは、両方のグループ名とパスワードを一致させないと、相互にダビングすることができなくなりますので、本機能をご利用になる機器は、すべて同一のグループ名とグループパスワードに設定してください。

従来モデル※1のグループ名とグループパスワードは、初期設定がいずれも半角の大文字で、「TOSHIBA」となっています。お客様がこの初期設定のまま従来モデルをお使いの場合、本機に「TOSHIBA」を設定してご使用いただくこともできますが、不正なアクセスなどを防ぐためにも、従来モデルの「ネットdeナビ」画面(パソコン上)で「本体設定」※2を開き、「ネットdeダビングの設定」を、本機で新たに設定したグループ名とグループパスワードに変更していただくことを強く推奨いたします。

※1 ネットdeダビング対応従来モデル(グループ名、グループパスワードの初期設定が「TOSHIBA」の機種)
RD-XS43、RD-XS53、RD-XS24、RD-XS34、RD-XS36、RD-XS46、RD-X5、RD-H1、RD-H2、RD-Z1

※2 RD-Z1では「ネットdeナビ設定」となります。

設定項目(アドレス/プロキシ画面)

■パソコンと直接接続した場合(18 ページのパソコン側の設定もご覧ください。)

※「編集ナビ」での「ネットdeダビング」の対応機器と本機を直接接続するときの「アドレス/プロキシ」設定も、パソコンを対応機器に置き換えて設定してください。

項目	設定	説明
DHCP	使わない	ネットワークの情報を手動で設定します。
IPアドレス	パソコンの IP アドレスが 192.168.1.10 の場合 例:192.168.1.15	本機と接続するパソコンと同じサブネット内の異なるアドレスを設定します。
サブネットマスク	例:255.255.255.0	接続するネットワーク環境のサブネットマスクを設定します。
デフォルトゲートウェイ	例:192.168.1.1	本機がゲートウェイを使う場合に設定します。
DNSサーバー	例:192.168.1.1	本機が DNS を使う場合に設定します。
プロキシサーバー	(設定不要)	設定は不要です。(設定しても無視されます。)
プロキシポート	(設定不要)	設定は不要です。(設定しても無視されます。)
MACアドレス	(設定不可)	各本体ごとに決められている MAC アドレスが表示されています。変更はできません。
接続確認※	本機と接続したパソコンに接続されているか確認します。 注:「接続確認」をしてDNSサーバーに関するメッセージが表示される場合は無視してください。	

※【接続確認】を選び、『決定』を押すと「アドレス/プロキシ」画面で変更した項目が保存され、保存前の設定に戻せなくなります。念のため設定内容を書き留めておくことをお勧めします。

お知らせ

・IP アドレスは、プライベート IP アドレスが設定できます。(例:192.168.1.1 ~ 192.168.1.254)

■ブロードバンド常時接続環境に接続した場合

※「編集ナビ」での「ネット de ダビング」の対応機器と同一ネットワーク内で接続するときの「アドレス/プロキシ」も同様に設定してください。

項目	設定	説明
DHCP	使う	ネットワークの情報を自動的に取得します。
IPアドレス	(設定不要)	DHCP サーバーから取得した IP アドレスが表示されます。
サブネットマスク	(設定不要)	DHCP サーバーから取得したサブネットマスクが表示されます。
デフォルトゲートウェイ	(設定不要)	DHCP サーバーから取得したデフォルトゲートウェイが表示されます。
DNSサーバー	自動取得「使う」	「使う」を選ぶと DHCP サーバーから自動的に DNS サーバーアドレスが取得されます。
	自動取得「使わない」	DNS サーバーアドレスを手動で入力します。詳しくは「ネット de ナビ オンラインヘルプ」をご覧ください。
プロキシサーバー	半角英数字記号 32 文字以内	使用しているプロバイダでプロキシ設定が必要な場合に、そのプロキシサーバーのアドレスを設定します。
プロキシポート	80	通常は設定を変える必要はありません。変更が必要なときだけ、1 ~ 65535 の間で設定します。
MACアドレス	(設定不可)	各本体ごとに決められている MAC アドレスが表示されています。変更はできません。
接続確認※	本機がルーターと問題なく接続されているか確認します。	

※【接続確認】を選び、『決定』を押すと「アドレス/プロキシ」画面で変更した項目が保存され、保存前の設定に戻せなくなります。念のため設定内容を書き留めておくことをお勧めします。

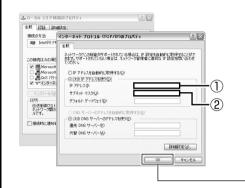
お知らせ

・ルーターの DHCP 機能がうまく働かない場合(その場合デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーの IP アドレスが取得できずエラーになります。)は、ルーターのメーカーにお問い合わせください。

・本機のネットワーク機能を使うときは、イーサネット利用設定(導入・設定編 78 ページ)を「利用する」に設定してください。

ネット de ナビを使うパソコンの設定をする

ネット de ナビを使うパソコン側の設定は、OS の種類によって異なりますので、詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。ここでは、Windows® XP を例に説明しています。

パソコンの設定をする（パソコンと直接接続している場合）

1 「コントロールパネル」→「ネットワーク接続」→「ローカルエリア接続」の「プロパティ」をクリック→「インターネットプロトコル（TCP/IP）」の「プロパティ」をクリックする

「次の IP アドレスを使う」を選び、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。
これらの設定をする前に、すでに値が設定されているときには、設定を戻せるようにその内容を記録しておくことをお勧めします。

①「IP アドレス」：
192.168.1.10 を設定します。
（本体の IP アドレスとは異なるアドレスを設定します）

②「サブネットマスク」：
255.255.255.0 に設定します。

2 画面の「OK」をクリックする

「OK」をクリックしたあとは、パソコンの指示にしたがってください。
パソコンを再起動する場合もあります。

次に「ネット de ナビを起動する」➡ 19 ページに進んでください。

パソコンの設定をする（ブロードバンド常時接続のパソコンと接続している場合）

インターネットに常時接続されているパソコンの場合は、通常「DHCP を使う」（IP アドレスを自動的に取得）になっていますので、パソコン側の設定を変更する必要はありません。
もし、「ネット de ナビ」が起動しないときは、「DHCP を使わない」に設定し、パソコンの「TCP/IP のプロパティ」の設定に合わせて、本機の設定を手動で変更してください。

ブロードバンド常時接続しているパソコンと本機を接続した場合は、パソコン側の設定は必要ありません。
➡19ページに進んでください。

お知らせ

- インターネットに接続している場合、IP アドレスを指定すると接続できなくなることがあります。インターネットに接続するときは、設定を元に戻してください。
- Mac OS X の場合は、「アップルマーク」→「システム環境設定」→「ネットワーク」→「TCP/IP」を開き、設定方法を「手入力」にし、IP アドレスとサブネットマスクを入力します。

1 ネットdeナビを起動する

本機をパソコンで設定／操作するためのネット de ナビを起動します。
ここでは、Windows® XP を例に説明しています。

例

?ヘルプ をクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。

1 パソコンでネットdeナビ対応のブラウザを起動する

- 本取扱説明書では、Windows® の Internet Explorer を例にしています。
- ブラウザ上の【戻る】ボタンを使うと、設定や表示が正しく行なわれない場合があります。

2 アドレスにhttp://RD-E302 を入力し、パソコンのENTER を押す

MAC OS X の場合や、本体名を入れたアドレスでアクセスできない場合は、スタートメニュー から「設定メニュー」を表示し、「通信設定」の「イーサネット設定ーアドレス／プロキシ」画面 (17 ページ) で設定されている本体の IP アドレスを本体名の代わりに入力します。
（例：http://192.168.1.15/）

ここの数値をブラウザのアドレスバーに http:// に続けて入力します。

アドレスを入力すると、本機の「イーサネット設定」で設定した「本体ユーザー名」と「本体パスワード」を入力する画面が表示されますので、それぞれ入力してください。
入力後、メインメニューが表示されます。
対応ブラウザでお気に入りやブックマークに登録する場合は、このときに行なってください。

3-A パソコンと直接接続している場合：メインメニューから使いたい機能をクリックする

26 ページ「番組の録画予約をする」以降の説明をご覧になり、各機能をお使いください。

3-B ブロードバンド常時接続のパソコンと接続している場合：メインメニューから「ネットdeナビ設定」をクリックする

次ページ以降の説明をご覧になり設定をしてください。

お知らせ

- ルーターによっては、DHCP によって割り振られる IP アドレスが頻繁に変わる場合があります。
- ルーターの管理ソフトウェアで、本機の IP アドレスを確認するには、本機の「イーサネット設定」の「アドレス／プロキシ」画面（17 ページ）に表示されている MAC アドレスから、割り振られた IP アドレスを探してください。
- 「イーサネット設定」の「本体ポート番号」を「80」以外の値に設定している場合は、本体名または IP アドレスの後ろに「：ポート番号」を入力します。（例 機種が RD-E302 で本体ポート番号を 2000 にした場合：http://RD-E302:2000/）
- プロキシ設定が行なわれていると、アクセスできない場合があります。17 ページをご覧ください。
- 本体側が動作中のときは、ネット de ナビが操作できても設定できない場合があります。

1 ネットdeナビ設定をする

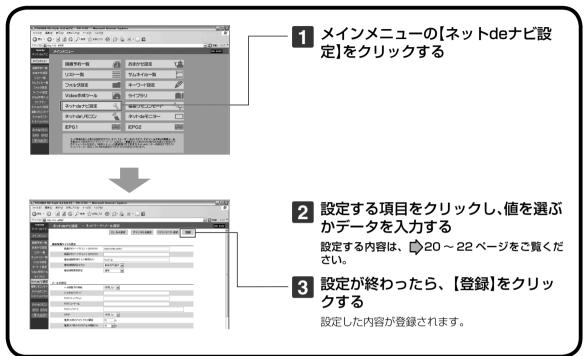
本機のネット de ナビの機能（iEPG など）を設定します。

1 メインメニューの【ネットdeナビ設定】をクリックする

2 設定する項目をクリックし、値を選ぶかデータを入力する

設定する内容は、20 ～ 22 ページをご覧ください。

3 設定が終わったら、【登録】をクリックする

設定した内容が登録されます。

お知らせ

- パソコンに初めて接続するときなど、接続先の環境が変わる場合は、本体の「イーサネット設定」(16 ページ～) をやり直してください。

■ 番組情報サイトの設定

項目	初期値	説明
録画予約ページアドレス 1（iEPGサイト）	www.rd-style.com/tv/	iEPGサイトを設定します。 半角英数字63文字以内で入力します。
録画予約ページアドレス 2（iEPGサイト）		iEPGサイトを設定します。 半角英数字63文字以内で入力します。
番組情報取得アドレス（専用サイト）	tvsurf.jp	予約名や番組説明を取得するサイトを設定します。 iEPG予約時に取得する予約名と番組情報の一致に関しては、保証はしておりません。
番組情報設定（iEPG）	番組説明優先	番組説明の情報を優先します。
	出演者優先	出演者の情報を優先します。
番組情報更新設定	両方強制	予約名、番組説明ともに、手動で入力してあっても、強制的に更新します。*[1]
	番組説明強制	手動で番組説明が入力してあっても、強制的に最新の番組説明に更新されます。*[1]
	予約名強制	手動で予約名を変更してあった場合でも、強制的に最新の番組名に更新されます。*[1]
	通常	推奨設定です。空欄の番組名も番組説明も自動的に入力・更新されます。

・本機の動作状態によっては、録画予約されない場合があります。
・番組表から予約し、未修正の予約情報（予約名、番組説明、ジャンル）は、設定に関わらず更新します。また、空白の場合も更新します。
・ジャンルを指定しないで録画した場合も録画終了時に自動的に更新されます。
　*[1] DEPG（ADAMS、iNET）使用時は、録画時以外にも一日 1 ～ 2 回不定期で番組情報を更新します。

■ メール録画予約機能の設定

（メール録画予約機能を使う場合に設定します。）

メール録画予約機能	使用する	メール録画予約機能を使います。
	使用しない	メール録画予約機能を使いません。
メール予約パスワード	例：rdstyle	予約メールとして判別するために、6 文字以上 20 文字以内で半角英数字を設定します。記号が含まれているとエラーが起こり、メール録画予約はできません。
POP3 サーバアドレス	例：XXX.XXX.ne.jp	ご使用のプロバイダの POP3 サーバーのアドレスを設定します。（半角英数字 63 文字以内）
POP3 ユーザー名		ご使用のプロバイダの POP3 サーバーにアクセスするときのユーザー名を設定します。半角英数字 63 文字以内で入力します。
POP3 パスワード		ご使用のプロバイダの POP3 サーバーにアクセスするときのパスワードを設定します。半角英数字 16 文字以内で入力します。
APOP	使用する	APOP を使います。
	使用しない	APOP を使いません。
電源 ON 時の POP3 アクセス間隔	例：15	POP3 サーバーへのアクセス間隔時間（電源 ON 時に定期的に予約メールをチェックする時間の間隔）を５分～ 120 分の間で設定します。
電源 OFF 時の POP3 アクセス時間の分	例：40	POP3 サーバーへのアクセス時間（電源待機状態時に定期的に予約メールをチェックする時間の「分」）を選択します。 2 時 /5 時 /8 時 /11 時 /14 時 /17 時 /20 時 /23 時の選択された「分」に予約メールをチェックします。
メール録画予約時 アドレスフィルタリング	使用する	「フィルタアドレス」で指定したアドレスからの予約メールだけを受信します。
	使用しない	すべてのアドレスからの予約メールを受信します。
フィルタアドレス	例：XXXXXXXX@XXX.XXX.ne.jp	「メール録画予約時アドレスフィルタリング」を「使用する」にしている場合に設定します。半角英数字63文字以内で入力します。
メール通知機能	使用しない	メール録画予約が完了したときにメールで通知しません。
	指定アドレスへ通知	メール録画予約が完了したときにメール通知用の指定アドレスへ通知します。
	送信元アドレスへ通知	メール録画予約が完了したときに送信元アドレスへ通知します。
	指定アドレスと送信元アドレスへ通知	メール録画予約が完了したときにメール通知用の指定アドレスと送信元アドレスへ通知します。
失敗しそうな予約の通知	通知しない	メール通知はしません。
	通知する	失敗しそうな予約がある場合、メールでお知らせします。 （例） ・番組の途中で録画が中断したとき ・番組追っかけに失敗したとき ・優先度の関係で録画が失敗したとき このメールは目安であり、実際に失敗する予約すべてを通知するものではありません。予約にはご注意ください。
おまかせ自動予約の通知	通知しない	メール通知はしません。
	通知する	「おまかせ自動録画」で録画予約をした場合に、メールでお知らせします。
SMTP サーバアドレス	例：XXX.XXX.ne.jp	SMTPサーバーのアドレスを設定します。 半角英数字63文字以内で入力します。
メールアドレス	例：XXXXXXXX@XXX.XXX.ne.jp	プロバイダのメールサービスのメールアドレスを設定します。半角英数字63文字以内で入力します。
メール通知用の指定アドレス	例：XXXXXXXX@XXX.XXX.ne.jp	メール録画予約が完了したときに通知する先のメールアドレスを設定します。半角英数字63文字以内で入力します。

- 本機の動作状態によっては、録画予約されない場合があります。
- 「ONTV JAPAN」サイトでの「メール録画予約」サービスを使用する場合のメール予約パスワードは、そこで登録した「合い言葉」と同じものにしてください。（2008 年４月現在）
- 「ONTV JAPAN」サイトや「iEPG」サイトで録画予約した場合、送信元アドレスには通知しません。

■ CSV保存時の設定

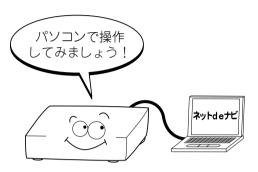
番組説明を含める	含める	ライブラリの情報をCSVファイルに保存するときに番組説明も含めることができます。
	含めない	CSVファイルに番組説明を含めないで保存します。

■ その他の設定

時計サーバ	東芝のサーバ	本機が時計サーバにアクセスすることで、時刻の誤差を修正します。
リモコンアクセスポート番号	通常：1048に設定 1048~1999の間で変更可能	複数台を使用した場合など、ネットdeナビ対応のブラウザに表示されたリモコン画面が働かない場合に、それぞれの番号を変更します。
MACアドレス		各本体ごとに決められているMACアドレスを表示しています。変更はできません。

• 時計サーバによる時刻調整は、マンションなどの共有ネットワーク環境などでは使用できない場合があります。

■ ネット de ナビ動作の設定（Cookie に保存）

iEPG予約画面表示設定	別ウィンドウで表示しない	番組情報サイトを利用して予約をするときに、予約情報を別のウィンドウで表示しません。
	別ウィンドウで表示する	番組情報サイトを利用して予約をするときに、予約情報を別のウィンドウで表示します。

ネットdeナビ

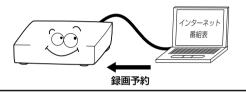
パソコンを使っての操作方法と、関連する設定について説明します。

ネット de ナビの機能と設定について

「ネットdeナビ」とは、本機の操作や設定などをWeb画面で行なえる機能です。
LANで本機と接続できるパソコンが必要です。
ブロードバンド常時接続の環境であれば、eメールで外出先などから録画予約をすることもできます。

ネット de ナビでできること

パソコンで録画予約／修正

本体の録画予約をパソコンから設定・変更する機能です。パソコンからインターネットの番組表を利用して、録画予約ができます。（iEPG 予約）

パソコンから DVD-Video メニュー用背景を登録

パソコンから本体に好きな画像を登録して、DVD-Video 作成時のメニューの背景として利用できます。

パソコンでタイトル情報編集

本体の「見るナビ」のように、HDD やディスクに録画した内容を一覧表示する機能です。タイトル名や番組説明など、タイトル情報全般を変更できます。

e メールで録画予約

外出先などからｅメールで録画予約ができます。

予約し忘れ
たときに
便利ね！

パソコンでライブラリ確認

本体の「ライブラリ」情報を表示、並べ替えする機能です。本体に記憶されているタイトル名や録画日時など、タイトルごとの情報を利用して、見たいディスクや空きのあるディスクが探せます。

パソコンから本体操作

パソコンから本体を操作する機能です。
パソコン画面上のリモコンやキーボード、
マウスで本体の操作ができます。

ご注意

- お客様のネットワーク環境や、接続方法などによって、利用できる機能が異なります。
  詳しくは「ネット接続設定」章をご覧ください。

ネット de ナビの設定の流れ

動作環境、制限事項や免責事項をお読みいただき、理解および同意をする

パソコン・ルーターと接続する (⇨ 14 ページ〜)

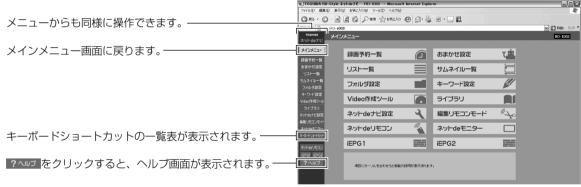
ネット de ナビを起動する (⇨ 19 ページ)

ネット de ナビ設定をする (⇨ 20 ページ)

必要な場合、チャンネル名を設定する (⇨ 28 ページ)

ネット de ナビを使ってみましょう！

ブロードバンド常時接続のパソコンと接続してネットdeナビを使う場合の設定です。

メインメニュー画面について

メニュー	機能について
録画予約一覧	「番組ナビー録画予約一覧」の内容を表示し、予約の追加や変更ができます。
おまかせ設定	「おまかせ自動録画設定」の設定や変更ができます。
リスト一覧	「見るナビータイトルリスト一覧」の表示、タイトル情報の変更ができます。
サムネイル一覧	「見るナビータイトルサムネイル一覧」の表示、タイトル情報の変更ができます。
フォルダ設定	「見るナビ」のフォルダ機能の設定ができます。
キーワード設定	よく使う文字を最大 40 件までキーワード登録できます。
Video 作成ツール	DVD-Video 作成用の背景（メニューテーマ）を設定できます。
ライブラリ	「ライブラリ」情報の表示や、ライブラリ情報をパソコンにファイル出力することができます。
ネット de ナビ設定	ネット関連機能に必要な各種設定を行ないます。
編集リモコンモード	パソコンのマウスでリモコンの操作ができます。
ネット de リモコン	ブラウザにリモコン画面が表示され、本機を操作できます。
ネット de モニター	モニターが表示され、放送中の番組や録画番組を視聴できます。
iEPG1	ネット de ナビ設定の「録画予約ページアドレス 1」で設定した iEPG サイトが表示されます。出荷時には東芝の iEPG サイトが登録されています。
iEPG2	ネット de ナビ設定の「録画予約ページアドレス 2」で設定した iEPG サイトが表示されます。

番組の録画予約をする

録画予約がパソコンでもできます。

準備

• ネットdeナビを起動します。(⇨19ページ)

1 メインメニューの【録画予約一覧】をクリックする

現在予約されている録画予約の一覧が表示されます。

2 新しい予約をしたいときは【新規予約】を、予約内容を変更したいときは変更する予約名をクリックする

予約情報画面が表示されます。

3 設定する項目をクリックし、値を選ぶかデータを入力する

設定する内容は⇨26、27ページをご覧ください。

【削除】をクリックすると、その録画予約は解除され、録画予約の一覧から削除されます。

• 『W録(TS/RE)』でどれを選んだかで、設定できる他の項目が異なります。

4 設定が終わったら、【登録】をクリックする

録画予約が設定されます。

【戻る】をクリックすると、設定内容を変更せずに録画予約の一覧画面に戻ります。

つかいこなしのポイント！

録画するには、本機内蔵のハードディスク(HDD)がお勧めです。記憶容量が大きく、編集作業にも向いています。しかし、内蔵HDDは録画した内容の恒久的な保管場所ではありません。たいせつな映像や残しておきたい映像は、こまめにDVDディスクにダビングして保存してください。

お知らせ

• 録画予約時刻を設定するときは00：00〜30：59まで入力することができます。予約開始時刻側に24：00以降を入力して【登録】をクリックすると予約日付が次の日に変わり時刻が00：00〜06：59で表示されます。
• 時刻の重複する予約を登録すると、文字色を変えてお知らせします。(赤：時間帯が重複しているとき。青：終了時刻と開始時刻が同じなどのとき。HDDとDVDの予約混在時には、終了時刻が青文字で表示されない場合があります。)必要に応じて、時刻を変更してください。

設定項目

実行	「✓」あり	予約録画を実行します。
	「✓」なし	予約録画を実行しません。
予約名		予約名に好きな名前をつけることができます。 全角48文字、半角では96文字(DVDディスクの場合は全角32文字、半角では64文字)以内で入力します。
番組説明		番組の内容などを自由に入力することができます。 改行、空白も含めて全角400文字（半角800文字）以内で入力します。
ジャンル		録画する番組のジャンルを設定します。

項目	設定	説明
W録	TS	デジタル放送をTS録画するときに選びます。記録先は、HDDしか選べません。
	RE	録画品質で設定した画質で録画します。
CH	地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル、ライン入力A~C	録画したい放送メディアまたは、ライン入力を設定します。
	（地上A）1~64 （地上D）3けた+枝番 （BS_D）BS+3けた （110度CS）CS+3けた	録画したい番組のチャンネルを設定します。 （スキップ設定したチャンネルは表示されません。）
録画優先度（➡操作編86ページ）	手動で予約したとき：最優先	他の録画と重なった場合、他の録画を中止して、この設定をした録画を優先します。
	手動で予約したとき：ふつう	通常の設定です。（他の録画と重なったときは、優先度の高い方を優先します。）
	おまかせ自動録画のとき：非優先	通常、自動録画のときはこの設定を選びます。
	おまかせ自動録画のとき：優先	お気に入りのタレントの出演番組の設定など、録画優先度を高くしておきたいときにだけ、この設定にします。
	おまかせ自動録画のとき：ユーザー予約	「おまかせ自動録画」の自動予約で設定された予約を、手動で予約したときの設定に変更します。 優先度の項目は、「優先」→「最優先」、「非優先」→「ふつう」に変更されます。
予約日（毎予約）	今日から2ヵ月先(62日)の日付まで	録画したい番組の日付を設定します。
	毎日曜日～毎土曜日、毎月～木、毎月～金、毎月～土、毎日	連続ものの番組などで毎週や毎日録画したいときに設定します。
予約時間	00：00～30：59	録画の開始時刻です。（初期値として現在の時刻が表示されます。）
	00：00～30：59	録画の終了時刻です。現在時刻から2分以降で録画開始時刻から9時間以内（デジタル放送は24時間未満）が設定できます。
記録先	HDD	内蔵 HDD に録画したいとき。
	DVD	DVD-RAM/R/RW に録画したいとき。
記録先フォルダ		録画したタイトルをいれるフォルダを指定します。フォルダにいれない場合は「指定なし」を選びます。
録画品質*1（画質モード）	SP	録画時間、画質とも標準の設定です。（音質設定の「L-PCM」を選ぶと設定できません。）
	LP	長時間録画したいとき。ただし、画質は「SP」モードに比べると下がります。 （音質設定の「L-PCM」を選ぶと設定できません。）
	A1	録画直前のディスクの空き容量に合わせて自動的に画質レートを設定します。 （ディスクの空き容量が足りない場合は、番組の最後まで録画できません。） 内蔵 HDD に録画すると、4.7GB の DVD 未使用ディスクにダビングできる時間分を録画します。 約 4 時間以上の番組は設定できません。
	A2	未記録の両面ディスクになるべく高画質でおさまるように、自動的に画質レートを設定します。 「記録先」は「HDD」に固定されます。録画後のタイトルは容量が片面ディスク2 枚分で、中間点で前後二つのチャプターに分かれています。それぞれのチャプターをディスクにダビングすることで、容量のむだのない、高画質の保存ができます。
	DL	未記録のDVD-R DL（2層）に、なるべく高画質でおさまるように自動的に画質レートを設定します。内蔵HDDに録画して、あとでDVD-R DL（2層）ディスクにダビングするという使いかたもできます。
	MN	1.0、1.4 または 2.0～9.2 の範囲で 0.2Mbps ずつ任意に指定できます。（音質の設定値によって、設定できる上限値が変わります。）
	高レート節約	最高画質レートで録画しながら容量をなるべく節約したいときに選択します。 通常は最高レートの 9.2Mbps で録画をし、映像に変化が少なく高いレートを必要としない部分だけ、一時的にレートを下げて録画します。（音質を L-PCM に設定しているときは、8.0Mbps になります。）
録画品質*1（音質）	M1（DD D/M1）	標準の音質です。
	M2（DD D/M2）	DD D /M1 よりも良い音質で、音楽番組に適しています。
	L-PCM	圧縮していないデジタル音声で最もよい音質ですが、録画できる時間は短くなります。
スポーツ延長*2	しない	スポーツ延長機能は働きません。
	自動 手動／30分 手動／60分 手動／120分	野球中継などの番組の放送時間延長の可能性がある場合に録画予約の終了時刻を自動的に延長します。 （➡操作編 89 ページ）
番組追っかけ*2	しない	番組追っかけ機能は働きません。
	する	予約している番組の放送時間が変更になった場合、それにあわせて録画予約の開始／終了時刻を自動的に変更します。（➡操作編 88 ページ）
自動削除	しない	タイトル自動削除の対象にしません。
	容量不足時	内蔵 HDD の容量が不足した場合に削除の対象となります。
映像選択*2		マルチビュー放送の場合、どのチャンネルで録画するかを設定します。設定する内容は放送によって異なります。 デジタル放送がマルチビューの情報を含まない場合は、設定することができません。 （デジタル放送をTSで録画する場合は、すべて記録されます。）
音声選択*2		デジタル放送には最大で八つの音声がある番組があり、番組によってどの音声で録画するか設定します。 （デジタル放送をTSで録画する場合は、すべて記録されます。）
DVD 互換モード *1	切（主+副で記録されます。）	DVD-R/RW（Videoフォーマット）にあとでダビングすることを前提としません。画質・音質の設定によってはDVD-R/RW（Videoフォーマット）にダビングできない場合もあります。
	主音声（主で記録されます。）	DVD-R/RW（Videoフォーマット）にあとでダビングできる状態で録画し、音声多重放送の場合、元の主音声だけを左チャンネルと右チャンネルにそれぞれ記録します。
	副音声（副で記録されます。）	DVD-R/RW（Videoフォーマット）にあとでダビングできる状態で録画し、音声多重放送の場合、元の副音声だけを左チャンネルと右チャンネルにそれぞれ記録します。
ライン音声選択 *1	ステレオ	ステレオで記録します。
	L	左チャンネルの音声だけを記録します。
	R	右チャンネルの音声だけを記録します。
	主+副	内蔵HDD、DVD-RAMやDVD-R/RW（VRフォーマット）に録画する場合、二カ国語放送などを二重音声で記録するときに選択します。
録画ののりしろ	切	のりしろ録画をしません。
	入	番組の前後約5秒をのりしろとして余分に録画します。
無音部分自動チャプター分割*3	切	この機能は働きません。
	入	音声がない（聴感上音のない）部分で自動的にチャプターを分割します。
マジックチャプター／シーン	切	この機能は働きません。
	入	それぞれの番組に適した位置で自動的にチャプター分割します。
マジックチャプター／本編	切	この機能は働きません。
	入	番組の本編とそれ以外（CMなど）の切り換わり目を自動判別し、チャプター分割します。

*1 この設定は「W録」で「RE」を選んだときにだけ有効な設定です。
*2 この設定は番組表から予約した番組だけ、変更が可能です。
*3「無音部分自動チャプター分割」は「TS」での録画には働きません。

iEPG ／番組ナビのチャンネル名を設定する

iEPGを利用するための設定です。

iEPG 録画予約サイトからの録画予約や番組情報取得をするチャンネルを追加／変更するための設定です。ここで追加／変更したチャンネル名設定（「iEPG で利用するチャンネル名」を除く）は「番組ナビ」側でも連動して変更されます。

登録してあるチャンネル名を削除するときは、削除するチャンネル名の「No.」を選んだあと、【削除】をクリックします。

1 メインメニューの【ネットdeナビ設定】をクリックする

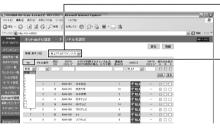
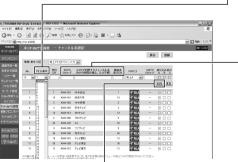
ネット de ナビ設定画面が表示されます。

2 【チャンネル名設定】ボタンをクリックする

チャンネル名設定画面が表示されます。

3 登録または変更する放送メディアを選ぶ

4 「No.」を選ぶ

変更する場合は、変更したいチャンネル名の番号を選択します。

5 「リモコン番号」を選ぶ

6 「DEPG CHコード」、「iEPGで利用するチャンネル名」と「番組表表示CH」を入力する

DEPG CHコード（導入・設定編92ページ～）：番組情報の取得に使用されます。（デジタル放送の設定はできません。）

iEPGで利用するチャンネル名：iEPG録画予約サイトからの録画予約時に使用されます。

番組表表示CH：「番組ナビ」の番組表で表示される番号を設定します。半角英数字5けたまで入力できます。入力しない場合は空白となります。

ご注意

「iEPGで利用するチャンネル名」は、全角半角の違いも含め、一字一句正確に登録されなければ正しく予約ができません。さらに「iEPGで利用するチャンネル名」で設定した放送局と、本機のリモコン番号が正しく設定されなければ、予約したはずの番組と異なるチャンネルの番組が録画されてしまいます。また、導入・設定編の放送局一覧表に記載されているチャンネル名(放送局名)と異なる場合がありますので、ご注意ください。

7 「CHロゴ」を選ぶ

必要に応じてロゴを設定します。

8 「ONTV CHコード」を入力する

ONTV のメール予約を使用する際のチャンネルコードを設定します。設定しない場合は空白となります。本機の「メール録画予約」機能は、オンティービー株式会社が「ONTV JAPAN」サイトで提供している無料サービスです。サービス内容および仕様につきましては変更となることがあります。その際の動作について当社は保証できません。

9 「絞り込み表示」を設定する

番組表での絞り込み表示A・B・Cのどれで表示するかを指定します。
表示させたい絞り込み項目をクリックして✓をつけます。

10 【更新】をクリックする

画面上の設定が更新されますが、【登録】をクリックするまでは、本機に反映されません。

11 必要に応じて手順3 ～10 をくり返す

アナログ放送50件/デジタル放送70件まで設定することができます。

12 設定が終わったら、【登録】をクリックする

【登録】をクリックすることで本機に更新内容が反映されます。
【登録】をクリックせずに【戻る】をクリックすると、設定内容を保存せずにネットdeナビ設定画面に戻ります。

ネットdeナビ対応のブラウザで新しいウィンドウを開き、http://www.rd-style.com/epg/を開いて、iEPGで利用するチャンネル名とDEPG CHコードはそこからコピーし、該当欄に貼り付けると便利です。
L1～L2は接続した受信機器にあわせて設定してください。

お知らせ

- 表示CHやCHコードを登録する際に、「iEPGで利用するチャンネル名」を空欄にすることで、自動的にチャンネル名を表示し、チャンネル名変更などへ自動対応するモードとなりますが、完全な動作を保証するものではありません。また、手動で「iEPGで利用するチャンネル名」を変更した場合、自動対応は行なわれません。
- 内蔵チューナーの受信チャンネルを変更することはできません。本体の設定メニューのチャンネル設定を行なってください。

iEPG で録画予約をする

パソコンでも番組表が利用できます。

※本機がブロードバンド常時接続環境のパソコンとルーターを使って接続されていない場合は、iEPG予約をすることはできません。

準備

① 常時接続環境にあるパソコンと接続※（➡15ページ）
② 「ネットdeナビ設定」の「番組情報サイトの設定」（➡20ページ）
③ 「チャンネル名設定」（➡28ページ）
④ iEPGサイトによっては事前に会員登録やID登録が必要です。

1 【iEPG1】または【iEPG2】をクリックする

【iEPG1】 ネットdeナビ設定の「録画予約ページアドレス1」で設定したiEPGサイトが表示されます。出荷時には東芝のiEPGサイトが登録されています。

【iEPG2】 ネットdeナビ設定の「録画予約ページアドレス2」で設定したiEPGサイトが表示されます。

2 iEPG サイトで録画したい番組を検索するか番組表を表示し、【iEPG 録画予約】などのアイコンをクリックする

録画予約の操作は各サイトで異なります。各サイトをご覧ください。

3 予約情報を確認し、必要に応じて項目を変更する

4 【登録】をクリックする

本機に録画予約が設定されます。
ネットdeナビ、または番組ナビ－録画予約一覧などで予約内容を確認してください。

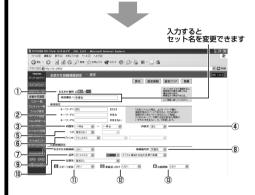
つかいこなしのポイント！

録画予約を続けて操作したい場合は、「ネットdeナビ設定」の「ネットdeナビ動作の設定-iEPG予約画面表示設定」（➡22ページ）から「別ウィンドウで表示する」を選択して設定します。予約情報画面の「次回から別ウィンドウで表示する」チェックをつけたりはずしたりすることでも、この設定を切り換えることができます。

お知らせ

- iEPGは、ソニー株式会社が提唱しているインターネットでの録画予約方式です。
- 予約録画開始時刻や本機の動作状態によっては、予約録画ができない場合があります。
- インターネットの通信状態（混雑など）によっては、iEPG予約サイトの表示や動作が正しく行なわれない場合があります。また、iEPG予約サイト側の都合で、そのサービスが一時的に停止したり、サービス自体が終了される場合があります。

おまかせ自動録画の設定をする（おまかせ設定）

「お気に入り番組リスト」や「シリーズ番組リスト」から自動録画をするための設定を行ないます。
本体の「おまかせ自動録画設定」と同じ内容を、ネットdeナビからも設定／変更することができます。

1 メインメニューの【おまかせ設定】をクリックする

2 新規設定の場合は空いている行の【新規設定】を、設定変更の場合は変更する行のセット名をクリックする

※キーワード入力が不要な「お楽しみ番組」を設定するときは、【お楽しみ番組】をクリックします。（操作編74ページ）

3 各項目をクリックし、条件を設定する

各項目の設定が終わったら【登録】をクリックしてください。

①おまかせ種別： お気に入り番組リストの条件かシリーズ番組リストの条件かを選びます。
②キーワードを入力します。
詳しくは操作編 73 ページをご覧ください。
③時間帯： 検索する時間帯を指定します。
④再放送： 再放送番組を検索対象に含めるかどうかを選びます。
⑤ CH： 検索するチャンネルを指定します。（連動していない外部機器のチャンネルはおまかせ自動録画はできません。）
⑥ジャンル： ジャンルを設定します。

⑦おまかせ自動録画： ここでのキーワードで検索された番組を一日合計何時間まで自動録画の対象にするかを選びます。

以降は「おまかせ自動録画」をする場合に設定します。
⑧録画優先度： 操作編 86 ページ
⑨品質： 録画品質を選びます。操作編 59 ページ
⑩記録先： 録画したタイトルの保存先を選びます。
⑪スポーツ延長： 操作編 89 ページ
⑫番組追っかけ： 操作編 88 ページ
⑬自動削除： 操作編 63 ページ

つかいこなしのポイント！

ネットdeナビから登録した場合は、検索の実行が翌日以降になることがあります。すぐに検索をしたいときは、本体側でキーワードを登録することをお勧めします。

●おまかせ自動予約のメール通知について
ネット de ナビ、または番組ナビで設定したおまかせ自動予約の設定によって、
自動で録画予約をしたときに、メールでお知らせする機能です。ただし、「お楽しみ番組」のおまかせ自動予約は、メール通知されません。
・メール録画予約機能の設定 : おまかせ自動予約の通知で「通知する」を選択する。(21 ページ)
例 (RD-E302 の場合)

- -

件名 <SUBJECT>:
RD-E302 からのお知らせ (おまかせ自動予約)
本文 <B O D Y>:
「おまかせ自動予約」として以下の予約が追加されました。
=[001]==============
◆お気に入り予約◆
2008/11/25(火)
00:35-01:04 CH8 RE 非優先
お台場の犬と猫

録画した番組のタイトル情報を見る／変更する

録画してあるタイトルが、パソコンの画面で一覧表示できるんだ。
タイトル情報※の修正も、もちろんOK!

※・本機以外で録画したDVD-R/RW（Videoフォーマット）は表示、変更はできません。
・ファイナライズ済みのDVD-R/RWでは表示だけで変更はできません。

リスト一覧で表示／変更する

各フォルダ内を表示するときは、フォルダ名をクリックします。

各フォルダ内表示からルート上一覧表示へ戻るときにクリックします。

○にチェックしたフォルダ内のタイトルやプレイリストを、すべてごみ箱に移動したいときに選びます。

○にチェックした項目の情報が表示されます。タイトル名の変更、フォルダへの移動、再生や削除ができます。移動／変更を行なったあと、【登録】をクリックすると、設定が本機に反映されます。

カギ付きフォルダが開錠されている場合、カギが色付きで表示されます。カギ付きフォルダを施錠するときはアイコンをクリックします。（施錠時はグレー表示）

お楽しみ番組
「お楽しみ番組」で自動録画されたタイトルが保存されます。
ある条件を満たすと、フォルダのアイコンが変化します。

項目名をクリックするたびに昇順／降順で並べ替えができます。

クリップ映像
「おすすめサービス」からダウンロードしたクリップ映像が保存されます。

チェックをつけると、タイトル名などの情報が表示されます。

カギ付きフォルダ

開錠している

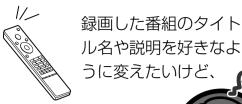
施錠している

ごみ箱

タイトルがはいっている

タイトルがはいっていない

お知らせ

- 本体動作中（再生中など）は変更ができません。
- 番組説明は、プレイリストでは表示されません。
- 「保護」されているタイトルがはいっているフォルダや、クリップ映像フォルダ、施錠されている「カギ付きフォルダ」はまとめてごみ箱に移動できません。

1 **メインメニューの【リスト一覧】をクリックする**

リスト一覧が表示されます。
内蔵HDD、DVD-RAM/R/RWに録画された内容がタイトルごとに一覧表示されます。
【記録先】【属性】【番号】【タイトル名】【CH】【録画年月日】【曜日】【時分】【時間】【ジャンル】をクリックすると、その項目で並べ替えて表示します。

2 **情報を見たり、変更したいタイトルの【タイトル名】をクリックする**

タイトルの詳細とチャプターの一覧が表示されます。
変更できる場所は文字入力が可能になっています。

3 **変更する場合は、項目をクリックし、値を選ぶかデータを入力する**

設定する内容は、以下の「設定項目」をご覧ください。

4 **設定が終わったら、【登録】をクリックする**

タイトル情報が設定されます。
【登録】をクリックせずに【戻る】をクリックすると、設定内容を変更せずにタイトル一覧表示に戻ります。

設定項目

タイトル名	―	録画したタイトルに好きな名前をつけることができます。 全角48文字、半角では96文字(DVDディスクの場合は全角32文字、半角では64文字)以内で入力します。
録画年月日	―	録画した年月日と開始時刻を変更できます。
ジャンル	―	録画した番組のジャンルを設定できます。
保護	保護	録画したタイトルを誤って削除したり、編集したりしてしまわないように保護します。
	非保護	録画タイトルを保護しません。
番組説明	―	番組の内容などを自由に入力できます。 改行、空白も含めて全角400文字（半角800文字）以内で入力します。
チャプター名	―	チャプターに好きな名前をつけることができます。 全角48文字、半角では96文字(DVDディスクの場合は全角32文字、半角では64文字)以内で入力します。

本体の見るナビのようにサムネイル表示もできます。

記録先 HDD　番号 013　タイトル名　100 匹のネコ

属性	CH	録画年月日	曜日	時分	時間	ジャンル	保護
オリジナル	021	2008/11/17	月	17:55	0:05:00	ジャンルなし	非保護

タイトル情報の変更※ももちろんできるよ！
リスト一覧と比べて表示するのに多少時間がかかります。

※　・本機以外で録画したDVD-R/RW（Videoフォーマット）は表示、変更はできません。
　　・ファイナライズ済みのDVD-R/RWは表示だけで変更はできません。

サムネイル一覧で表示／変更する

1 メインメニューの【サムネイル一覧】をクリックする

サムネイル一覧が表示されます。
内蔵HDD、DVD-RAM/R/RWに録画された内容がタイトルごとに一覧表示されます。

- フォルダ内に移動するときはアイコンかフォルダ名をクリックします。
- ページを切り換えるには、[◀][▶]をクリックします。

2 情報を見たり、変更したいタイトルのサムネイルまたは【タイトル名】をクリックする

タイトルの詳細とチャプターサムネイル一覧画面が表示されます。
変更できる場所は文字入力が可能になっています。

3 変更する場合は、項目をクリックし、値を選ぶかデータを入力する

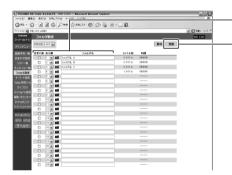
4 設定が終わったら、【登録】をクリックする

タイトル情報が設定されます。
【登録】をクリックせずに【戻る】をクリックすると、設定内容を変更せずにタイトル一覧表示に戻ります。

お知らせ

- 本体動作中（再生中など）は変更ができません。
- 番組説明は、プレイリストでは表示されません。
- 以下の場合、サムネイルが黒くなったり、表示されないことがあります。
  －本体動作中（再生中など）
  －コピー制限のある番組を録画したタイトルやチャプターのサムネイル
  －DVD-R/RW（Video フォーマット）に記録されたタイトルサムネイルとチャプターサムネイル
- 本体側で一度もサムネイル表示していない番組は、パソコン側では黒画面になりサムネイル表示がされません。その場合、本体側の「見るナビ」でサムネイル画面の表示をしてみてください。（表示できないサムネイルもあります。）
- Macintosh コンピューターの場合は、サムネイルをクリックしてもチャプターサムネイル一覧は表示されません。

フォルダを設定する

本体の見るナビのフォルダ機能の設定を、ネットdeナビでもできます。
使用できる機能は「フォルダ名の設定」「フォルダ名の変更」「フォルダの解体」「フォルダの移動」です。

1 **メインメニューの【フォルダ設定】をクリックする**

2 **フォルダ名の設定や変更をしたいフォルダを選び、設定する**

- フォルダ名の空欄部分に文字を入力したり、現在ついている名前を変更します。
  フォルダ名は全角で「ルート」、「クリップ映像」、「お楽しみ番組」、「ごみ箱」、「カギ付き」、「指定なし」の文言を含む名前の設定はできません。ただし、半角による設定はできます。例：半角による「ﾙｰﾄ」
- 【変更対象】欄をクリックし、✓をつけて【解体】をクリックすると、✓をつけたフォルダは解体され、フォルダ内のタイトルはルート上に表示されます。
  （保護設定されたタイトルを含むフォルダは解体できません。）
- 画面内の「ドライブ」でHDD/DVDを切り換えることができます。ディスクのフォルダ設定をするときは、設定するディスクを本機にセットしてください。

3 **設定が終わったら、【登録】をクリックする**

フォルダが設定されます。
【登録】をクリックしないと、設定が更新されません。

キーワードを設定する

ネットdeナビからキーワード登録が簡単に行なえます。
登録したキーワードは本体の「番組ナビ」、「見るナビ」、「編集ナビ」などで文字を入力する際、呼び出して使用できます。

「き」、「ょ」、「う」、「の」

「今日の」

パソコンを使えば
キーワード登録も
らくらく

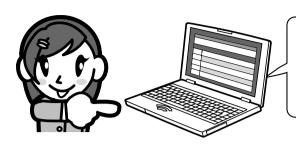
1 メインメニューの【キーワード設定】をクリックする

2 登録したい語句を改行で区切って入力する

キーワードは全部で40件まで登録できます。

3 設定が終わったら、【登録】をクリックする

キーワードが設定されます。
【登録】をクリックしないと、設定が登録されません。

ライブラリ情報を使う（ライブラリ）

ライブラリ情報が、パソコンの画面でも使えるの。

ネット de ナビなら、ライブラリ情報をパソコンに保存することもできて便利！

注意：DVD-R/RW（Videoフォーマット）は、規格上の制約によりライブラリで管理することはできません。

メインメニューの「ライブラリ」をクリックする

見たいタイトルの格納先ディスクを探す

■ライブラリ情報の並べ替え

並べ替えたい項目の見出しをクリックする

【記録先】【タイトル名】【CH】【録画年月日】【曜日】【時分】【ジャンル】【残量(時分)】をクリックすると、その項目で並べ替えて表示します。

お知らせ

- ここでの並べ替えの結果と、本体側のライブラリで並べ替えた結果は、一部異なる場合があります。
- 「残量再計算」の設定を変更すると、変更した録画品質の設定に対応した残量に変わります。
- 残量再計算で表示する設定は、「録画品質設定」で変更できます(操作編43ページ)。

■ライブラリ情報の絞り込み

絞り込みたい内容そのものをクリックする

たとえば、火曜日の番組を絞り込みたいときは、一覧の中の【火】の文字をクリックします。

– 一度絞り込んだ項目をクリックすると、その項目での絞り込みが解除されます。
– 【絞り込み解除】ボタンをクリックすると、すべての絞り込みが解除されます。

■キーワードで検索する

入力欄にキーワードを入力し、【検索】をクリックする

入力したキーワードを含むタイトルが表示されます。

タイトルの情報を見る

タイトル名をクリックすると、タイトル情報が表示されます。

お知らせ

- ここでは、タイトル情報を変更できません。

ライブラリ情報をパソコンにファイル出力する

【CSV保存】をクリックする

ライブラリ情報がCSV形式で保存されます。
パソコン側の画面の指示にしたがって、保存の操作をしてください。

お知らせ

- CSV形式での保存は、ライブラリ表示の初期状態(並べ替え、絞り込みが反映されない状態)で行なわれます。

全ディスク番号ごとの残量一覧を表示する（ディスク名一覧）

【ディスク名一覧】をクリックする

本機に登録された全DVD-RAM、DVD-R/RW(VRフォーマット)について、ディスク番号、ディスク名、録画品質に応じたそれぞれのディスク残量を一覧表示します。
項目の見出し部分をクリックするたびに、その列を基準にリストを並べ替えることができます。

お知らせ

- ディスクの残量は本体側でディスクの登録をしないと表示されません。
- 残量設定1～5で表示する設定は、「録画品質設定」で変更できます。(操作編43ページ)
- タイトルの項目内容をクリックすると、クリックしたデータで絞り込みができます。
- 並べ替えは過去三つまでの並べ替え結果を保持します。

DVD-Video 作成用の背景（メニューテーマ）を設定する

DVD-R/RW作成時、あらかじめ本体側で用意された8種類のメニューテーマとは別に16個の背景画像の追加と設定ができる機能です。

■準備するもの

メニュー画面で使いたい画像 (Windows ビットマップ形式 (bmp) ※1・24bit カラー・720x480 ※2 ピクセル)

1 メインメニューの【Video 作成ツール】をクリックする

Video 作成ツール画面が表示されます。

2 メニューテーマに使いたいビットマップファイルを指定する

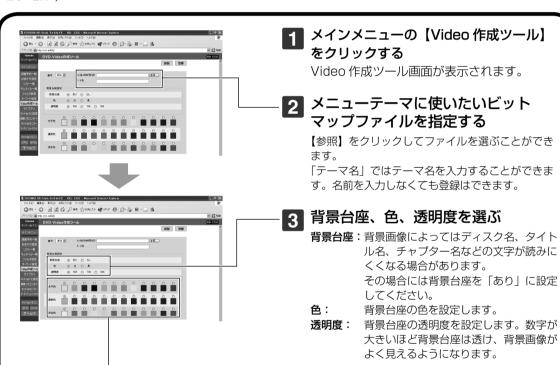
【参照】をクリックしてファイルを選ぶことができます。

「テーマ名」ではテーマ名を入力することができます。名前を入力しなくても登録はできます。

3 背景台座、色、透明度を選ぶ

背景台座： 背景画像によってはディスク名、タイトル名、チャプター名などの文字が読みにくくなる場合があります。
その場合には背景台座を「あり」に設定してください。

色： 背景台座の色を設定します。

透明度： 背景台座の透明度を設定します。数字が大きいほど背景台座は透け、背景画像がよく見えるようになります。

4 文字色、選択色、決定色を選ぶ

文字色： メニューに表示するディスク名、タイトル名、チャプター名、ページ番号、タイトル・チャプター時間の文字色です。
※タイトルメニューへの【戻る】ボタンの文字色は変更できません。

選択色： メニューを選択したときの色です。

決定色： メニューを決定したときの色です。

5 【登録】をクリックする

設定したメニューテーマが本機に登録されます。

※ 1 同ファイル形式であれば Mac OS からもそのまま登録できます。
※ 2 パソコンとテレビの画面とでは表示のしかたが異なるため、パソコン上で正常に見えた画像がテレビ上では縦長に見えてしまいます。パソコン上で始めに 640 × 480 ピクセルのサイズで画像を作成し、それを 720 × 480 ピクセルのサイズに横長に引き延ばした画像を背景に使用すると、テレビ上で違和感のない背景になります。

ユーザ・メニューテーマを削除する

【番号】を選び、【削除】をクリックする

つかいこなしのポイント！

登録する画面のサンプル集・作成上のポイント・DVD-Videoメニュー構造などの情報や、より高度なテクニックなどについては、http://www.rd-style.com/mydvd/をご覧いただき、ご活用ください。

登録したユーザ・メニューテーマを本体側で使用するには

「DVD-Video作成」や「DVDファイナライズ」の「タイトルメニューテーマ選択」「チャプターメニューテーマ選択」で »→ を押して、登録したメニューテーマを表示して選択してください。←« を押すとあらかじめ用意されたメニューテーマに戻ります。(操作編147、149ページ)

e メールで録画予約をする

外出先などからeメールで録画予約をすることができます。

準備（※11 ページの制限事項もお読みください。）

- 本機をブロードバンド常時接続環境にあるパソコンと接続し（15ページ）、各機器の電源を入れておきます。
- 「ネットdeナビ設定」の「メール録画予約機能の設定」をします。（21ページ）
- メールソフトウェアの設定をテキスト形式に変更します。（メール予約は、HTML形式のメールに対応していません。）
- 実際の録画予約をする前に、メール予約ができることを確認しておくことをお勧めします。

1 eメールの送信先（To:）を入力する

「メール録画予約機能の設定」（21ページ）で設定した「メールアドレス」を入力します。
例　XXXXXXXX@XXX.XXX.ne.jp

2 eメールの本文に録画予約の内容を入力する

文字はすべて半角で入力します。
それぞれの項目の間は、半角スペースを一つずつ入力します。
項目と設定内容は、次ページの表をご覧ください。

例　省略可能

項目を省略したときは、本機の「設定メニュー」で選んだ設定になります。
設定メニューにない項目は、次ページの表の*印の設定で録画されます。
⑲W録は、デジタル放送のチャンネルなら「TS」それ以外は「RE」に設定されます。

つかいこなしのポイント！

お使いのメールソフトウェアや携帯電話に、録画予約メールの定型文を登録しておくと便利です。

設定したパスワード

例　open rdstyle prog add 20081221 2100 2154 1

予約メールのとき入れる　年月日　開始時刻　終了時刻　チャンネル

年月日／開始時刻／終了時刻／チャンネル部分を録画したい番組にあわせて変更します。
省略可能な設定項目は、お好みで定型文に登録しておくと良いでしょう。

メール録画予約の設定項目

No.	項目		設定
①	open		予約メールの先頭に入れます。
②	メール予約パスワード		設定したパスワードを入力します。(⇨21ページ)
③	年　月　日		西暦４けた（年）　01〜12（月）01〜31（日）（予約できるのは当日を含めて２カ月後までです。）
④	録画開始時刻（時）（分）		00〜23（時）　00〜59（分）
⑤	録画終了時刻（時）（分）		00〜23（時）　00〜59（分）
⑥	CH	地上アナログ	1〜64
		地上デジタル	DXXX-X※
		BSデジタル	BSXXX※
		110度CSデジタル	CSXXX※
		専門チャンネル	C-XXX※(番組ナビ「チャンネル設定」でチャンネルを登録しているときは、対応するライン入力に切り換わります。)
		ライン入力	L1、L2
⑦	録画優先度	ふつう*	YS
		最優先	YX
⑧	画質	SP	VS
		LP	VL
		A1	VA1
		A2	VA2
		DL	VD
		マニュアル（1.0,1.4Mbps, 2.0〜9.2Mbps）	「VM」に続けて、小数点を除いたビットレート数（2.0〜9.2の範囲で0.2Mbpsずつ任意に指定できます）を２けたで入力します。 VM10、VM14, VM20〜VM92（音質がLPCMのときはVM80（8.0Mbps）まで）
⑨	音質	M1	A1
		M2	A2
		LPCM	AL
⑩	記録先	HDD*	SH
		DVD	SD
⑪	自動削除	しない*	KN
		容量不足時	KY
⑫	DVD互換	切	DN
		主音声	DM
		副音声	DS
⑬	高レート節約	しない*	HN
		する	HY
⑭	ライン音声選択	ステレオ	LS
		L	LL
		R	LR
		主＋副	LD

No.	項目		設定
⑮	無音部分自動チャプター分割	切*	CN
		入	CY
⑯	マジックチャプター／シーン	切	CMN
		入	CMY
⑰	マジックチャプター／本編	切	CPN
		入	CPY
⑱	録画のりしろ	切	ELN
		入	ELY
⑲	W録	TS*	RT1
		RE*	R1
⑳	予約の入／切	入(予約を実行する)*	RY
		切(予約を実行しない)	RN

アルファベットは大文字、小文字どちらも使えます。
※「XXX」はチャンネル番号です。地上デジタルの -X は枝番です。同じチャンネルに二つ以上の枝番号があるときは、枝番号まで正しく指定してください。枝番号を指定しないと、意図しない放送が予約されることがあります。

お知らせ

- 改行して2行目に予約名が入れられます。
- 予約メールを送信するソフトによっては1行目が長いと改行されてしまうことがあり、予約内容が正しく認識されません。
- ⑲のW録に「TS（RT1）」を選んだときは、画質と音質の設定、⑮を「入」に設定することはできません。また、⑩の記録先は「HDD（SH）」を選んでください。
- ⑥でデジタル放送のチャンネルを選んだときは⑮を「入」に設定できません。

e メール予約の便利な機能

■ 予約メールの受信

本機が電源入り状態では、設定された時間の間隔で、POPサーバから予約メールを受信します。本機が電源待機状態では、一日8回(2時/5時/8時/11時/14時/17時/20時/23時の「ネットdeナビ設定-電源OFF時のPOP3アクセス時間の分」で設定された「分」)に予約メールを受信します。

お知らせ
- 「番組ナビ設定-地上アナログ／ライン入力の番組データ取得」でADAMSを選択している場合、ADAMSの番組データの受信中に予約メールの受信時刻になると、予約メールの受信が次回に延期されます。

■ メール予約ができたら（録画予約完了メール）

本機が予約メールを受信すると、録画予約の完了または録画予約の失敗の通知をメールで受信できます。以下の設定をしてください。
- 「メール通知機能」を「指定アドレスと送信元アドレスへ通知」、「送信元アドレスへ通知」または「指定アドレスへ通知」に設定する。(21ページ)
- 「メール通知機能」を「指定アドレスと送信元アドレスへ通知」または「指定アドレスへ通知」に設定した場合は、「メール通知用の指定アドレス」に録画予約完了メールを受け取るメールアドレスを入力する。(21ページ)

● 録画予約ができた場合

例（RD-E302の場合）

件名 <SUBJECT>:
RD-E302 からのお知らせ
本文 <B O D Y>:
メール予約を行いました。
◆ユーザー予約◆
録画日　2008/11/25（火）
録画開始時刻　17:30
録画終了時刻　18:00
チャンネル　CH12
エンコーダ　RE
録画優先度　ふつう
mailto※:　メールアドレス(ネットdeナビ設定で設定したメールアドレス）?subject=件名(RD-E302の予約を削除します。）&body=open%20パスワード（ネットdeナビ設定で設定したパスワード）%20prog&20del%20予約ID（予約したID）

※mailtoとは...mailtoを選んで決定すると、簡単に予約を削除するメールが作成できます。ただし、mailto機能に対応した携帯電話またはメールソフトであることが必要です。

● 録画予約に失敗した場合

録画予約ができなかった理由が通知されますので、確認してください。

お知らせ
- 本体側でエラーが発生しているときは、録画予約ができません。
  予約できない理由として以下のような内容があります。
  －録画開始時刻が現在時刻から15分以降でなかった。
  －録画終了時刻が現在時刻から15分以降で、録画開始時刻から9時間以内(TS録画は24時間未満)でなかった。
  －手動で予約できる件数(64件)がいっぱいになっていた。
- 本体側のテレビ画面でナビ画面などを表示中は、メールの送受信ができません。

■ e メールで録画予約の設定情報を確認する

eメールで録画予約の設定情報を確認することができます。
eメールの本文に次のように入力します。

例　open rdstyle prog list l d e5

- 省略可能（e5）
- 予約数（5）
- 詳細（d）
- 表示レイアウト（ロング）（l）

お知らせ
- 文字はすべて半角で入力し、項目の間はスペースをひとつずつ入力してください。
- 「l」（エル）を入力した場合は、1行表示が長く表示され、省略すると改行された短いリストが表示されます。
- 「d」を入力した場合は、「録画予約」の詳細が表示され、省略すると簡略されたリストが表示されます。
- 「e」を入力した場合は、「e」に続けて数値を入力することで、1回のメールで受信可能な予約(録画情報)数を指定できます。指定可能な数値は1～9です。ただし、情報量が多いときには、指定された数値より少ない予約数しか得られない場合があります。

■ e メールで残量を確認する

eメールで内蔵HDDの残量を確認することができます。
eメールの本文に次のように入力します。

例　open rdstyle prog remain

- 残量（remain）

お知らせ
- 文字はすべて半角で入力し、項目の間はスペースをひとつずつ入力してください。

リモコン画面で操作する

ブラウザに表示されたリモコン画面で本機を操作できます。

RD シリーズを複数台持っているときや、リモコンがみつからないときに、付属品のリモコンのように、パソコンから本体を操作することができるから便利だね。

リモコンは、Javaアプレットで構成されています。
RDシリーズを複数台お使いの場合、付属品のリモコンではリモコンモードの数の割り当てに限りがありますが、パソコンの画面上に表示されるリモコンなら、その制約はありません。

※お使いのパソコンがWindowsの場合はJava VM1.5、 Mac OSXの場合は Java VM1.4.2がインストールされている必要があります。 詳しくは ➡10ページ「動作環境について」をご覧ください。

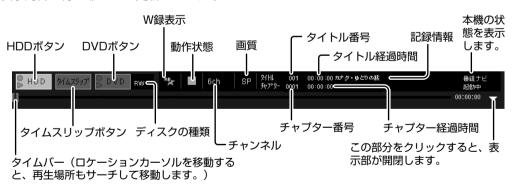
1 メインメニューの【ネットdeリモコン】をクリックする

ネットdeナビウィンドウにリモコン、表示部が表示されます。

2 リモコン画面のボタンをクリックする

リモコン本体のボタンが押されたときと同じ動作をします。

表示部の見かた

例（表示内容は約 1 秒ごとに更新されます。）

お知らせ

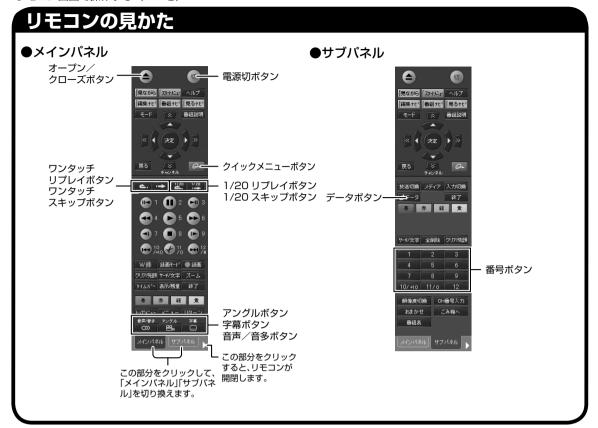
- 本機の動作状態やネットワーク内の通信状態によっては、リモコン画面の表示に時間がかかったり、リモコンの操作に対して本機が反応するのに時間がかかる場合があります。
- ディスクによっては機能しないことがあります。
- うまく表示できない場合、ブラウザのキャッシュをクリアしてみてください。
- 同一ネットワーク内で本体を複数台ご使用になる場合は、「リモコンアクセスポート番号」をそれぞれ別の番号に設定してください。（➡22ページ）

リモコンの見かた

●メインパネル

オープン／クローズボタン
電源切ボタン
クイックメニューボタン
ワンタッチリプレイボタン
ワンタッチスキップボタン
1/20 リプレイボタン
1/20 スキップボタン
アングルボタン
字幕ボタン
音声／音多ボタン
この部分をクリックして、「メインパネル」「サブパネル」を切り換えます。
この部分をクリックすると、リモコンが開閉します。

●サブパネル

データボタン
番号ボタン

ネット de キーボード

リモコン画面が表示されているとき、本体側で文字入力画面を起動させた場合、ネットdeキーボードの画面がパソコン側に表示されます。

（例）

ネットdeキーボードを使って入力し、【決定】をクリックすると、本体側の文字入力画面に反映されて、ネットdeキーボードが閉じます。

お知らせ

- ネットdeキーボードで【キャンセル】をクリックすると、本体側の文字入力画面に反映しないで、ネットdeキーボードが閉じます。

パソコンのキーボードで操作する

パソコンのキーボードで本体を操作できます。

1

メインメニューの【キーボードショートカット】をクリックする

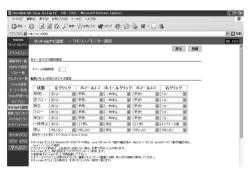
キーボードショートカットの一覧表が表示されます。
キーボードの種類や使用環境によっては、表のように動作しない場合があります。

編集リモコンで操作する

パソコンのマウスでリモコンの操作ができます。

● 編集リモコンを設定する

リモコン画面が起動しているときは、終了してから設定してください。

1. メニューの【ネット de ナビ設定】をクリックする
2. 【リモコン／モニター設定】ボタンをクリックする

リモコンの設定画面が表示されます。

3. マウスで操作する動作を、用途に合わせて変更する
4. 【登録】をクリックする

お知らせ

- 「ホイール回転閾値」にはマウスで操作するときの回転数を入れてください。
- 「編集リモコンのカスタマイズ設定」では、マウスの各操作時の本体動作を設定してください。
- 編集リモコンはJava VM Ver.1.5(Mac OS Xは1.4.2)がインストールされている必要があります。お持ちのWWWブラウザで利用できるJavaのバージョンの確認をするには、画面の「Javaバージョンの確認」ボタンをクリックしてください。入手の方法は、➩10ページをご覧ください。

● 編集リモコンを使う

リモコン画面上枠内でパソコンのマウスを操作します。

1. メニューの【編集リモコンモード】をクリックする

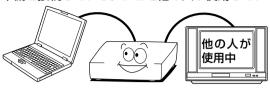
この枠内でマウスポインターを当てて操作を行ないます。枠内以外のところでクリックなどしても動作しません。

編集リモコンの設定にしたがって、本体が動作します。

お知らせ

- リモコン画面表示中に編集リモコンの設定をした場合は、リモコン画面を起動しなおしてから操作してください。

ネット de モニター

本機と接続しているパソコンで、放送中の番組や録画した番組を視聴することができます。(それ以外の場合には、正常に動作しないことがあります。)
本機と接続しているテレビを他の人が使用している場合などにお使いになると便利です。

ネット de モニターの設定

ネット de モニターをお使いになるために以下の設定を行ないます。

1 **メニューの【ネットdeナビ設定】をクリックする**

2 **【リモコン／モニター設定】ボタンをクリックする**

3 **【ネットde モニター】の設定を行なう**

画面サイズ：
ネット de モニターのモニターウィンドウサイズを設定します。
900 × 600 以上のサイズに設定すると、モニター画面は別ウィンドウで表示されます。

平均ビットレート：
本機からパソコンへのデータを転送する速度を設定します。
高く設定した場合、モニターウィンドウの映像は低く設定した場合よりも、きれいに映りますが、通信負荷がかかり場合によってデータの転送が不安定になります。

バッファリング時間：
本機からパソコンへ音声や動画データを転送するにはストリーミング方式を使用します。ストリーミングには待ち時間（バッファリング時間）を設定する必要があります。設定する時間は接続しているパソコンの処理速度やネットワーク環境に合わせて設定します。正常に映像が再生されない場合は、バッファリング時間を調整してみてください。

4 **【登録】をクリックする**

設定内容がお使いのブラウザに保存されます。

ネット de モニターをお使いになるには以下の条件が必要です。（➪ 48 ページもご覧ください。）
・本機に接続しているパソコンにQuickTime (Ver.7.0.3)がインストールされている。

ネット de モニターの起動

1 **メインメニューの【ネットdeモニター】をクリックする**

「ネットdeモニター」のウインドウが表示されます。
バッファリングの設定時間によってQuickTimeの起動画面が約3〜8秒ほど表示されたあとに、映像が表示されます。

ネット de モニターで視聴する

ネット de モニター上で本機を操作する場合は、「ネット de リモコン」を使います。
（付属のリモコンや本機の操作ボタンでも操作することができます。）

1 **ネットdeリモコン上のボタンをクリックする**

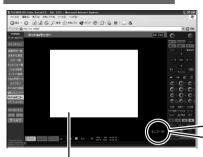
本機やリモコンのボタンが押されたときと同じ動作をします。
ネットdeモニターのモニターウィンドウでは、テレビで視聴しているときの映像よりもバッファリング設定時間によって数秒遅れて表示されます。そのため、ネットdeモニターのモニターウィンドウを見ながらチャプター編集などを行なうと、異なった場所で分割されるおそれがありますのでご注意ください。

ご注意

- ネットdeモニターの動作は、すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。また、QuickTimeの将来のバージョンで動作を保証するものではありません。

お知らせ

- ネットdeモニターの機能は同一のサブネットワーク内で接続されているパソコンでお使いになれる機能です。
 １台の本機に複数のパソコンが接続されている場合は、ネットdeリモコンとネットdeモニターの機能は、１台のパソコンでしか動作しません。

モニターウィンドウの見方

表示される映像は圧縮されているため、テレビに表示される映像よりも粗くなります。

モニターウィンドウには以下の状態が表示されます。

準備中：
モニターウィンドウが起動し、表示するための準備をしています。

モニター中：
モニター起動中を表します。

モニター不可：
モニターできない状態を表します。
以下にある「「モニター不可」になる本機の状態について」をご覧ください。

・コピー制限のある番組を視聴しているときや、TSで録画した番組を再生しているときは、モニターウィンドウを起動できません。停止してから起動させてください。
・900×600以上の画面サイズの場合、モニター画面は別ウィンドウで表示されます。

お知らせ
- モニターウィンドウで表示される映像の画面比は4：3 相当です。
- モニターウィンドウで表示される画面は、テレビで表示する画面よりも広い範囲を表示するため、画面の周りがちらつくことがあります。
- モニターウィンドウで連続して視聴できる時間は9時間までです。9時間が経過すると、モニターが一度停止し、そのあとモニターが自動的に再開されます。
- 本機で「イーサネット設定」、「チャンネル設定」の変更を行なった場合はモニターが一度停止し、そのあとモニターが自動的に再開されます。
- 本機でデュアルモノラルで録画したタイトルを再生する場合は、再生時の音声多重の設定に従った音声が出力されます。
- 本機に接続しているパソコンにファイヤーウォールが設定されている場合、パソコン側で映像や音声を受けつけないことがあります。この場合、パソコンのファイヤーウォール設定を解除するか、QuickTimePlayerの「ストリーミング・トランスポート」をHTTPに設定してみてください。
- QuickTimePlayerの「ストリーミングプロキシ」の設定で「RTSP プロキシサーバ」が設定されていると、正常に動作しない場合があります。
- モニターウィンドウでは、QuickTimePlayerのマウスとキーボードのショートカットが有効になっていますが、一部の機能については対応していません。
- WindowsのOSやインターネットエクスプローラのバージョンによっては、ネットdeモニターを表示するときに「ActiveXコントロールを実行するにはクリックしてください。」のような内容の表示が出ることがあります。その場合は【OK】をクリックしてください。

「モニター不可」になる本機の状態について

モニターでの視聴ができないおもな本機の状態は以下のとおりです。

本機の状態	モニターウィンドウのメッセージ
「RE」での予約録画約 20 秒前、タイムスリップ中、予約録画中や通常の録画中などの状態。	モニター不可(本体録画中)
高速そのままダビング、高速コピー管理ダビング状態。	モニター不可(本体ダビング中)
画質指定ダビング状態。	モニター不可(本体画質指定ダビング中)
DVD-Videoメニュー作成状態。	モニター不可(本体 DVD-Video メニュー作成中)
コピー制限のある番組の視聴中、コピー制限のある映像の再生中、コピー制限のあるタイトルのプレビューや編集画面での再生状態。	モニター不可(コピー禁止信号検出)
CDの再生状態。	モニター不可(本体 CD 再生中)
電源切りの処理中や、電源オフの状態。	モニター不可(本体電源 OFF)
Line-U（ライン Uダビング）を選択している状態。	モニター不可(本体 Line-U 選局)
DVD-Videoの96kHzAudio再生をしている状態。	モニター不可(本体 DVD-Video、Audio96kHz 再生中)
本機からDLNAの配信をしている状態。	モニター不可(本体 DLNA 配信中)
おすすめサービスからクリップ映像をダウンロードしている状態。	モニター不可(ダウンロード中)

※「設定メニュー」、「はじめての設定」、「スタートメニュー」、「ぷちまど」、「見ながら選択」、透過した番組説明などを表示しているときも、モニター不可となります。

ネット de モニターヘルプ

ネット de モニターが正常に動作しないときは、以下の項目を確認してください。

● 使用 OS、ブラウザ種類とバージョン、Java VM のバージョンはネット de ナビ（モニター）対応ですか？

→ DOS/V 互換機の場合：
OS: Windows® 2000 ／ XP
ブラウザ：Windows® 2000 の場合　Internet Explorer 6.0
Windows® XP の場合　Internet Explorer 6.0/7.0
Java VM: Ver.1.5

→ Macintosh の場合：
OS: Mac OS X（10.4）
ブラウザ：Safari 2.0.3
Java VM: Ver.1.4.2

上記 OS 以外の環境での動作は保証していません。

● インストールされている QuickTime バージョン、設定、本機とパソコンのネットワーク接続、お使いのブラウザは正しく設定されていますか？

→ QuickTime バージョン：
Windows®、Mac OS ともに QuickTime7.0.3 がインストールされているか確認する。

→ QuickTime の設定：
QuickTimePlayer の「ストリーミング・トランスポート」の設定を確認する。
UDP を選択：通常はこちらを選択します。
HTTP を選択：パソコンにファイヤーウォール設定がされている場合、こちらを選択することで、本機からパソコンへ映像が正常に転送されます。
QuickTimePlayer の「ストリーミング・プロキシ」の設定を確認する。
RTSP を選択：「RTSP プロキシサーバ」が設定されていると、正常に動作しない場合があります。

→ ネットワーク接続状態を確認：
ネットdeナビの機能（見るナビなど）が正しく行なえるか確認する。
本機とパソコンが同一サブネット内か確認する。

→ ブラウザの設定を確認する：
お使いのブラウザ設定で Java が有効になっているか確認する。

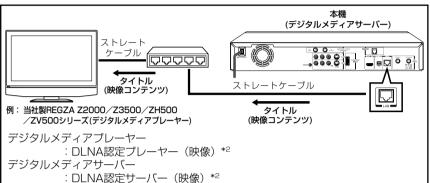
● モニターウィンドウの映像がカクカクしたり、止まってしまう。

→ 設定したモニターウィンドウサイズを小さくする。

→ 設定したビットレートやバッファリング時間を確認：
本機と接続しているパソコンやネットワーク環境に合わせた設定にします。パソコンの処理能力に合わせて設定すると、再生中や放送中の映像を正常に視聴できるようになる場合があります。

DLNA対応機器にタイトルを配信する（ネット de サーバー機能を使用する）

本機では、内蔵HDD、またはDVDディスクに録画したMPEG-PS（VRフォーマット)形式のタイトル(映像コンテンツ)を、ネットワークに接続したDLNA*[1]対応機器(デジタルメディアプレーヤー)に配信して、視聴することができます。

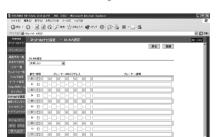
デジタルメディアプレーヤー
：DLNA認定プレーヤー（映像）*[2]
デジタルメディアサーバー
：DLNA認定サーバー（映像）*[2]

配信できるタイトル(映像コンテンツ)フォーマット：
映像 MPEG2-PS
(VRフォーマット)

映像に付随する音声：
リニアPCM、AC3、MPEG1レイヤ2

同時配信可能本数：
2本(HDDから双方とも配信時)

設定方法

準備

- 上記の図を参考に、本機とDLNA対応機器を接続しておきます。
- 接続できるのは、ホームネットワーク内の機器(同一サブネットに接続された機器)です。

1 メインメニューの【ネットdeナビ設定】をクリックする

2 【DLNA設定】をクリックする

3 DLNA機能の使用方法を選択する

サーバー有効【フィルタ制限なし】：
同一ホームネットワーク内のすべてのデジタルメディアプレーヤーに映像を配信します。

サーバー有効【フィルタ制限あり】：
同一ホームネットワーク内のMACアドレスを登録したデジタルメディアプレーヤーにだけ、映像を配信します。

「フィルタ制限あり」にしたときは、手順4の設定が必要です。

※不正なアクセスなどを防ぐため、通常は【フィルタ制限あり】に設定してください。

4 DLNA機能を使用する機器のMACアドレスを入力する

- 16台まで登録できます。
- 【利用】のチェックボックスをクリックして、その機器を利用するかどうかを設定することができます。
「✓」あり…利用する
「✓」なし…利用しない

5 【登録】をクリックする

→以降は、デジタルメディアプレーヤーのマニュアルを参考にして操作してください。

（つづく）

＊1
DLNA（Digital Living Network Alliance）
デジタル時代の相互接続性を実現させるための標準化活動を推進する業界団体です。

＊2
DLNA認定サーバー（映像）（DLNA CERTIFIED Video Server）
DLNA認定プレーヤー（映像）（DLNA CERTIFIED Video Player）
DLNA発行の「ホームネットワークのデジタル機能ガイドライン」に適合し、サポートしているコンテンツの種類が映像である、デジタルメディアサーバーあるいはプレーヤーです。ホームネットワークに接続することにより、デジタルメディアサーバーの映像コンテンツをデジタルメディアプレーヤーで再生することができます。

お知らせ

- HDD からの配信は 2 本、DVD からの配信は 1 本となります。
- DVD からの配信中は、HDD から配信はできません。また、HDD からの配信中は、DVD からの配信はできません。
- MPEG2−PS 形式以外のタイトルを配信することはできません。
- デジタル放送などのコピー管理情報のあるタイトルを配信することはできません。
- 9 時間 10 分を超える MPEG2−PS(VR フォーマット）形式のプレイリストタイトルは配信できません。
- 編集したタイトルやプレイリストは、接続したデジタルメディアプレーヤーによっては再生できない場合や、映像・音声に乱れが生じる場合があります。
- お客様のネットワーク環境やその状況、あるいは本機の内部動作状況によって、接続した機器で、再生中に映像・音声が乱れる、あるいは再生できない場合があります。

■Q&A

Q：接続できる機器は？
A：AVパソコンやデジタルテレビ(例：当社製REGZA Z2000/Z3500/ZH500/ZV500シリーズ)などのDLNA認定プレーヤー（映像）です。

Q：ルーターやハブは通常品でよいですか？
A：はい。ただし、動作環境が有線LANの場合、100BaseTX以上を推奨します。

Q：2本同時配信はどんな環境でも可能ですか？
A：いいえ。
設置環境やネットワーク環境によっては、デジタルメディアプレーヤーで正常に再生できない場合があります。

Q：デジタル放送などを録画したタイトルは扱えますか?
A：コピー制限のあるタイトルは配信することができません。

Q：無線LANは使えますか？　使えるとしたら制限などありますか？
A：使用可能です。ただし、本機には無線LAN機能は搭載しておりませんので、有線LAN接続の途中に無線LANコンバータを使用することになります。
タイトルを再生する場合は、IEEE802.11a/gなどの高速な無線LANを使用することを推奨します。ただし、設置環境や電波状態によっては正常に再生できない場合があります。

Q：配信時には、常に電源をいれておく必要があるのですか？
A：基本的にはそのとおりです。また、WakeOnLAN機能を利用していただくことによって、パソコンなどから、ネットワーク越しに電源起動を行なうことが可能です。

2 ネットワークにつながらないときは

ネットワークに接続できない場合は、アフターサービスをご依頼になる前に次の点を確認してください。
以下の説明は、ブロードバンド常時接続の環境でご使用の場合です。

パソコンやルーター、モデムなどと正しく接続されている

本機と接続している各機器（パソコン、ルーター、モデムなど）の電源がはいっている

本機の「イーサネット設定」を確認する

スタートメニュー を押して、「設定メニュー」→「通信設定」→「イーサネット設定」を選ぶ

■「イーサネット設定」画面の確認（ブロードバンド常時接続環境の場合）

例

設定メニュー
通信設定 〉イーサネット設定
ネットdeナビ/ネットdeダビング　アドレス/プロキシ
ネットdeナビ設定
本体名 RD-E302
本体ユーザー名 TOSHIBA
本体パスワード **********
本体ポート番号 80
ネットdeダビング設定
ダビング要求 受け付けない
グループ名
グループパスワード
登録

[ネット de ナビ／ネット de ダビング］タブ側
本体名　（初期設定のままで可）
本体ユーザー名　必ず入力する
本体パスワード　必ず入力する
本体ポート番号　変える必要はありません

設定メニュー
通信設定 〉イーサネット設定
ネットdeナビ/ネットdeダビング　アドレス/プロキシ
DHCP(自動取得) 使う
IP アドレス 0.0.0.0
サブネットマスク 0.0.0.0
デフォルトゲートウェイ 0.0.0.0
DNS(自動取得) 使う
DNS サーバー 0.0.0.0
プロキシサーバー
プロキシポート 80
MAC アドレス XX-XX-XX-XX-XX-XX
接続確認
登録

[アドレス／プロキシ］タブ側
DHCP　「使う」
IP アドレス　（設定不要）
サブネットマスク　（設定不要）
デフォルトゲートウェイ　（設定不要）
DNS　「使う」
DNS サーバー　（設定不要）
項目を確認後、【接続確認】を選び、決定 を押す

■【接続確認】メッセージについて

「接続確認しました。」
→ネットワークは正常に動作しています。

「DNS サーバを利用した名前の解決ができません。DNS サーバのアドレス、HTTP プロキシサーバのアドレスを確認してください。」
→イーサネット設定を再度確認したあと、もう一度接続確認をしてください。

「DNS サーバを利用した名前の解決ができません。DNS サーバのアドレスを確認してください。」
→イーサネット設定を再度確認したあと、もう一度接続確認をしてください。

「DNS サーバから応答がありません。DNS サーバのアドレスを確認してください。」
→イーサネット設定を再度確認したあと、もう一度接続確認をしてください。

「ルータから応答がありません。ルータとの接続を確認してください。」
→ルーターの電源、ケーブルを確認したあと、もう一度接続確認をしてください。

「ルータから IP アドレスを取得できませんでした。DHCP を使用しない設定で運用してください。」
→イーサネット設定を再度確認したあと、もう一度接続確認をしてください。

「接続できませんでした。LAN ケーブルの接続を確認してください。」
→ LAN ケーブルの接続を確認したあと、もう一度接続確認をしてください。

ネット de ナビ・ヘルプ

「アクセスできない」、「ネットdeナビが作動しない」などの場合は、アフターサービスをご依頼になる前に、次の点をお調べください。

■ネット de ナビにアクセスできない

- **本機の電源ははいっていますか？**
  本機が動作状態でなければ、パソコンからアクセスはできません。

- **Internet ExplorerやSafariなどの対応ブラウザで指定したIPアドレスは正しいですか？**
  DHCPによって自動的にIPアドレスが変更されている場合があります。
  「設定メニュー」から**「通信設定」**の**「イーサネット設定−アドレス／プロキシ」**画面を開き、IPアドレスを確認してください。
  Internet ExplorerやSafariなどの対応ブラウザに入力したIPアドレスと異なっている場合、イーサネット設定画面に表示されているIPアドレスをInternet ExplorerやSafariなどの対応ブラウザのアドレスに入力してください。
  また、本体ポート番号の値を変更すると、アクセスできるようになる場合もあります。この場合、本体名(IPアドレス)のあとに：を入れ、設定したポート番号を入力してアクセスします。
  （例　機種がRD-E302で本体ポート番号を2000にした場合：http://RD-E302:2000/）

- **プロキシが設定されていませんか？**
  ご使用のインターネット接続環境で、プロキシの設定がされているとプライベートIPアドレスでのアクセスができない場合があります。
  この場合は、Internet Explorerの**「ツール(T)」**の**「インターネットオプション(O)」**にある**「接続」**のタブ内の**「LANの設定(L)」**を開き、**「プロキシサーバー」**の**「詳細設定(C)」**で**「プロキシの設定」**の例外に、本機に設定してあるIPアドレス(例：192.168.1.*)を入力して、プロキシから除外してください。なお、「LANの設定(L)」を開いたときに、「詳細設定(C)」がクリックできなければ、この項目に該当しませんので、接続できない理由はほかにあります。
  Mac OSでSafariをお使いの場合は、Safariの**「環境設定」**内の詳細をクリックし、**「プロキシ」**の**「設定を変更…」**を選びます。**「プロキシの設定を使用しないホストとドメイン：」**に本機に設定してあるIPアドレス(例：192.168.1.*)を入力して、プロキシから除外してください。

■Internet Explorer や Safari などの対応ブラウザが反応しなくなった

- 本機のナビ画面が表示できない場合と同様に、ネットdeナビ側から本機にアクセスできないときがあります。
  本機の処理が完了するのを待ってください。ネットdeナビによる操作では本機側からのメッセージは表示できませんので、本機の状態を直接確認してください。
  本機が特に動作していないのに反応がない場合は、Internet ExplorerやSafariなどの対応ブラウザを閉じて、本機の電源を入れ直し、本機が稼働状態になってからアクセスしてください。
  また、複数のパソコンと共有していたり、パソコンが一台でも複数のネットdeナビから本機にアクセスしていると、最後にアクセスしたネットdeナビだけが通信可能になりますのでご注意ください。

- 本体側のメッセージ表示中は、ネットdeナビ側からアクセスできません。画面表示を消してから操作してください。

機能設定をお好みの設定に
変更することができます。

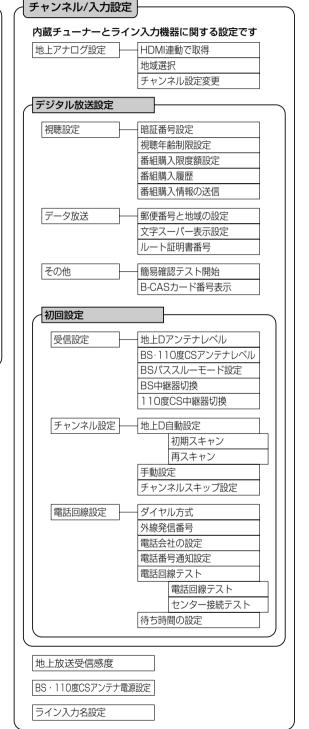
機能設定

本機では、さまざまな機能があらかじめ設定されています。
お使いの条件やお好みに合わせて設定を変えられます。

設定メニュー一覧

はじめての設定／管理設定

お知らせの確認や、ディスクの初期化などの全般的な設定です

- カギ付きフォルダ設定
- ジャンル設定
- HDD/ディスク管理
  - HDD初期化（番組表／ライブラリ保持）
  - HDD初期化（全削除）
  - DVD-RAM物理フォーマット
- DVDダビング速度
- 省エネ設定
  - 待機時省エネ設定
  - HDDパワーモード
- ソフトウェアのダウンロード
  - 放送からの自動ダウンロード
  - サーバからのダウンロード開始
  - ソフトウェアバージョン
- デジタル放送のお知らせ
  - 放送局からのお知らせ
  - 本機に関するお知らせ
  - ボード
- お楽しみ番組情報のクリア
- 設定を出荷時に戻す
- はじめての設定

通信設定

イーサネット接続に関する設定です

- イーサネット設定
- イーサネット利用設定
- 通信接続方法選択

DVDプレイヤー設定

DVD ビデオディスクの再生についての設定です

- DVDディスクメニュー言語
- DVD音声言語
- DVD字幕言語
- DVD Dレンジコントロール
- ムービーボイス
- カラオケボーカル
- DVDパレンタルロック
- DVDビデオタイトル停止

操作・表示設定

時刻設定、リモコン操作や画面表示に関する設定です

- 画面表示設定
  - 画面表示
  - 透過度
  - スタートアップ
  - ブラウン管保護
  - バックカラー
- 時刻設定
  - 日付・時刻／ジャストクロック
- TV画面形状
- 映像出力切換設定
- HDMI連動設定
- リモコンモード

再生機能設定

再生時の映像や音声・動作に関する設定です

- 静止画
- 映像調整選択
- 映像調整
  - 設定1
  - 設定2
  - 設定3
- プログレッシブ変換
- 再生DNR
- デジタル音声出力設定
- ワンタッチスキップ設定
- ワンタッチリプレイ設定
- HDD/RAMタイトル再生設定
- スチル集再生速度

録画機能設定

録画に関する設定です

- 録画品質設定
- 録画映像効果設定
  - 録画映像モード
  - 録画DNR
  - 3次元Y/C分離
- 録画解像度設定
- マジックチャプター設定
  - 本編
  - シーン
- ライン音声選択
- DVD-RW記録フォーマット設定
- Videoフォーマット記録時設定
  - DVD互換モード
  - 画面比
- 録画のりしろ初期設定
- タイトルサムネイル設定

各項目の詳細は⇨57ページから
ご覧ください。

設定の変更と機能の設定

本機では、さまざまな機能があらかじめ設定されています。お使いの条件やお好みに合わせて設定を変えられます。

1 （スタートメニュー）を押す

スタートメニュー画面が表示されます。

2 方向ボタン（▲ /▼）で【設定メニュー】を選び、（決定）を押す

設定画面が表示されます。

3 方向ボタン（▲ /▼）で、設定したい項目のグループを選び、（決定）を押す

・目的の項目になるまで、この手順をくり返します。
　項目の内容は次のページからご覧ください。

例：「チャンネル／入力設定」を選んだとき

例：「チャンネル／入力設定」→「デジタル放送設定」を選んだとき

4 57 ページ以降の説明を参照して、方向ボタンなどで設定し、（決定）を押す

・同じグループの他の項目を設定するときは、手順 3、4 をくり返します。

・他のグループに移るには、（戻る）を押してから、手順 3、4 を行ないます。

※一部（戻る）が効かないメニューがあります。その場合は（終了）を押して画面を閉じ、再度手順 1 から行なってください。

5 （終了）を押す

画面が消え、設定は完了です。

お知らせ

- 「設定メニュー」は、録画中、別タイトル再生中、TV お好み再生中、追っかけ再生中、ダビング中には使えません。
- 『クイックメニュー』からも、【設定メニュー】を選べます。

対応ディスクを表すマーク

マーク	意味	マーク	意味
HDD	内蔵ハードディスク	DVD-RAM	DVD-RAM
DVD-RW	DVD-RW	DVD-R	DVD-R
DVD-RW (VRフォーマット)	VRフォーマットで使用しているDVD-RW	DVD-RW (Videoフォーマット)	Videoフォーマットで使用しているDVD-RW
DVD-R (VRフォーマット)	VRフォーマットで使用しているDVD-R	DVD-R (Videoフォーマット)	Videoフォーマットで使用しているDVD-R
DVDビデオ	DVDビデオディスク	CD	音楽用CD

はじめての設定／管理設定

設定メニュー	設定項目
カギ付きフォルダ設定 カギ付きフォルダを使う、使わないを設定します。	⇨操作編117ページをご覧ください。
ジャンル設定 HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R よく使うジャンル名を登録しておけます。ここで登録したジャンル名が、「番組ナビ」の「Myジャンル番組リスト」、「Myジャンル設定」の「ジャンル選択」画面（⇨操作編81ページ）などに表示されます。	**1 方向ボタン（▲ / ▼）で【設定1】〜【設定10】から変更したい項目を選び、決定 を押す** ジャンルグループの選択画面が表示されます。 **2 方向ボタン（▲）で【すべてのジャンルから選択】にしてから、方向ボタン（◀ / ▶）で登録したいジャンルを含むグループを選ぶ** ジャンル名の選択項目に移動します。 **3 方向ボタンでジャンル名を選び、決定 を押す** 選んだジャンルが選んだ項目の場所に設定されます。 **4 手順1〜3をくり返してジャンル名を登録する** **5 登録が終わったら、戻る を押して「はじめての設定/管理設定」のメニューに戻る**
HDD ／ディスク管理	
HDD 初期化（番組表／ライブラリ保持） HDD 内蔵HDD内のタイトルを全部一度に削除します。 録画内容だけが削除されますので、DVDディスク（VRフォーマット）のライブラリ情報や番組表はそのまま残り、引き続き利用できます。	**1 方向ボタン（◀ / ▶）で【はい】を選び、決定 を押す** **2 メッセージを確認し、方向ボタン（◀ / ▶）で【はい】を選び、決定 を押す** 削除が始まります。 削除しないときは、【いいえ】を選びます。 お知らせ • 定期的に「HDD 初期化（番組表／ライブラリ保持）」をすると、断片化（ディスクの複雑化）が改善されるため、快適にご使用いただけます。 • カギ付きフォルダ内のタイトルも削除されます。
HDD 初期化（全削除） HDD 内蔵HDDを初期化します。 内蔵HDDは通常初期化する必要はありませんが、HDD自身が何らかのトラブルで正常に使用できなくなった場合は、初期化をすることで元どおり使用可能になる場合があります。ただし、HDDを初期化すると、中に録画してあるタイトルと、それまでのライブラリ情報や番組表がすべて消去されます。	**1 方向ボタン（◀ / ▶）で【開始】を選び、決定 を押す** **2 メッセージを確認し、方向ボタン（◀ / ▶）で【開始】を選び、決定 を押す** 初期化が開始されます。 初期化しないときは、【中止】を選びます。 お知らせ • 「HDD 初期化（全削除）」を実行すると、カギ付きフォルダ設定は【切】となり、暗証番号も解除されます。
DVD-RAM 物理フォーマット DVD-RAM DVD-RAMの物理フォーマットを実行します。	⇨操作編45ページをご覧ください。
DVD ダビング速度 HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R 「高速そのまま」ダビング、「高速コピー管理」ダビング（⇨操作編133、137ページ）をする際のダビングの速さを設定します。	**高速：** 高速でダビングします。 **低速（静音）：** 速度は少し遅くなりますが、ダビングの作業音がおさえられます。

	設定メニュー		設定項目
はじめての設定／管理設定（つづき）	省エネ設定		
		待機時省エネ設定 待機状態の本体表示を設定します。	**切：** 表示窓が点灯します。 **セーブ：** 待機時に自動的に表示窓が消灯します。
		HDD パワーモード 無操作時の内蔵HDDの回転を、一定時間経過後に自動的に止める省電力機能です。	**標準：** HDD パワーモードの設定をしません。 **セーブ：** 約５分以上にわたって､内蔵 HDD に何もアクセスがないときに、内蔵 HDD の回転を止めます。（省電力モード） 内蔵 HDD が停止している状態では、HDD 側の再生ボタンや録画ボタンを押してから実際の動作が開始するまでの時間が少し長くかかります。
	ソフトウェアのダウンロード		
		放送からの自動ダウンロード	この設定をすることによって、デジタル放送の放送局から送信される自動ダウンロード用のソフトウェアを自動的にダウンロードすることができます。 76 ページをご覧ください。
		サーバからのダウンロード開始	東芝サーバーからソフトウェアのダウンロードをします。 76 ページをご覧ください。
		ソフトウェアバージョン	現在の本機のソフトウェアのバージョンが表示されます。
	デジタル放送のお知らせ		デジタル放送に関わるお知らせをここで読むことができます。 受信後まだ読まれていないお知らせがあるとき、本体表示窓にマークが点灯し、本機で選局したテレビ番組を見ているときの放送画面にはマークが表示されます。
		放送局からのお知らせ	放送局から送られてくるお知らせを表示します。地上デジタル放送で 7 通まで、BS デジタル／ 110 度 CS デジタル放送で 24 通まで表示が可能です。表示数の上限を超えた場合は日付の古いものから削除されます。（未読のものも削除されます。）
		本機に関するお知らせ	本機に関する情報を表示します。表示数の上限を超えた場合は日付の古いものから削除されます。（未読のものも削除されます。）
		ボード	110 度 CS デジタル放送のご案内やお知らせを表示します。110 度 CS デジタル放送のそれぞれに対し、現在送信されているものが 50 通まで表示されます。
	お楽しみ番組情報のクリア		本機が学習したお楽しみ番組の情報をすべて削除します。削除したあとは、また新たにお好みの番組を学習します。（操作編 74 ページ）
	設定を出荷時に戻す		時刻設定の日付・時刻、リモコンモードなどを除いた各種設定内容をお買い上げ時の状態に戻します。 「デジタル放送設定」－「視聴設定」の「暗証番号設定」で暗証番号を登録していた場合は、その暗証番号の入力が必要になります。
	はじめての設定		導入・設定編 20 ～ 31 ページをご覧ください。
チャンネル／入力設定	**地上アナログ設定**		導入・設定編 50 ページ～をご覧ください。
	デジタル放送設定		導入・設定編 54 ページ～をご覧ください。
	地上放送受信感度		導入・設定編 53 ページをご覧ください。
	BS・110 度 CS アンテナ電源設定		導入・設定編 68 ページをご覧ください。
	ライン入力名設定 本機に接続している外部機器に合わせて機器名の表示を設定します。設定した機器名は番組ナビー録画予約一覧の「CH」などに表示されます。		**L1：** 入力 1 に接続した外部機器名を設定します。 **L2：** 入力 2 に接続した外部機器名を設定します。 ・設定無し：DTV：CS：110CS：BS-A：BS-D：地上 D：CATV：VTR1：VTR2：VTR3：LD：CAM：ゲームからそれぞれ選択します。
通信設定	**イーサネット設定**		16 ページ～をご覧ください。
	イーサネット利用設定		導入・設定編 78 ページをご覧ください。
	通信接続方法選択		番組によっては、通信方式をダイヤルアップ通信に指定してくる場合があり、その場合にダイヤルアップ通信を行なうようにするかどうかを設定します。 詳しくは導入・設定編 77 ページをご覧ください。

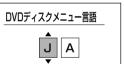
DVDプレイヤー設定

設定メニュー	設定項目
DVD ディスクメニュー言語 DVDビデオ 市販のDVDビデオに記録してある各言語のディスクメニューのうち、どの言語を優先して表示するかを設定します。	**英語：** 英語でディスクメニューを表示します。 **日本語：** 日本語でディスクメニューを表示します。 **その他：** ディスクメニューを表示する言語が選べます。 (決定) を押したあとで、以下の手順 1 ～ 4 を行なってください。 お知らせ • 該当する言語のディスクメニューがない場合は、ディスクで指定された言語で表示されます。
DVD 音声言語 DVDビデオ 市販のDVDビデオに記録してある各言語の音声のうち、どの言語を優先して再生するかを設定します。	**英語：** 英語で音声を再生します。 **日本語：** 日本語で音声を再生します。 **その他：** 音声を再生する言語が選べます。 (決定) を押したあとで、以下の手順 1 ～ 4 を行なってください。 お知らせ • ディスクによっては、ディスクで決められている音声になります。
DVD 字幕言語 DVDビデオ 市販のDVDビデオに記録してある各言語の字幕のうち、どの言語を優先して表示するかを設定します。	**英語：** 英語で字幕を表示します。 **日本語：** 日本語で字幕を表示します。 **字幕なし：** 字幕を表示しません。 **その他：** 字幕を表示する言語が選べます。 (決定) を押したあとで、以下の手順 1 ～ 4 を行なってください。 お知らせ • ディスクによっては、ディスクで決められている言語で字幕が表示されることがあります。 • ディスクによっては、字幕の言語はディスクメニューを使って選ぶようになっている場合があります。このときは、『メニュー』でディスクメニューを表示させてから字幕の言語を選んでください。

「その他」の言語の選びかた

1 「言語コード表」（⇨73ページ）で、希望の言語のコードを確認する

2 方向ボタン(▲ / ▼)でコードの第1字を選ぶ

例

3 方向ボタン(◀ / ▶)でカーソルを移動させ、方向ボタン(▲ / ▼)でコードの第2字を選ぶ

4 (決定) を押す

設定メニュー	設定項目
DVD D レンジコントロール DVDビデオ 夜間など、音量を下げて再生するときに、小さい音までよく聞こえるようにする機能です。	**切：** D レンジコントロール機能が働きません。 **入：** D レンジコントロール機能が働きます。 お知らせ • ドルビーデジタルで記録された市販の DVD ビデオのときだけ、この機能が働きます。 • この機能の効果のレベルはディスクによって異なります。
ムービーボイス DVDビデオ 市販のDVDビデオを再生するときの音量を全体的に上げる機能です。 映画などのセリフを聞きやすくするために使用します。	**切：** ムービーボイス機能が働きません。 **入：** ムービーボイス機能が働きます。 お知らせ • ドルビーデジタルで記録されたディスクのときだけ、この機能が働きます。 • この機能の効果のレベルはディスクによって異なります。
カラオケボーカル DVDビデオ 市販のDVDカラオケ対応ディスクで再生ボーカルを出力するかしないかを設定します。	**切：** ボーカル（歌声）を出力しません。 **入：** ボーカル（歌声）を出力します。 お知らせ • ドルビーデジタルマルチチャンネルで記録された DVD カラオケのときだけ、この機能が働きます。 • カラオケをお楽しみになるときは、本機にアンプ等を接続してください。

DVDプレイヤー設定（つづき）

設定メニュー	設定項目

DVD パレンタルロック

DVDビデオ

パレンタルロックに対応した市販のDVDビデオには、あらかじめ規制レベルが設定されています。規制レベルの内容および規制方法はディスクによって異なります。たとえばディスク全体が再生できない場合のほか、過激な暴力シーンをカットしたり、別のシーンに自動的に差し替えたりなどして再生されます。

お願い

- ディスクによっては、パレンタルロックに対応しているかどうかの区別がつきにくいものがあります。
  必ず、設定したパレンタルロックの機能が働くことを確認してください。

入：パレンタルロック機能を働かせたり、設定の内容を変えるときに選びます。
決定 を押したあとで、以下の手順 1 ～ 3 を行なってください。

切：パレンタルロック機能は働きません。
決定 を押したあとで、以下の手順 1 を行なってください。

1 **番号ボタンで4けたの暗証番号を入力し、決定 を押す**

初めてお使いになる場合は、番号ボタンで4けたの暗証番号を入力し、設定します。番号を入れまちがえたときは、決定 を押す前に 全削除 クリア/先頭 を押して、入力し直します。

2 **表を参照して、設定したい規制レベルの国／地域のコードを入力する**

a) 方向ボタン(▲/▼)でコードの第1字を選ぶ
b) 方向ボタン(◀/▶)でカーソルを移動させ、方向ボタン(▲/▼)でコードの第2字を選ぶ

国／地域	コード	国／地域	コード
オーストラリア	AU	オランダ	NL
ベルギー	BE	ノルウェー	NO
カナダ	CA	フィリピン	PH
中国	CN	ロシア	RU
中国香港	HK	シンガポール	SG
デンマーク	DK	スペイン	ES
フィンランド	FI	スウェーデン	SE
フランス	FR	スイス	CH
ドイツ	DE	台湾	TW
インドネシア	ID	タイ	TH
イタリア	IT	イギリス	GB
日本	JP	アメリカ	US
マレーシア	MY		

3 **方向ボタン(▲/▼)で設定したい規制レベルを選ぶ**

設定メニュー
地域コード J P　視聴制限レベル レベル8　登録

選んだ規制レベルより上のレベルのディスクは、パレンタルロックのレベルを上げるか【切】にしないかぎり、再生できなくなります。たとえばレベル7を設定すると、レベル8以上はロックされ再生できなくなります。

4 **方向ボタン(◀ / ▶)で【登録】を選び、決定 を押す**

【US】以外を選んだ場合のレベル設定は将来のために用意されたものです。適切な設定レベルは、実際にパレンタルロックに対応した市販のDVDビデオをお買い上げになられたときに、お客様ご自身で動作させてご確認ください。

【US】を選んだときの規制レベルは、次のように対応しています。
レベル7：NC-17　**レベル6**：R　**レベル4**：PG13
レベル3：PG　**レベル1**：G

■パレンタルロックの規制レベルを変えるには

手順1～4を行なう

■暗証番号を変えるには

1 **【入】または【切】を選び 決定 を押し、暗証番号入力画面で 10/※ 絞込みC ⏮スキップ +10 を4回押し、さらに 決定 を押す**

暗証番号が解除されます。

2 **番号ボタンで新しい4けたの暗証番号を入力する**

3 **決定 を押す**

お知らせ

- DVD パレンタルロックの暗証番号は、「デジタル放送設定 - 視聴設定」の「暗証番号設定」での暗証番号とは別のパレンタルロック専用の番号です。お間違いのないようにしてください。

	設定メニュー	設定項目
DVDプレイヤー設定（つづき）	**DVD ビデオタイトル停止** DVD-RW (Videoフォーマット) DVD-R (Videoフォーマット) DVDビデオ 市販のDVDビデオやVideoフォーマットのディスクの再生時、一つのタイトルが終わったら再生をやめるか、そのまま続けるかを設定します。VRフォーマットのDVD-R/RWでは機能しません。	**無：**一つのタイトルが終わってもそのまま次のタイトルが再生できます。 **有：**一つのタイトルが終わったら、ディスクの作りに応じた動作をします。 本機でダビングした未ファイナライズの DVD-R/RW の場合は、次のタイトルが再生されます。ただし次のタイトルがない場合、再生が停止します。
操作・表示設定	**画面表示設定**	
	画面表示 HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R DVDビデオ CD 本機の動作状態(「▶」など)を画面に表示するかどうかを設定します。	**切：**「▶」などの動作状態を画面に表示しません。 **入：**「▶」などの動作状態を画面に表示します。
	透過度 HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R DVDビデオ CD メニューやアイコンなどの画面表示の濃さを変えて、下の画像が透けて見えない度合いを選びます。	**透過しない** **やや透過** **透過する**
	スタートアップ 電源を入れたときに自動的に表示するスタートアップ画面の有無を設定します。	**切：** スタートアップ画面を表示しません。 **入：動画：** 電源を入れたときに、自動的にスタートアップ画面を表示します。 **入：メニュー：** 電源を入れたときに、自動的にスタートアップ画面を表示したあと、スタートメニューを表示します。 お知らせ •「HDMI 連動設定」を【利用する】に設定した場合、【入：メニュー】に設定していても、電源を入れたときにスタートメニューは表示されません。(【入：メニュー】は、【入：動画】と同じ動作になります。) また、スタートアップ設定の変更もできません。
	ブラウン管保護 HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R DVDビデオ CD テレビ画面の焼付き軽減のために、再生画像の一時停止状態やGUI表示(「見るナビ」画面など)が無操作で約15分続くと、テレビ画面などに戻る機能です。 この機能を【入】にしておくと、本機がフリーズしても15分ほど放置しておくと復帰できる場合があります。	**切：**ブラウン管保護機能は働きません。 **入：**ブラウン管保護機能が働きます。 この機能は、テレビ画面の焼付き防止を保証するものではありません。
	バックカラー 放送のないチャンネルを選んだときなど、映像入力信号のないときの画面の色を選びます。	**切：**色を設定しません。 **黒：**黒の画面色が設定されます。 **青：**青の画面色が設定されます。 お願い • 受信の状態などによっては、映像が見えるときにバックカラーが働いたり、映像が見えないときにバックカラーが解除されることがあります。バックカラーの途切れが気になるときは【切】にしてください。 お知らせ • デジタル放送の場合は、この機能は働きません。

	設定メニュー	設定項目
操作・表示設定（つづき）	**時刻設定／ジャストクロック**	導入・設定編 47 ページをご覧ください。
	TV 画面形状 HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R DVDビデオ 接続しているテレビの画面形状に合わせて、優先して再生したい画面形状を設定します。	導入・設定編 49 ページ「テレビの画面比に合わせて映像サイズを設定する（TV 画面形状設定)」をご覧ください。
	映像出力切換設定 接続しているテレビやビデオシステムに合わせて、本機からの映像出力(解像度)の対応範囲を設定します。	**S・映像接続時 480 i固定：** 本機の S 端子出力、または映像端子 (黄) 出力に映像コードを接続しているときは、映像出力を D1(480 i) に限定します。(本機の上記端子にコードを接続すると、D1(480 i) 出力に固定されます。) **起動時 480 i：** リモコンの [解像度切換] で D1(480 i) → D2(480 p) → D3(1080 i) → D4(720 p) → D1... と映像出力の切換えができます。 ただし、次回に本機の電源をいれたときには必ず D1(480 i) 出力になります。 **切換可：** リモコンの [解像度切換] で D1（480 i）→ D2（480 p）→ D3（1080 i）→ D4（720 p）→ D1…と映像出力の切換えができます。 **HDMI 優先：** 本機に接続している HDMI 対応機器が対応している解像度だけに切り換えます。本体表示窓の「HDMI」表示が点灯しているときは、リモコンの [解像度切換] で接続している機器の対応している範囲内で切り換えることができます。 (HDMI 出力をしていないときは、【切換可】と同様に切り換えることができます。)
	HDMI 連動設定 HDMIケーブルを使って、当社製REGZAシリーズ(デジタルテレビ)の「レグザリンク(HDMI連動)」に対応する機器と接続したとき、連動機能を利用するかどうかを設定します。	**利用する：** 連動機能が働きます。 **利用しない：** 連動機能が働きません。 詳しくは、導入・設定編 44 ページをご覧ください。 お知らせ • HDMI 連動機能が使えるのは、対応する機種のみです。 • 設定を【利用する】にした場合、スタートメニューや「ぷちまど」が表示される設定状態でも、電源を入れたときには表示されなくなります。(『スタートメニュー』ボタンを押すと表示されます。) • 接続機器や接続状態によっては、機能が働かないことがあります。 • 新たに HDMI 連動対応機器をテレビに接続したときに、機能が働かないことがあります。すべての機器の電源を入れ直すと、正常に機能する場合があります。
	リモコンモード リモコンのモードを設定します。当社製の2台目、3台目のHDD&DVDレコーダー（HD DVDドライブ搭載機およびVTR一体型を含む)を使うときに、それぞれ異なったリモコンモードに設定すれば、誤操作の防止に役立ちます。	DR1：DR2：DR3 設定の詳細は、導入・設定編 81 ページ「当社製 RD シリーズを 2、3 台使うときのリモコン設定」をご覧ください。
再生機能設定	**静止画** HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R DVDビデオ 一時停止させたときの画像の解像度を設定します。	**自動：** 通常はこの設定にします。動きのある画像でもぶれずに一時停止します。 **フレーム：** 動きのない画像を、特に高解像度で一時停止させたいときに選びます。
	映像調整選択 HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R DVDビデオ	**標準／設定 1 ／設定 2 ／設定 3** 画質の設定を 4 種類のうちから選びます。

再生機能設定（つづき）

設定メニュー	設定項目
映像調整 HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R DVDビデオ	**設定１／設定２／設定３** 調整した画質の設定をそれぞれに記憶できます。 **1 方向ボタン(▲/▼)で、記憶する番号(設定1～3)を選び、決定 を押す** 設定メニュー 設定 1 設定 2 設定 3 **2 方向ボタン（▲ / ▼）で調整項目を選び、方向ボタン（◀ / ▶）で値を調整する** **明るさ** (0) 暗くなる ⇔ 明るくなる (14) **コントラスト** (– 7) 淡くなる ⇔ 濃くなる (7) **色の濃さ** (– 7) 薄くなる ⇔ 濃くなる (7) **色調** (– 7) 赤色が強くなる ⇔ 緑色が強くなる (7) **シャープネス** （ソフト）輪郭をソフトに ⇔ 切 ⇔ 輪郭をシャープに（シャープ） **ガンマ** 切／１／２ 暗い画面で動作が見えないときに調整します。 **3 調整が終わったら、決定 を押す** お知らせ • HDMI 出力時には映像調整は無効となります。
プログレッシブ変換 HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R DVDビデオ DVDビデオの記録内容には、一般的にフィルム素材(フィルム映像を24コマ/秒で記録)とビデオ素材(映像情報を30コマ/秒で記録)の2種類があります。映像の種類に合わせて設定します。	**自動：** 通常の設定です。映像の種類がフィルム素材かビデオ素材かを自動的に判別し、それぞれ適した方法でプログレッシブ出力に変換します。 **ビデオ：** 映像をフィルター処理し、プログレッシブ出力に変換します。一般放送やビデオカメラで撮影された映像を見るのに適しています。 **フィルム：** フィルム素材の映像を最適な方法でプログレッシブ出力に変換します。映画番組などを見るのに適しています。 お知らせ • 映像によっては、輪郭がギザギザになったり、映像が二重にぶれて見えることがあります。
再生 DNR HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R DVDビデオ ノイズを低減して再生する設定を選びます。 方向ボタン(▲ / ▼)で、設定する項目を選び、方向ボタン(◀ / ▶)で、【入】または【切】を設定します。	**3D-DNR：** **切：**この機能は働きません。 **入：**映像信号に混入している全体的なノイズを低減します。 **モスキート NR：** **切：**この機能は働きません。 **入：**MPEG 圧縮時に映像の輪郭部分に発生するモスキート（ちらつき）ノイズを低減します。 **ブロック NR：** **切：**この機能は働きません。 **入：**MPEG 圧縮時に動きの激しい映像で画面の一部がブロック状にみえるノイズ（ブロックノイズ）を低減します。 DNR とは、Digital Noise Reduction（デジタル ノイズ リダクション）の略です。 お知らせ • ディスクや場面によって、DNR 効果がわかりにくいことがあります。 • 設定を【入】にしたときに、場面によっては、細かな画像が見えにくくなることがあります。 • 設定を【入】にしたときに、ディスクや場面によっては残像が発生したり、輪郭部のノイズが増加することがあります。このときは設定を【切】にしてください。 • VR 録画したタイトルを再生したときに働きます。ただし、多重動作のときなど、一部働かない場合があります。

再生機能設定（つづき）

設定メニュー	設定項目
デジタル音声出力設定 HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R DVDビデオ CD 接続のしかたに合わせて、どの音声方式を出力するかを設定します。 出力される音声の種類については⇨72ページをご覧ください。	**ビットストリーム：** ドルビーデジタル、DTS、MPEG、AAC のデコーダーを内蔵したアンプを本機に接続しているとき。 ドルビーデジタル、DTS、MPEG、AAC のコンテンツを再生すると、それぞれのビットストリーム音声を出力します。 **PCM：** 2ch デジタルステレオアンプを本機に接続しているとき。 ドルビーデジタル、DTS、MPEG、AAC のコンテンツを再生すると、音声を PCM（2ch）に変換して出力します。 **HDMI-AUTO：** ドルビーデジタル、DTS、MPEG、AAC、リニア PCM のデコーダーを内蔵した HDMI 機器を本機に接続しているとき。 ドルビーデジタル、DTS、MPEG、AAC のコンテンツを再生すると、それぞれのビットストリーム音声を出力します。 接続した HDMI 機器がドルビーデジタル、MPEG または AAC に対応していないときは、リニア PCM に音声を変換して出力します。DTS に対応していないときは、音声は出力しません。
ワンタッチスキップ設定 HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R DVDビデオ CD 『ワンタッチスキップ 』を押したときにスキップする幅を選びます。	**5 秒：10 秒：30 秒：5 分** お知らせ • (例) スキップする幅を「5 秒」に設定した場合、実際にスキップする幅は以下のようになります。 3 秒→ 8 秒→ 13 秒→ 18 秒 (1 回目は 2 秒少なくなります。)
ワンタッチリプレイ設定 HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R DVDビデオ CD 『ワンタッチリプレイ 』を押したときに戻る幅を選びます。	**5 秒：10 秒：30 秒：5 分** お知らせ • (例) 戻る幅を「5 秒」に設定した場合、実際に戻る幅は以下のようになります。 7 秒→ 12 秒→ 17 秒→ 22 秒 (1 回目は 2 秒多くなります。)
HDD/RAM タイトル再生設定 HDD DVD-RAM 最後に再生を停止した場所をタイトルごとに記憶させるかどうかを選びます。	**タイトル毎レジューム：** 最後に再生を停止した場所をタイトルごとに記憶させ、次回はそこから再生します。 **タイトル連続再生：** 内蔵 HDD または DVD-RAM それぞれの中にあるタイトル（オリジナル、プレイリスト）を通して再生できます。タイトルの壁がないので停止位置は最後の一箇所を記憶します。 タイトルごとの停止位置の記憶はせず、内蔵 HDD、DVD-RAM それぞれに一つずつになります。 お知らせ • タイトル連続再生を設定していても、「追っかけ再生」の際に一度再生を停止して、再び再生を始めたときは、その録画タイトルの先頭から再生になります。
スチル集再生速度 DVD-RAM DVD-RW (VRフォーマット) DVD-R (VRフォーマット) 静止画集を再生するときの、静止画1枚あたりの表示時間を設定します。	**1 秒：2 秒：3 秒：5 秒：10 秒：ディスク指定値**

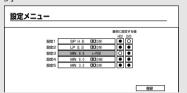
録画機能設定

設定メニュー	設定項目

録画品質設定

HDD　DVD-RAM　DVD-RW（VRフォーマット）　DVD-R（VRフォーマット）

録画するときの画質と音質を組み合わせて(5とおりまで)、録画先ごとにあらかじめ決めておけます。
(⇨操作編43ページ)
デジタル放送をHDDに高画質で録画する場合は リモコンの『W録』ボタンを押して、「TS」を選択することでTS画質を選択できます。
ここでの設定は、通常録画、および録画予約時の初期値として使うことができます。

例

画質・音質の組合せを作る

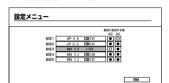
1 方向ボタンで組合せを変更したい設定（1 ～ 5）を選び、㊋ を押す

2 方向ボタン（◀/▶）で、項目（「録画モード」、「レート」、「音質」）を選ぶ

3 方向ボタン（▲ / ▼）で設定を変え、㊋ を押す

録画品質を選ぶ

1 方向ボタンで、録画先（HDD/DVD）の録画予約の初期値に指定したい設定（1 ～ 5）の HDD/DVD 欄を選び、㊋ を押す

2 【登録】を選び ㊋ を押す

お知らせ
- 組合せの変更は、停止中、「ライブラリ」画面、録画予約画面、ダビング画面などからでもできます。変更はそれぞれ一時的なものですが、【設定 1 ～ 5 の初期値を変更】を選んで変更すると、本機の設定が更新されます。
- 「SP」「LP」に設定すると「L-PCM」は選べません。
- 音質設定によって、画質設定のレートの上限が異なります。
- 画質のマニュアルレートは、1.0 から 9.2 の間で 0.2 刻みで設定できます。（ただし、1.0 から 1.4、1.4 から 2.0 の間は設定できません。）

録画映像効果設定

録画映像モード

HDD　DVD-RAM　DVD-RW（VRフォーマット）　DVD-R（VRフォーマット）

内蔵地上アナログチューナーやライン入力からの映像信号の明るさを調整します。
（本機の「再生機能設定」の「映像調整」(⇨63ページ)で調整しきれない場合に使用してください。）

お願い

この設定は録画される映像信号に影響し、録画後に設定を変更しても録画済みの映像は元に戻りませんのでご注意ください。
ビデオテープからダビングするときなど、事前に画像の記録状態が確認できる場合は、まずしばらく再生して明るさの全体的な傾向を確認し、その上で設定されることをお勧めします。

標準： 本機で受信した信号や外部入力からの信号の明るさを、自動的に調整して記録します。通常はこの設定でご使用ください。
モード1： 画面が明るすぎた場合に暗くして記録します。
モード2、3、4： 数字が大きくなるにしたがって徐々に明るくなります。明るさの調整にご使用ください。

録画 DNR

HDD　DVD-RAM　DVD-RW（VRフォーマット）　DVD-R（VRフォーマット）

内蔵地上アナログチューナーや外部映像入力からのノイズの多い映像からノイズを低減するデジタルノイズリダクションのレベルを、映像に合わせて選びます。

切： デジタルノイズリダクションは働きません。
弱： 効果が弱く働きます。
強： 効果が強く働きます。

お知らせ
- 残像やちらつきが気になる場合は【切】にしてください。

3 次元 Y ／ C 分離

HDD　DVD-RAM　DVD-RW（VRフォーマット）　DVD-R（VRフォーマット）

録画時に3次元デジタルフィルターによるY/C(輝度／色)分離が働くと、絵柄の上下境界で目立つ点状のちらつきや、こまかい絵柄で発生する色のちらつきを低減させます。

切： この機能は働きません。
電波の受信状態が悪い地域での受信映像や残像が気になる場合にはこちらに設定します。
入： この機能が働きます。
通常はこの状態に設定してください。

お知らせ
- 「3 次元 Y/C 分離」は、内蔵地上アナログチューナーや映像入力（黄）端子からの信号のとき動作します。（S 端子入力のときには、「3 次元 Y/C 分離」を切り換えても動作しません。）

設定の変更と機能の設定（つづき）

<table>
<tr><th rowspan="5">録画機能設定（つづき）</th><th>設定メニュー</th><th>設定項目</th></tr>
<tr><td>録画解像度設定
HDD　DVD-RAM　DVD-RW（VRフォーマット）　DVD-R（VRフォーマット）
録画の際に設定されている画質（モード／レート）にあわせて、最適な解像度で録画するか、できるかぎり高い解像度で録画するかどうかを設定します。</td><td>最適解像度：
画質（モード／レート）によって、レートが高い場合は高い解像度が、低い場合は低い解像度が利用されます。
VRフォーマットかVideoフォーマットか*[1]によっても、異なる解像度が利用されます。
高解像度：
LPモード同等の2.0Mbps以上の画質は、すべて最も高い解像度に固定されます。
VRフォーマットとVideoフォーマットで同じ解像度が利用されます。
参考：画質レートと録画解像度の対応表
<table>
<tr><td rowspan="3">画質（レート）</td><th colspan="2">最適解像度</th><th>高解像度</th></tr>
<tr><td colspan="2">DVD 互換モード</td><td>DVD 互換モード</td></tr>
<tr><td>切
（VR フォーマット用）</td><td>入
（Video フォーマット用）</td><td>切／入
（VR/Video フォーマット用）</td></tr>
<tr><td>9.2～4.0</td><td>720 x 480（フル D1）</td><td>720 x 480（フル D1）</td><td rowspan="3">720 x 480（フル D1）</td></tr>
<tr><td>3.8～3.0</td><td>544 x 480（3/4D1）</td><td rowspan="2">352 x 480（1/2D1）</td></tr>
<tr><td>2.8～2.0</td><td>480 x 480（2/3D1）</td></tr>
<tr><td>1.9～1.0</td><td>352 x 240（SIF）</td><td>352 x 240（SIF）</td><td>352 x 240（SIF）</td></tr>
</table>
*[1]「Video フォーマット記録時設定」（あとで DVD-R/RW（Video フォーマット）にダビングすることを前提とした設定）の「DVD 互換モード」が【入】ならば Video フォーマット、【切】ならば VR フォーマットと判断します。</td></tr>
<tr><td>マジックチャプター設定
HDD　DVD-RAM　DVD-RW（VRフォーマット）　DVD-R（VRフォーマット）
録画する番組それぞれに適した位置で、自動的にチャプター分割をするかどうかを設定します。
ここで選択した項目（入／切）は「番組ナビー録画予約（詳しい設定）」画面で、はじめに選ばれている設定になります。</td><td>マジックチャプター／本編
切：マジックチャプター／本編を設定しません。
入：録画する番組の本編とCMの切り換わり目でチャプター分割をします。

マジックチャプター／シーン
切：マジックチャプター／シーンを設定しません。
入：録画する番組のジャンルに合わせて、映像の切り換わり目など、それぞれの番組に適した位置でチャプター分割をします。</td></tr>
<tr><td>ライン音声選択
HDD　DVD-RAM　DVD-RW　DVD-R
本機に接続している外部機器から録画するときに音声を設定します。</td><td>ステレオ：ステレオで記録します。
L：左チャンネルの音声だけを記録します。
R：右チャンネルの音声だけを記録します。
主+副：HDD、DVD-RAMやDVD-R/RW（VRフォーマット）に録画する場合、二カ国語放送などを二重音声で録画するときに選択します。</td></tr>
<tr><td>DVD-RW 記録フォーマット設定
DVD-RW
DVD-RWの初期化をするときの記録フォーマットの初期表示を設定します。
（⇨操作編44ページ）</td><td>Videoフォーマット：Videoフォーマットが選択されます。
VRフォーマット：VRフォーマットが選択されます。</td></tr>
</table>

録画機能設定（つづき）

設定メニュー	設定項目
Videoフォーマット記録時設定	
DVD 互換モード HDD / DVD-RAM / DVD-RW / DVD-R 録画するときに、DVD-Video規格に記録できるようなかたち(映像や音声などの情報)で録画をするかどうかを設定します。 HDD、DVD-RAMに録画したタイトルをDVD-R/RWにダビングするときやDVD-Videoを作成する際に必要となる設定です。	**切：** DVD-Video作成を前提としません。画質・音質の設定によってはDVD-Video作成ができない場合もあります。 **入(主音声)：** DVD-R/RW（Videoフォーマット)に記録できる状態で録画し、音声多重放送の場合、元の主音声だけを左右のチャンネルに記録します。 **入(副音声)：** DVD-R/RW（Videoフォーマット)に記録できる状態で録画し、音声多重放送の場合、元の副音声だけを左右のチャンネルに記録します。 お知らせ • 画質のマニュアルレートが 2.0 から 3.8 のときは、【入】に設定すると、【切】の場合よりも画質が下がる場合があります。 •『クイックメニュー』からも DVD 互換モードが設定できます。 • 録画後に DVD 互換モードを【入】にして高速そのままダビングしても効果はありません。 • デジタル放送では、録画時と同じ音声出力となります。
画面比 HDD / DVD-RAM / DVD-RW / DVD-R DVD-R/RWにダビングするときの画面比を設定します。	**4：3固定：** アスペクト比を4：3で固定します。 **16：9固定：** アスペクト比を16：9で固定します。 お知らせ • DVD-R/RW（Video フォーマット）にはレート 1.4Mbps 以下で画面比 16：9 のパーツはダビングできません。画面比を変更してから行なってください。
録画のりしろ初期設定 HDD / DVD-RAM / DVD-RW (VRフォーマット) / DVD-R (VRフォーマット) 「番組ナビ ― 録画予約(詳しい設定)」画面での、予約録画の前後をそれぞれ約5秒間増やして録画する設定(録画のりしろ設定 ⇨操作編65ページ)の初めに選ばれている項目(入／切)を設定します。 デジタル放送は、地域によっては最大4秒の映像の遅れが発生することがあります。この設定をすることで、映像の遅れが発生しても録画が欠けないように対応することができます。	**切：** 予約にのりしろはつきません。 **入：** 予約にのりしろがつきます。 （例） 録画のりしろ設定 19:00 20:00 【切】のとき 予約番組 ←録画される時間→（時間どおり録画） 【入】のとき 予約番組 ←録画される時間→（前後約５秒ずつ余分に録画される） お知らせ • 別の予約との重複や隣接することで録画番組の後ろが欠けた場合は、後ろ側の「のりしろ」もつきません。
タイトルサムネイル設定 HDD / DVD-RAM / DVD-RW / DVD-R 録画したタイトルの先頭からどのくらい経過した場面をタイトルのサムネイルにするかを選びます。	**0秒：3秒：10秒：35秒：1分：5分** お知らせ • サムネイルは他の場面にも変更できます。⇨操作編 101、129 ページをご覧ください。

参考情報

アスペクト比（画面比）について

アスペクト比とは、映像を構成する画面(映像)サイズの幅と高さの比で、4:3 放送とワイド放送(スクィーズ放送、レターボックス放送)があります。放送の収録時にはこれらの異なるアスペクト比の素材が存在し、テレビ側でこのアスペクト比を変換して表示しています。

表のイラストについて

例）

(△)ー 該当の TV 画面形状設定を行なったときの、問題あり／なしを表します。
(○)：画面に映像が正しく表示されます。
(△)：設定自体は間違いではないが、最適ではない状態です。
(×)：画面に映像が正しく表示されません。

お使いのテレビと本機の設定 ＼ 放送で送られてくる映像の種類			1 4：3 放送（通常放送） 通常は 4:3 または「ノーマル」と呼ばれています。 (地上アナログ、CATV(ライン入力)、スカパー！(ライン入力)、地上デジタル、110 度 CS デジタル、BS デジタル)	2 ワイド放送（レターボックス放送） ハイビジョンやワイドサイズで撮影した映像を、DVD や LD、一部のビデオソフトに編集する際に上下に黒い帯を入れることによってノートリミングで収録したものです。 (地上アナログ、CATV(ライン入力)、スカパー！(ライン入力)、地上デジタル、110 度 CS デジタル、BS デジタル)
お使いのテレビ 画面比 4：3 テレビ	本機のTV画面形状設定	4：3LB（推奨設定）	(○) 正常	(○) 正常
		4：3 ノーマル	(○) 正常	(○) 正常
		16：9 ワイド	(○) 正常	(×) 映像が縦伸びする ／ (○) 放送によっては、このように表示される場合があります。
		16：9 シュリンク	(×) 映像が縦伸びする	(×) 映像が縦伸びする ／ (×) 放送によっては、このように表示される場合があります。
お使いのテレビ 画面比 16：9 テレビ ※テレビを「フル」に設定していることを前提として説明しています。	本機のTV画面形状設定	4：3LB	(×) 映像が横伸びする	(×) 映像が横伸びする
		4：3 ノーマル	(×) 映像が横伸びする	(×) 映像が横伸びする
		16：9 ワイド	(×) 映像が横伸びする テレビ側の設定を「ノーマル」にしてください。	(○) 正常 ／ (×) 放送によっては、このように表示される場合があります。
		16：9 シュリンク（推奨設定）	(○) 正常	(○) 正常 ／ (△) 放送によっては、このように表示される場合があります。
		16：9 シュリンク（テレビ側が「ズーム」の時）	(×) 映像が画面内にはいりきらない	(○) 正常※ ワイド放送（レターボックス放送）のときは、テレビ側の設定をフルからズームに変更することをお勧めします。

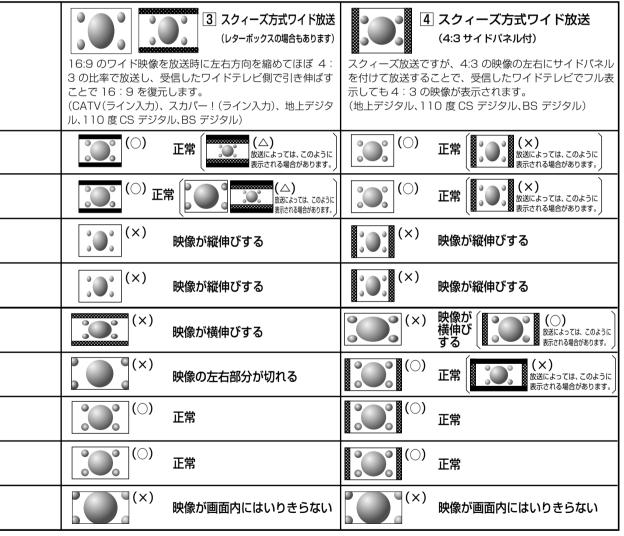
・「フル」、「ズーム」、「ワイド」、「ノーマル」などのモードの呼びかたはテレビによって異なる場合があります。詳しくはお使いになるテレビの取扱説明書をご覧ください。

※ ご使用のテレビによっては『解像度切換』で、480i(D1) または 480p(D2) を選んでいるときのみ、「ズーム」や「フル」などの切り換えが可能な場合があります。

●アスペクト比（画面比）に関する注意点について

録画する際は、放送に含まれるスクィーズ情報に応じてGOPと呼ばれる約0.5秒単位ごとに4：3か16：9であるという区別を書き込んでいます。
デジタル放送などはスクィーズ放送が多数あり、一部チャンネルでは番組直前の宣伝と番組で4：3と16：9が切り換わることがあります。

VRフォーマットのDVDディスクに録画する場合、放送側でこの情報が切り換わっても、約0.5秒の単位内と続く約1秒は先に来た情報で記録され、実際の映像と異なる場合がありますが異なる画面比を混在して記録することができます。

「DVD-Video 作成」をする場合は、「チャプター編集」画面内の「画面比」の項目を見ながら混在しないようにチャプターを分割してからパーツ登録をするか、「DVD-Video 作成」の「画面比設定」で「4：3 固定」か「16：9 固定」を設定してください。いずれの場合でも、通常の 4：3 放送で上下に黒い帯がはいる場合は、ワイドではなく、単なる4：3 放送ですので、「16：9 固定」に設定しないでください。

お知らせ

- 画面比が 4:3 テレビでワイド放送(スクィーズ)の映像をみたとき、本機の設定が「4:3LB」にもかかわらず、画面が縦長につぶれたように見えるときは、録画時に正しくスクィーズ信号が記録されていないことになります。S1 出力対応の外部チューナー端子から、本機の S1 対応の入力端子に接続されているかどうかご確認ください。
- 市販の DVD ビデオディスク再生時は、設定に関わらず、4:3 ノーマルでも、4:3LB として表示されることがあります。
- 放送内容や再生するタイトルによっては、この表のとおりに映像が表示されない場合があります。

出力される音声の種類

ディスク／デジタル放送	音声方式		アナログ音声出力端子	設定画面での「デジタル音声出力設定」（64ページ）と出力端子			
				ビットストリーム	PCM	HDMI-AUTO*3	
				ビットストリーム／PCM 音声出力端子 HDMI出力端子	ビットストリーム／PCM 音声出力端子 HDMI出力端子	ビットストリーム／PCM 音声出力端子	HDMI出力端子
DVDビデオディスク*1	ドルビーデジタル		○	ビットストリーム	PCM	ビットストリーム	接続機器に準ずる
	MPEG						
	リニアPCM	48kHz		PCM			
		96kHz		PCM*2			
	DTS		ー	ビットストリーム	ー	ビットストリーム	
音楽用CD	リニアPCM		○	PCM			接続機器に準ずる
	DTS		（ノイズ）	ビットストリーム			
内蔵HDD	ドルビーデジタル		○	ビットストリーム	PCM	ビットストリーム	接続機器に準ずる
	リニアPCM			PCM			
DVD-RAM/R/RW	ドルビーデジタル		○	ビットストリーム	PCM	ビットストリーム	接続機器に準ずる
	MPEG						
	リニアPCM			PCM			
デジタル放送	視聴時	AAC	○	ビットストリーム	PCM	ビットストリーム	接続機器に準ずる
	内蔵HDDにW録を「TS」で録画時	AAC					
	内蔵HDDにW録を「RE」で録画時	ドルビーデジタル					
		リニアPCM		PCM			

*1 DVD ビデオディスクには本機で作成した DVD-R/RW は含まれません。
　上表で「（ノイズ）」の表示のある接続と設定はしないでください。
*2 ダウンサンプリング PCM
*3 HDMI-AUTO では HDMI 出力がビットストリームになるのは接続した HDMI 機器にビットストリームデコード機能があるときにだけ働きます。無い場合には強制的に PCM（48kHz）になります。ただし、DTS に関しては PCM にはできません。

お知らせ

- DVD ビデオディスクを使用しているとき、ディスクによっては、音声の切換えをディスクメニューを使ってする場合があります。このときは、『メニュー』を押してディスクメニューを表示させてから音声を選んでください。
- 電源を入れたとき、およびディスクを交換したときは、「DVD 音声言語」（59 ページ）の設定どおりの音声になります。ディスクによっては、ディスクで決められている音声になります。
- 音声を切り換えた直後は、表示と実際の音声が一瞬ずれることがあります。
- ビットストリーム／ PCM 音声出力端子でアンプなどに接続する場合、二カ国語の音声切換ができない場合があります。このようなときは「設定メニュー」→「再生機能設定」→「デジタル音声出力設定」→「PCM」の順に選択、決定してください。
- 「DVD 互換モード」（67 ページ）を【入】にして録画したタイトルは、二カ国語の音声切換はできません。

4 言語コード表

記号	言語名
―――	言語なし
CHI (ZH)	中国語
DUT (NL)	オランダ語
ENG (EN)	英語
FRE (FR)	フランス語
GER (DE)	ドイツ語
ITA (IT)	イタリア語
JPN (JA)	日本語
KOR (KO)	韓国語
MAY (MS)	マレー語
SPA (ES)	スペイン語
AA	アファル語
AB	アブバジア語
AF	アフリカーンス語
AM	アムハラ語
AR	アラビア語
AS	アッサム語
AY	アイマラ語
AZ	アゼルバイジャン語
BA	バシキール語
BE	ベラルーシ語
BG	ブルガリア語
BH	ビハーリー語
BI	ビスラマ語
BN	ベンガル語、バングラ語
BO	チベット語
BR	ブルトン語
CA	カタロニア語
CO	コルシカ語
CS	チェコ語
CY	ウェールズ語
DA	デンマーク語
DZ	ブータン語
EL	ギリシャ語
EO	エスペラント語

記号	言語名
ET	エストニア語
EU	バスク語
FA	ペルシャ語
FI	フィンランド語
FJ	フィジー語
FO	フェロー語
FY	フリジア語
GA	アイルランド語
GD	スコットランドゲール語
GL	ガルシア語
GN	グアラニ語
GU	グジャラート語
HA	ハウサ語
HI	ヒンディー語
HR	クロアチア語
HU	ハンガリー語
HY	アルメニア語
IA	国際語
IE	国際語
IK	エスキモー語
IN	インドネシア語
IS	アイスランド語
IW	ヘブライ語
JI	イディッシュ語
JW	ジャワ語
KA	グルジア語
KK	カザフ語
KL	グリーンランド語
KM	カンボジア語
KN	カンナダ語
KS	カシミール語
KU	クルド語
KY	キルギス語
LA	ラテン語
LN	リンガラ語

記号	言語名
LO	ラオス語
LT	リトアニア語
LV	ラトビア語、レット語
MG	マダガスカル語
MI	マオリ語
MK	マケドニア語
ML	マラヤーラム語
MN	モンゴル語
MO	モルダビア語
MR	マラータ語
MT	マルタ語
MY	ミャンマー語
NA	ナウル語
NE	ネパール語
NO	ノルウェー語
OC	プロバンス語
OM	(アファン)オロモ語
OR	オリヤー語
PA	パンジャブ語
PL	ポーランド語
PS	パシュトー語
PT	ポルトガル語
QU	ケチュア語
RM	ラエティ=ロマン語
RN	キルンディ語
RO	ルーマニア語
RU	ロシア語
RW	キニヤルワンダ語
SA	サンスクリット語
SD	シンド語
SG	サンゴ語
SH	セルビアクロアチア語
SI	シンハラ語
SK	スロバキア語
SL	スロベニア語

記号	言語名
SM	サモア語
SN	ショナ語
SO	ソマリ語
SQ	アルバニア語
SR	セルビア語
SS	シスワティ語
ST	セストゥ語
SU	スンダ語
SV	スウェーデン語
SW	スワヒリ語
TA	タミール語
TE	テルグ語
TG	タジク語
TH	タイ語
TI	ティグリニャ語
TK	トゥルクメン語
TL	タガログ語
TN	セツワナ語
TO	トンガ語
TR	トルコ語
TS	ツォンガ語
TT	タタール語
TW	トウィ語
UK	ウクライナ語
UR	ウルドゥー語
UZ	ウズベク語
VI	ベトナム語
VO	ボラピュク語
WO	ウォロフ語
XH	コーサ語
YO	ヨルバ語
ZU	ズール語

技術情報

録画時間について

従来のVTR（ビデオテープレコーダー）の場合、録画時間は、ビデオテープ自体の長さと録画速度（標準／3倍など）で決まります。ディスクの場合には、MPEG2(Moving Picture Experts Group2)という可変圧縮方式でビットレート（Mbps：一秒あたりの情報量）の値を変えることで、録画できる時間を変えることができます。
たとえば、バケツに水道から水を入れるとき、蛇口を大きくひねって水をたくさん出すとバケツはすぐにいっぱいになり、少しだけひねって水を出すと、バケツはゆっくりいっぱいになります。このときのバケツがDVD-RAMで、蛇口の回し具合がビットレート、水がいっぱいになるまでにかかる時間が、録画できる時間にあたります。水をたくさん出す、つまりビットレートが高いと、すぐにディスクはいっぱいになり、ビットレートが低いとディスクがいっぱいになるまでの時間が長くなります。

画質について（SP、LP、TS、A1、A2、DL、MNモードの使い分け）

ビットレート(Mbps)が高いということは、その映像に対する情報量が多く、低ければ情報量が少ないということです。ただし、ビットレートの値が高いからといって、必ずしも画質が良いとは言いきれません。ビットレートの数値の違いが大きいときは、画質の違いがわかりやすいのですが、近い値で比べると、その違いを感じにくい場合があります。
一般的に、ビットレートを低く設定すると、動きのおだやかな映像では目立ちませんが、変化が激しい映像では、必要なデータの量が確保できずに細部の情報が欠落し、結果として画面が粗くなってしまいます。たとえば、動きが激しい場面や、水面のように細かい光と影が多い場面では、画面に四角いノイズ(ブロックノイズ)が見えてしまいます。
本機では、4.7GBの未録画ディスクを使って「SP」モードで約2時間、「LP」モードで約4時間の録画ができる設定があります。「SP」モードを標準とし、長時間でかつ画質にこだわらない場合には「LP」モードで録画するという使い分けをお勧めします。
また、録画したい時間が3時間前後だったり、「SP」か「LP」かの選択に迷ったときには、「A1」モードを選択してください。「A1」モードでは、4.7GBの未録画ディスクの場合、録画する時間が約1時間程度から最長約4時間までの範囲で、録画時間に応じて画質を自動で最適値に設定しますので、簡単に良好な画質が得られます。一部録画済みのディスクでも、その残容量に合わせてレート設定をします(録画の直前の空き容量に応じて画質が決定されますので、ディスクに空き容量が少ない場合には、当初確認した画質より低くなるか、最後まで録画できないことがあります)。内蔵HDDへの録画で「A1」モードを設定すると、ディスク片面一枚(4.7GB)にダビングできるビットレートを自動的に設定します。
この「A1」モードは、DVDディスクへの録画時でも選択できます。
音楽番組やアニメなどを一定以上の画質で録画したい、という場合は、「MN」モードの選択をお勧めします。6Mbps以上の場合の画質で録画すると、おおむね良い画質で録画できますが、高くするほど録画可能時間は短くなります。
TSはデジタル放送をそのままの高品質で録画するときに選択します。TSで録画したタイトルは、デジタル放送特有の高画質、高音質で複数の音声などの番組情報をそのまま録画します。そのため、多くの録画容量を使用します。

「A2」、「DL」に関しては 操作編62ページをご覧ください。

◻◻D /M1、◻◻D /M2について

本機で音声を記録する方式です。音声をそのまま記録するのではなく、デジタル信号に圧縮して記録し、再生時には元に戻します。1と2では規格上、使用されるデータの量が異なります。◻◻D /M1、◻◻D /M2は米国ドルビーラボラトリーズの民生用デジタル記録方式を用いています。設定1として◻◻D /M1はDolby Digital 192 kbps、設定2として◻◻D /M2はDolby Digital 384kbpsとなっています。

L-PCM（リニアPCM）について

ドルビーデジタルと同様に音声の記録方式ですが、圧縮せずに、アナログ信号をサンプリングし、48KHz/16bitのデジタル信号に変換して録音します。したがって、使用されるデータ量はドルビーデジタルよりも多くなります。

地上デジタル放送／その他のデジタル放送について

■地上デジタル放送と従来のアナログ放送の違い

デジタル放送はハイビジョンの高画質と高音質が楽しめ、さらにマルチチャンネル放送のため、野球中継などが延長になった場合も最後まで観戦することができたりします。

■双方向サービスとは

本機を電話回線に接続※すると、クイズ番組やオークションなどにも参加することができます。また、テレビショッピングもお楽しみいただけます。
（※接続してご使用になる場合は、別途回線接続料がかかります。また、LANを使用するものもあります。）

■受信アンテナについて

地上デジタル放送はUHF帯域の電波を使って放送されるので、受信するにはUHFアンテナが必要です。現在ご使用中のUHFアンテナが、お住まいの地域の地上デジタル放送チャンネルに対応している場合は、そのまま使用できます。対応していない場合や、UHFアンテナを使用していない場合は、アンテナの交換や設置が必要です。また地上デジタル放送の送信塔の位置によっては、アンテナの方向の調整やブースターの追加などが必要になる場合があります。

■BSデジタル、110度CSデジタルチューナーとの違い

地上デジタル放送は、BSデジタル放送や110度CSデジタル放送と放送方式が異なります。
本機はBSデジタル、110度CSデジタルチューナーも搭載しています。
BSデジタル放送、110度CSデジタル放送を視聴する場合は、これらの放送に対応したアンテナを接続してください。

■マンションなど集合住宅の共同受信

お住まいの地域の地上デジタル放送チャンネルが受信できる設備であれば受信することができます。詳しくは集合住宅の管理会社などにお問い合わせください。

■CATVでの視聴

CATV会社は地上デジタル放送への対応の検討を始めています。ただし、CATV会社によってデジタル化のスケジュールや放送方法が異なりますので、ご契約のCATV会社にお問い合わせください。

■番組の無料／有料について

従来のアナログ放送同様に、地上デジタル放送は無料で放送される予定です。また、NHKの受信に関しては現在ご契約されているのであれば、そのまま受信ができます。

■ハイビジョン番組の放送

1週間の放送時間中の約半分以上はハイビジョン番組が放送される予定です。

ソフトウェアのバージョンアップについて

本機のソフトウェアを書き換えて更新することによって、機能アップや機能の改善などができます。ソフトウェアをバージョンアップするには以下の方法があります。

・放送局がデジタル放送の電波の中にソフトウェアを入れて送信し、それをダウンロードすることによってバージョンアップする。（「放送からの自動ダウンロード」には、本機が地上デジタル放送またはBSデジタル放送を受信できる環境と設定が必要です。）
・東芝サーバーからLAN接続を利用したイーサネット通信（➡「ネット接続設定」章をご覧ください。）で、ソフトウェアのダウンロードをすることによってバージョンアップする。

このほかに当社ホームページからバージョンアップソフトをダウンロードして、本機のソフトウェアをバージョンアップする方法があります。
詳しくは
http://www3.toshiba.co.jp/hdd-dvd/support/をご覧ください。

■「ソフトウェアのダウンロード」ついて

設定メニュー【はじめての設定/管理設定】内の【ソフトウェアのダウンロード】には、以下の二つがあります。（設定方法は➡同ページ「設定の手順」をご覧ください）

●【放送からの自動ダウンロード】
設定を「する」にしておくことによって、自動ダウンロード用のソフトウェアが送られてきたときに、自動的にダウンロードさせることができます。「しない」に設定すると、ダウンロードを自動的に行ないません。

●【サーバからのダウンロード開始】
イーサネット通信を使って、東芝サーバーからソフトウェアのダウンロードをします。【サーバからのダウンロード開始】を選んだあとに【決定】を押すとメッセージが表示されます。更新を行なう場合は、【はい】を選び【決定】を押します。【はい】を選んだあと、サーバー上に更新情報がない場合は、メッセージが表示されダウンロードは行ないません。

■ダウンロードの動作について

・放送からの自動ダウンロードは、電源が「待機」状態のときにだけ、実行されます。
・放送からの自動ダウンロードの実行中は表示窓に「UPDATE」が表示されます。「UPDATE」中は、電源の入／切などの操作はできません。
・ダウンロードがすべて完了したあと、次に電源を「入」にしたときにバージョンアップが成功したことをお知らせするメッセージが表示されます。その後は通常どおり操作できます。
・ダウンロードが失敗した場合は、表示窓に「ERR-05」と表示されます。（この表示を消すにはリモコンの『表示／残量』を押します。）

ご注意！

ダウンロード中は、電源プラグを抜かないでください。
ソフトウェアのダウンロードの書込みが中止され、正常に動作しなくなる場合があります。動作しなくなった場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

お知らせ
・「放送からの自動ダウンロード」は、悪天候の場合などには実行されないことがあります。

■設定の手順

1 （スタートメニュー）を押して、【設定メニュー】を選び、（決定）を押す

2 【はじめての設定/管理設定】を選び、（決定）を押す

はじめての設定/管理設定のメニューに移動します。

3 【ソフトウェアのダウンロード】を選び、（決定）を押す

ソフトウェアのダウンロードのメニューに移動します。

4 【放送からの自動ダウンロード】または、【サーバからのダウンロード開始】を選び、（決定）を押す。

【放送からの自動ダウンロード】は、【する】または【しない】を選び、（決定）を押します。
【サーバからのダウンロード開始】は、（決定）を押すとメッセージが表示されます。メッセージに従って操作してください。

4 用語解説

本機をお使いになる上で、ご参考になる用語を説明しています。

1125i(1080i)
デジタルハイビジョン放送(HD)の一つで、1/60秒ごとに1125本の走査線を半分に分けて交互に流すインターレース(とび越し走査)方式です。走査線数は現行テレビ放送の525本の倍以上の1125本もあるため、細部まできれいに表現され臨場感豊かな映像になります。

525i(480i)
1/60秒ごとに525本の走査線を奇数番目と偶数番目で半分に分けて交互に描くインターレース(とび越し走査)方式です。

525p(480p)
1/60秒ごとに525本の走査線を同時に描くプログレッシブ(順次走査)方式です。
インターレース方式のように交互に描かないので、ちらつきが少なくなります。

750p(720p)
デジタルハイビジョン放送(HD)の一つで、1/60秒ごとに750本の走査線を同時に描くプログレッシブ(順次走査)方式です。
インターレース方式のように交互に描かないので、ちらつきが少なくなります。

AAC
音声圧縮方式の一つで国際的な標準規格である、Advanced Audio Codingの略です。
地上デジタル/BSデジタル/110度CSデジタル放送の映像圧縮方式である「MPEG-2」に採用されています。MPEG-1に採用されている音声圧縮方式「MP3」より、1.4倍ほど圧縮効率が高くなっています。

ADSL
電話回線を使ったブロードバンド接続方式の一種です。回線業者、プロバイダとの契約が必要です。

BS放送
衛星放送のことで、BSとはBroadcasting Satelliteの略です。静止衛星から直接家庭に電波が送られるので、きれいな画面で受信することができます。

B-CAS
デジタル放送(地上デジタル放送、ＢＳデジタル放送、１１０度ＣＳデジタル放送)の各種放送サービスを受信するために必要なカードです。
たとえば、デジタル放送の無料放送、有料放送やデータ放送の双方向サービスなどの放送サービスを利用するために必要となります。
また、このカードはデジタル放送の番組などの著作権保護にも利用されます。
B-CASカードのユーザー登録は無料です。

CATV
ケーブルテレビ(有線放送)のことです。

CPRM(Content Protection for Recordable Media)
著作権保護のために映像を暗号化する技術のことです。デジタル放送の「1回だけ録画可能」な番組や、コピー制限のある番組は、CPRMに対応した機器とディスクでだけ録画できます。

DLNA
Digital Living Network Allianceの略で、ホームネットワーク内でデジタルAV機器同士やパソコンを相互に接続し，動画、音楽、写真などのコンテンツを有線・無線のLANを通して相互利用する機能を提供するための共通仕様を策定するために設立された団体のことです。
一般的には、DLNAが定めた仕様「相互接続ガイドライン」(DLNAガイドライン)のことを指しています。

DTS
デジタルシアターシステムズ社が開発した、劇場向けデジタル音声システムのことです。
音声6chを使って、正確な音場定位とリアルな音響効果が得られます。DTS対応プロセッサやアンプとの接続で映画館のような音声が楽しめます。

D映像端子
コンポーネント(色差)ビデオ信号と制御信号を一つにまとめた端子で、デジタル放送やDVDプレーヤーなどに対応しています。
色信号の干渉を避けるために、映像信号を輝度、赤系、青系の三つの信号に分け、それぞれの専用回路で信号処理し、画面に映すときに合成しますので、より自然に近い映像がお楽しみいただけます。

DHCP
サーバーやブロードバンドルーターが、IPアドレスなどを本機に自動的に割り当てる仕組みのことです。

HDMI
デジタルHDTV映像信号とデジタルオーディオ信号を1本のケーブルで伝送するAV信号の伝送方式です。
(High Definition Multimedia Interface)
HDMI端子のある機器同士を接続すれば、高画質·高音質な映像と音声をデジタル伝送できます。

HD/SD
デジタル放送の画質は、HD（デジタルハイビジョン)、SD（デジタル標準)の二つがあります。本機では、この二つの画質を判別し、本体の表示窓に表示します。

IPアドレス
インターネットなどのネットワークに接続されたコンピューターを識別する番号のことです。家庭では、ブロードバンドルーターなどのDHCP機能で自動的に割り当てられるのが一般的です。

L-PCM(リニアPCM)
圧縮せずにデジタル信号に置き換えられた信号です。CDでは、44.1kHz/16bitで記録されているのに対し、DVDでは48kHz/16bit～96kHz/24bitで記録されていますので、CDよりも高音質での再生が可能です。

MACアドレス
ネットワークに接続されている機器を識別するためのアドレスで､イーサネットアドレスやハードウェアアドレスなどと呼ばれることもあります。

MPEG
Moving Picture Experts Groupの略で、動画音声圧縮方法の国際標準です。
DVDビデオの映像やビデオCDの映像／音声はこの方式で記録されています。
DVDビデオには、この方式でデジタル音声を圧縮して記録しているディスクもあります。

PCM(Pulse Code Modulation)
アナログ音声をデジタル音声に変換する方式の一つです。「パルス・コード・モジュレーション:パルス符号変調」の略で、手軽にデジタル音声が楽しめます。

S映像出力
映像信号をカラー (C)信号と輝度(Y)信号に分離してテレビに伝えるため、より鮮明な画像を得られます。

TS録画
デジタル放送から送られてくる信号をそのままに録画する方式です。ハイビジョン画質や5.1ch音声をそのままの高品質で録画することができます。ただし、録画先は内蔵HDDに限られています。
内蔵HDDにTS録画をしたデジタル放送番組は、「TSタイトル」として保存されます。
デジタル放送を録画または録画予約するときに、「W録」(録画するエンコーダーの設定)で「RE」を選択するとDVDディスク※にも録画できるようになります(VR互換録画)。VR互換録画をしたデジタル放送番組は、「VRタイトル」として保存されます。
（※デジタル放送をDVDディスクにVR互換録画するときは、VRフォーマットで初期化したCPRM対応ディスクが必要です。ただし、一部CSデジタル放送などのコピーフリーの番組は、DVD-R/RW（Videoフォーマット)にダビングすることもできます。VR互換録画の場合、ハイビジョン画質や5.1chの音声をそのままの高品質で録画することはできません。）

Videoフォーマット(DVD-Video Format)
市販のDVDプレーヤーやDVD-ROMドライブと互換性のある記録方法です。

VR録画(VR互換録画)
デジタル放送とアナログ放送どちらも録画できる方法で、任意の録画品質(SP、LP、MN、A1、A2、DL)を選ぶことができます。（ハイビジョン画質や5.1chの音声をそのままの高品質で録画することはできません。）
録画または録画予約するときに、「W録」で「RE」を選択します。詳しくは「TS録画」の項目もご覧ください。

VRフォーマット
録画の際の制限事項が少なく、CPRM対応ディスクなら「1回だけ録画可能」な映像を録画することもできる記録方法です。

アスペクト比
テレビ画面の横と縦の比率(画面比)です。従来サイズのテレビは画面の比率が4：3です。ワイドテレビは画面の比率が16：9となっているので臨場感あふれる映像を楽しめます。

アナアナ変換
地上デジタル放送を開始するに当たって、現在使用されているUHFチャンネルをデジタル放送に影響を与えないチャンネルに移動する事をアナアナ変換と言います。
変換作業の費用は国から指定を受けた社団法人電波産業会(ARIB)が無料で行ないます。ただし、あくまで個人を対象としています。

アンテナレベル
アンテナからはいってくる電波の品位のことです。受信チャンネルや天候、季節、時間帯、受信している地域、アンテナ接続ケーブルの長さなどによって影響を受けます。

インターレース出力／プログレッシブ出力
従来の映像信号は525i(i:インターレース=飛び越し走査)といわれますが、525i信号よりも高密度な映像信号を525p(p:プログレッシブ=順次走査)といいます。詳しくは､「525i(480i)」､「525p(480p)」の項目をご覧ください。
プログレッシブ映像を楽しむには、対応テレビが必要です。

エンコーダー
録画する映像に圧縮をかけて、DVDの録画用の形式(MPEG2)に変換する、録画用の回路のことです。

追っかけ再生
HDDに録画しながら、録画中の番組を再生して見ることができる機能です。

オリジナル/プレイリスト
テレビ放送や外部入力などを録画した映像(タイトル)を｢オリジナル｣と呼びます。
オリジナルのタイトルから、必要なシーンだけを集めて再生したり、新たなタイトルとしてコピーしたりできる仮想のタイトルのことを｢プレイリスト｣と呼びます。

(株)B-CAS
BSデジタル放送の限定受信システム(CAS)を管理するために設立された(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズの略称です。B-CASカードの発行・管理をしています。地上デジタル放送や110度CSデジタル放送も同システムを使用しています。

ゲートウェイアドレス
インターネットのアクセスで経由すべき機器のIPアドレス。通常はブロードバンドルーターのIPアドレスをいいます。

コピーガード
複製防止機能のことです。著作権者などによって複製を禁止する旨の信号が記録されているソフトおよび放送番組は録画することができません。

サブネットマスク
ネットワークを効率よく使うために、ブロードバンドルーターにつなぐ機器のIPアドレスを絞り込むための数字です。

サムネイル
映像を縮小して表示した静止画のことです。

視聴制限(パレンタルレベル)
デジタル放送や市販のDVDビデオディスクの中には、視聴者の年齢に合わせて、ディスクを見るための規制レベルが設定されているものがあります。そのような放送やディスクを視聴したときの規制レベルを本機では設定することができます。

スカパー！
ここでは(株)スカイパーフェクト･コミュニケーションズが行なう､通信衛星を利用した放送サービス、SKY PerfecTV ！（通称：スカパー！）のことを指します。
他に、CSデジタル放送サービスのe2 by スカパー！があります。

タイトル
本機で録画した番組や、DVDディスクやCDなどに記録された一つの映像や音声などをタイトルといいます。

地上アナログ
従来のUHF・VHF放送(アナログ放送)のことです。

チャプター
タイトルをさらに区切ったものをチャプターといいます。

ディスクメニュー／トップメニュー
市販のDVDビデオディスクに記録されているメニューで、字幕の言語や吹き替え音声などを選ぶことができます。ディスクによっては、トップメニューのことを｢タイトルメニュー｣と呼んでいるものもあります。

データ放送
見たい情報を選んで画面に表示させることができます。たとえば地域の天気予報を、表示させることができます。また、テレビ放送やラジオ放送に連動したデータ放送もあります。
そのほかに、電話回線を使用して視聴者参加番組､ショッピング､チケット購入などの双方向(インタラクティブ)サービスなどが行なわれます。

デジタルハイビジョン
デジタル放送には、デジタル標準テレビ放送(SD)とデジタルハイビジョン放送(HD)があります。ハイビジョンの走査線数は従来のテレビ放送の525本の倍以上の1125本もあるため、細部まできれいに表現され臨場感豊かな映像になります。

トラック
音楽用CDなどの各曲をトラックといいます。

ドルビーデジタル(5.1ch)

ドルビー社が開発した立体音響効果のことをいいます。ドルビーデジタル(5.1ch)対応プロセッサやアンプとの接続で、映画館のような音声が楽しめます。

ビットストリーム

圧縮され、デジタル信号に置き換えられた信号です。AVアンプなどに搭載されたデコーダーによって、5.1chなどのマルチチャンネル音声信号に戻されます。

ファイナライズ(終了処理)

録音・録画されたディスクなどを、他の再生対応機器で再生できるように処理すること。ファイナライズすると再生専用ディスクとなり、録画や編集ができなくなります。

フォーマット(初期化)

ディスクに録画する方式は機器によって異なります。そこで機器に合わせて、録画などができるようにディスクを処理することをフォーマットといいます。フォーマットすると、それまでに録画した内容はすべて消去されます。

ブラウザ

ネットワーク上のページを表示するためのソフトウェアです。

プログレッシブ出力

➡ 77、79ページの「525p(480p)」「インターレース出力／プログレッシブ出力」をご覧ください。

プロテクト

録画した内容を誤って消してしまわないように、書込みや消去の禁止を設定することです。

プロバイダ

ケーブルや電話回線に接続した機器をインターネットに接続するサービスをしている会社の総称です。

ブロードバンド

ご家庭でいつでもインターネットを楽しめる、ADSLなどのインターネット接続環境です。電話モデムを使用するのに比べて、高速なアクセスが可能です。

マルチアングル

市販のDVDビデオディスクの特長の一つで、複数のカメラで角度を変えて撮影したものを、一枚のディスクに収録し、再生時に好みに応じてアングルを選んで楽しめる機能です。(マルチアングル記録のディスクで楽しめる機能です。)

マルチ音声

市販のDVDビデオディスクの特長の一つで、同じ画像に対して異なる音声をいくつも記録し、音声を切り換えて楽しめる機能です。

リージョン番号(再生可能地域番号)

世界を六つの地域に分け、それぞれの地域に定めた1から6までの番号をリージョン番号といいます。リージョン番号はソフト(市販のDVDビデオディスク)とプレーヤー (再生機器)の両方に付けられ、これが一致しないと再生できません。
日本のリージョン番号は「2」です。

リニアPCM音声

「L-PCM」の項目をご参照ください。

本機で使われるソフトウェアのライセンス情報

本内容はライセンス情報のため、操作には関係ありません。

本機に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれに東芝または第三者の著作権が存在します。

本機は、第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメントあるいは著作権通知(以下､「EULA」といいます）に基づきフリーソフトウェアとして配布されるソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするよう求めているものがあります。当該「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントのお問い合わせに関しては、以下のホームページをご覧いただくようお願いいたします。
ホームページアドレス
http://www3.toshiba.co.jp/hdd-dvd/contact
また、本機のソフトウェアコンポーネントには、東芝自身が開発または作成したソフトウェアも含まれており、これらソフトウェアおよびそれに付帯したドキュメント類には、東芝の所有権が存在し、著作権法、国際条約条項および他の準拠法によって保護されています。なお、「EULA」の適用を受けない東芝自身が開発または作成したソフトウェアコンポーネンツは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

ご購入いただいた本機は、製品として、弊社所定の保証をいたします。

ただし､「EULA」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントには、著作権者または弊社を含む第三者の保証がないことを前提に、お客様がご自身でご利用になられることが認められるものがあります。この場合、当該ソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は一切ありません。著作権やその他の第三者の権利等については、一切の保証がなく、"as is"（現状）の状態で、かつ、明示か黙示であるかを問わず一切の保証をつけないで、当該ソフトウェアコンポーネントが提供されます。ここでいう保証とは、市場性や特定目的適合性についての黙示の保証も含まれますが、それに限定されるものではありません。当該ソフトウェアコンポーネントの品質や性能に関するすべてのリスクはお客様が負うものとします。また、当該ソフトウェアコンポーネントに欠陥があるとわかった場合、それに伴う一切の派生費用や修理・訂正に要する費用は、東芝は一切の責任を負いません。適用法令の定め、または書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、または使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。著作権者や第三者が、そのような損害の発生する可能性について知らされていた場合でも同様です。なお、ここでいう損害には、通常損害、特別損害、偶発損害、間接損害が含まれます（データの消失、またはその正確さの喪失、お客様や第三者が被った損失、他のソフトウェアとのインタフェースの不適合化等も含まれますが、これに限定されるものではありません)。当該ソフトウェアコンポーネンツの使用条件や遵守いただかなければならない事項等の詳細は、各「EULA」をお読みください。

本機に組み込まれた「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントは、以下のとおりです。これらソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用いただく場合は、対応する「EULA」をよく読んでから、ご利用くださるようお願いいたします。なお、各「EULA」は東芝以外の第三者による規定であるため、原文を記載します。

本機で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント **原文**

対応ソフトウェアモジュール	
Linux Kernel busybox iptables	Exhibit A
glibc gcc	Exhibit B
ppxp	Exhibit C
malloc	Exhibit D
libupnp	Exhibit E
pMON	その他

E x h i b i t A

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License;they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1.You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2.You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part there of, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License.
(Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program,and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3.You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code,which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any thirdparty, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange;or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.
If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4.You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5.You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6.Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7.If as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all.

For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8.If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9.The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10.If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11.BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS

WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12.IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<One line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright © 19yy <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation,Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright © 19yy name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items – whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program; if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>,1 April 1989 Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

E x h i b i t B

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1, February 1999

Copyright © 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages – typically libraries – of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/ or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear

that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. Toachieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0.This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/ or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1.You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2.You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.

b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.
(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely welldefined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any applicationsupplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate

works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3.You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4.You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5.A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6.As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.
You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7.You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other

library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8.You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9.You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10.Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library", the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11.If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12.If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13.The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14.If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15.BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/ OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16.IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright © <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software

Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation,Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names: Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>,1 April 1990

Ty Coon,President of Vice

That's all there is to it!

ExhibitC

●利用と配布
Copyright (c) 1997, 1998, 1999 The PPxP Development Team, All rights reserved.

以下の条件が満たされる限り、変更の有無に関係なくソースおよびバイナリ形式での再配布と利用を許可します：

ソースコードの再配布には上記の著作権表示、これらの条項と後述の免責条項がそのまま含まれていなければなりません。バイナリ形式の再配布には上記の著作権表示、これらの条項と後述の免責条項が配布に含まれている文章、もしくはその他の資料にそのまま含まれていなければなりません。
このソフトウェアの機能や利用方法について記述されている全ての宣伝資料には以下の文章を記載して下さい：
この製品には PPxP 開発チームによって開発されたソフトウェアが含まれています。

事前承諾なしにこのソフトウェアから派生した製品の推奨や宣伝のためにこのチームや賛同者達の名前を利用することはできません。

●免責
PPxP 開発チームが提供しているのはソフトウェアそのもののみであり、保証や責任などを提供しているわけではありません。このソフトウェアを導入したり、利用したりすることにより、あるいは何もしないことによって生じたいかなる問題についてもこのチーム、そのメンバー、テスター、および本ソフトウェア内に名前が記載されている者が責任を負うことはありません。

ExhibitD

This is a version (aka dlmalloc) of malloc/free/realloc written by Doug Lea and released to the public domain.
Use, modify, and redistribute this code without permission or acknowledgement in any way you wish. Send questions, comments, complaints,

performance data, etc to dl@cs.oswego.edu

VERSION 2.7.2 Sat Aug 17 09:07:30 2002 Doug Lea (dl at gee)

Note: There may be an updated version of this malloc obtainable at
ftp://gee.cs.oswego.edu/pub/misc/malloc.c

Check before installing!

ExhibitE

under an open source software distribution license in 2000.

Copyright (c) 2000-2003 Intel Corporation All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither name of Intel Corporation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL INTEL OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

困ったときの解決法

故障かな…？と思ったときや、操作ができずに困ったときなどは、アフターサービスをご依頼になる前に、次の点をお調べください。

	このようなとき	ここをお調べください!
電源	電源がはいらない	● 電源プラグが抜けていませんか。 ● 停電で電源が切れていませんか？安全保護装置が働いていることがあります。その際は、再度コンセントに差し込んで電源を入れてください。 ● 過大な静電気や落雷による電源電圧などの異常を受けたりしていませんか？本機を外部からの影響を受けない場所に置いてください。
	電源を入れて画面が表示されるまでに時間がかかる	● 本機が起動している途中であり、正常に動作しています。
	電源「切」状態に動作音がする	● 電源が「切」状態でも、本機内部では録画予約メールの取得や番組データの取得などの動作処理を行なっていることがあるため、ファンが回転します。
テレビの接続	テレビに映像が出ない	● 本機とテレビをつなぐ接続コードが抜けている、または抜けかけていませんか。 ● テレビ側の入力切換が間違っていませんか。 →本機と接続している入力端子にテレビの入力切換を合わせてください。 ● 【D2(480p)】､【D3(1080i)】､【D4(720p)】出力に設定している場合、映像出力(黄)端子、S端子からは映像が出力されません。 →『解像度切換』を押して、出力を切り換えてください。(導入・設定編39ページ)
	本機を接続したら、テレビの映りが悪くなった	● アンテナ線を本機→テレビに接続したときや、分配器を使って接続した場合、受信電波レベルが減衰してしまうことがあります。この場合、市販のブースターを使うと改善されることがあります。(導入・設定編37ページ) ● アンテナ線が劣化していませんか。販売店にご相談ください。
	どのケーブルでテレビと接続すればいいのかわからない	● お使いのテレビの取扱説明書をご用意ください。 テレビにどの端子があるかご確認ください。 以下の順がおすすめの接続端子です。 ①HDMI入力端子 ②D入力端子(D4対応推奨) ③SまたはS1、Ｓ２対応入力端子 ④黄(コンポジット)入力端子
	ハイビジョン対応テレビとD端子を使って接続したが、テレビにきれいな映像が出ない	● 『解像度切換』を押して、接続したテレビのD端子(D1～4)に合わせて解像度を切り換えてください。(導入・設定編39ページ)
	ＨＤＭＩケーブルで接続したが、映像や音声が出ない／急に出なくなった	● 設定メニューから、以下の設定を確認してください。 － 映像が映らない場合、『解像度切換』を押して出力を切り換えてください。(導入・設定編39ページ)その後、「映像出力切換設定」を【HDMI優先】に設定してください。(62ページ) － 音声が出ない場合、「デジタル音声出力設定」を【HDMI-AUTO】に設定してください。(64ページ) ● 本体表示窓に「HDMI」と点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、再度接続しなおしてみてください。 ● HDMI対応テレビの電源を入れ直してください。 ● 本機またはHDMI対応テレビの電源が「入」状態のときにHDMIケーブルを再度接続しなおしてみてください。 ● HDMI対応テレビの電源を入れてから約30秒後に本機の電源を「入」にしてみてください。 ● HDMI規格に準拠したケーブルを使っているか確認してください。規格に準拠していないと、正しく動作しないことがあります。(導入・設定編39ページ) ● HDMIケーブルを、コネクターを使って複数のケーブルで延長したときは、性能の保証はできません。

	このようなとき	ここをお調べください!
アンテナの受信全般	テレビが映らない	● アンテナ線がはずれている、またははずれかけていないか確認してください。
	地上アナログ放送がきれいに映らない	● チャンネルの設定またはチャンネルの調整がずれていませんか。 →チャンネルの設定またはチャンネル微調整を再度行なってみてください。 （導入・設定編50～53ページ） ● 電波が弱くありませんか。 →アンテナの設置方向を調整するか、市販のアンテナブースターを使用してください。
	地上アナログ放送で、色が消えたり映像が不安定になるチャンネルがある	● 色が消えたり映像が不安定になるときは、「微調整」をしてみてください。 （導入・設定編53ページ）
	地上デジタル、アナログ放送の映像が不安定になる	● 地上デジタル、アナログ放送を本機で受信しているとき、アンテナからはいる電波が強すぎて、映像が不安定になるときがあります。 （例：受信ができなかったり、映像にノイズが出るなど） そのときには、設定メニューの「地上放送受信感度」を【モード2】に設定してみてください。（導入・設定編53ページ） ● 市販の放送波対応ブースターを使うと改善されることがあります。（導入・設定編37ページ）
デジタル放送全般	デジタル放送だけ映らない/映りが悪い	● 電波の種類（BS、110度CS、地上デジタル）に適合したアンテナを使用していますか。 （導入・設定編36ページ） ● アンテナ線がはずれている、またははずれかけていないか確認してください。 ● アンテナの向きがずれていませんか。 →アンテナの向きを調整してください。 ● B-CASカードが正しく挿入されていますか。（導入・設定編18ページ） ● 積雪や豪雨、雷などで電波が弱くなっていませんか。 →気象状況が改善されるまでお待ちください。降雨対応放送の場合、映像の品質は通常に比べて悪くなります。 ● 市販の放送波対応ブースターを使うと改善されることがあります。（導入・設定編37ページ）
	BS・CSデジタル放送対応アンテナを接続したが、放送が映らない	● 個人でBS・110度CSデジタル放送対応アンテナを接続した場合は、「BS・110度CSアンテナ電源設定」を【パワーセーブ】に設定してください。（導入・設定編68ページ） ● BS・110度CSデジタル放送対応アンテナを使用していますか。BSデジタル放送のみを受信する場合でも、従来のBSアンテナでは受信できない場合があります。 ● アンテナ線やアンテナプラグが劣化またはショートしていませんか。 ● BS・110度CSデジタル放送に対応したアンテナ線や分配器、分波器、ブースターなどを使用していますか。 ● 風や振動により、アンテナの向きが変わっていませんか。アンテナを調整し、【BS・110 度CSアンテナレベル】でアンテナレベルが最大になる角度にしてください。 （導入・設定編69ページ） ● 着雪（アンテナ）、雨、雷雲などによる電波の減衰が考えられます。BS・110度CSデジタル放送は、雨や雷、雪などに弱く、一時的に映像や音声が止まったり、全く受信できなくなることがありますので、その際は、天候の回復をお待ちください。 ● 降雨対応放送になっていませんか。雨の影響により、衛星からの電波が弱くなると、放送によっては電波が弱くても受信可能な降雨対応放送に切り換わることがあります。降雨対応放送は画質、音質が悪くなることがあります。天候が回復すれば、元の画質、音質に戻ります。 ● 放送衛星のメンテナンスのため、一時的に放送が休止している場合があります。放送が開始されるまでお待ちください。
	特定のチャンネルの映像や音声が出ない	● アンテナとの接続にデジタル放送に非対応のケーブルなどを使用していないか確認してください。 ● 携帯電話など本機の受信周波数帯域に相当する周波数を使用している機器の影響によって、映像や音声が出なくなる場合があります。 →デジタル放送に対応したアンテナケーブルなどをご使用ください。
	有料放送が視聴できない	● B-CASカードは正しく挿入されていますか。（導入・設定編18ページ） ● 有料放送の視聴には、事前に放送事業者との契約が必要です。
	有料放送（ペイ・パー・ビュー）が見られない	● B-CASカードは正しく挿入されていますか。（導入・設定編18ページ） また、事前に放送事業者と契約して、購入の手続きを行なってください。 ● 電話回線を正しく接続していますか。（導入・設定編43ページ） ● 電話回線の設定を行なっていますか。（導入・設定編60ページ～）
	雪や大雨のときに、BSデジタル放送やCSデジタル放送が受信できない	● 天候の影響でBS、CSデジタル放送が受信できなくなることがあります。降雨対応放送が行なわれているときは、クイックメニューから【信号切換】-【降雨対応放送】を選んでください。

	このようなとき	ここをお調べください!
デジタル放送全般(つづき)	引越しをしたら、データ放送や文字スーパー表示が表示されなくなった	● データ放送用の地域設定は正しいですか。 「郵便番号と地域の設定」(☞ 導入・設定編58ページ)を行なってください。
	未読の「お知らせ」がなくなっている	●「放送局からのお知らせ」、「本機に関するお知らせ」については、最大数を超えて受信した場合は削除されることがあります。(☞ 58ページ) ●「ボード」については、そのとき受信したものしか表示されません。 ●「設定を出荷時に戻す」を行なうと、お知らせの内容は削除されます。
	視聴設定の暗証番号を忘れてしまった	● 視聴設定(☞ 導入・設定編64ページ)の暗証番号は、パレンタルロックやカギ付きフォルダの暗証番号と異なり、忘れてしまったときはご自身で変更することができないため、有償でのご対応となります。 暗証番号を忘れた場合は、「RDシリーズサポートダイヤル(☞ 裏表紙)」にご連絡ください。
地上デジタル放送の受信など	地上デジタル放送が受信できない	● 地上デジタル放送用アンテナは正しく接続されていますか。(☞ 導入・設定編11ページ〜) ● アンテナの方向は正しいですか。 →アンテナレベルの数値が小さい場合は、アンテナの方向調整をしてください。(☞ 導入・設定編69ページ) ● B-CASカードは正しく挿入されていますか。(☞ 導入・設定編18ページ) ● 初期スキャンを行ないましたか。(☞ 導入・設定編54ページ) ● お住まいの地域で放送は行なわれていますか。 →地上デジタル放送が行なわれているかを、もよりの放送局にお問い合わせください。 ● 共聴システムご使用の場合、共聴システムは地上デジタル放送に対応(パススルー方式)になっていますか。 →CATVの場合は、ご契約のCATV会社に、その他の場合は共聴システムの管理者にお問合せください。
	引越しをしたら、地上デジタル放送が受信できなくなった	● 県外に引っ越した場合は、「初期スキャン」(☞ 導入・設定編54ページ)を行なってください。 ● 県内で引っ越した場合は、「再スキャン」(☞ 導入・設定編55ページ)を行なってください。(北海道エリアでは「初期スキャン」の場合があります。)
	「地上Dアンテナレベル」画面では受信できるチャンネルが、それ以外のときには受信できない	●「再スキャン」(☞ 導入・設定編55ページ)を行なってください。
	イーサネット通信ができない (LAN端子を使った双方向サービスができない)	● LAN端子は正しく接続されていますか。(☞ 14ページ〜) ● イーサネット利用設定を【利用する】に設定してください。(☞ 導入・設定編78ページ)
	ダイヤルアップ通信ができない	● 電話回線は正しく接続されていますか。(☞ 導入・設定編43ページ) ●「通信接続方法選択」を【イーサネット優先】に設定していますか。(☞ 導入・設定編77ページ)
	通信速度が遅い、不安定	● 接続ケーブルが長すぎる場合、通信速度が遅くなることがあります。 ● 接続機器の使用状況によっては、通信速度が遅くなる場合があります。(データ量が多い場合など) ● イーサネット通信の場合、通信環境によるもの(ADSLの場合、電話局から遠いなど)ではありませんか。 ● 回線が混んでいると、通信速度が遅くなることがあります。
CATVとの接続	ケーブルテレビ(CATV)で地上デジタル放送は受信できない?	● CATVパススルー方式でサービスが行なわれていれば、受信できます。受信できるのは「UHF、VHF、ミッドバンド(MID：C13 〜 C22)帯、スーパーハイバンド(SHB：C23〜C63)帯」です。(トランスモジュレーション方式には対応しておりません。) 詳しくは、提供のCATV会社にお問い合わせください。
外部機器との接続	DVI端子がついたモニターとつなぎたい	● 本機のHDMI出力端子とDVI入力機器(モニターやプロジェクターなど)と接続するときは、HDMI-DVI変換ケーブルが必要です。ただし、接続する機器やケーブルによっては、映像が出力されないことがあります。接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。
視聴	地上アナログ放送に切り換えられない	●「TS」を選んでいませんか。 →『W録』を押して、「RE」に切り換えてください。

困ったときの解決法（つづき）

	このようなとき	ここをお調べください!
映像	市販のDVDビデオディスクを再生するとき、ハイビジョン映像で出力されない	● 市販のDVDビデオディスクの場合、ディスクによっては、コピーコントロール情報、出力解像度制限情報などが含まれているため、D端子からの出力が525p（480p）に制限されることがあります。
	映像が伸びてしまったり、画面内におさまらない	● 設定メニューから「操作・表示設定」－「TV画面形状」を選び、お使いのテレビに合わせて画面比を変更してください。(➡ 導入・設定編49ページ) ● DVD-R/RW(Videoフォーマット)に16：9(ワイド)の映像を録画したときは切り換わりません。 ●【4：3ノーマル】に設定してもDVDビデオディスクや録画モードによっては【4：3LB】に切り換わることがあります。 ● オートワイド機能に対応している端子で接続してください。ワイドテレビと接続するときは、アスペクト比(画面の横・縦比)の異なった映像を自動的に識別する機能(オートワイド)を持つ、テレビのS1（またはS2)、D端子またはHDMI映像入力端子と接続してください。 ワイド放送や市販のDVD ビデオディスクのなかには、映像がフルモードで記録されたものがあります。このような場合には、S1（またはS2)、D 端子またはHDMI 映像端子で接続していると、再生時にワイドテレビ画面で自動的に16:9のアスペクト比で映像を表示します。 ● 本機で設定できないときは、テレビ側で設定してください。
設定	「はじめての設定」が表示されない／もう一度やり直したい	●「スタートメニュー」－「設定メニュー」－「はじめての設定/管理設定」－「はじめての設定」を選び、設定を行なってください。(➡ 導入・設定編46ページ)
	時刻がずれている	● 設定メニューから「操作・表示設定」－「時刻設定」を選び、変更します。 また、「ジャストクロック」を設定すると、自動で時刻を合わせます。 (➡ 導入・設定編47ページ)
表示	画面に ⓘ マークが表示されている	● 未読のデジタル放送のお知らせ(放送局からのお知らせ／本機に関するお知らせ)があるときに表示されます。 お知らせを読みたいときは、設定メニューから「はじめての設定/管理設定」－「デジタル放送のお知らせ」の順に選んでください。お知らせを表示するとマークは消えます。
番組表	番組表をADAMSに設定したが、表示されない	● テレビ朝日系列を受信できない地域ではADAMSからの番組表データを受信できません。（2008年4月現在、富山・福井・山梨・鳥取・島根・高知・徳島・宮崎では、ご利用いただけません。また、上記以外の地域でも、受信状態や電波の状態によって利用できない場合があります。） ● ADAMS設定直後に番組表を表示しても、データを受信するまで番組表は表示されません。一日数回、番組データを受信するので、それまでしばらくお待ちください。
	番組表が表示されない	●「番組ナビ」－「番組ナビ設定」－「番組ナビチャンネル設定」の順に選び、表示したい放送に「番組表表示」のチェック(✔)がはいっているかどうか、ご確認ください。 ● 番組表データを受信するまでは表示されません。設定してからはじめて受信するまでに一日程度かかることがあります。
	BSデジタル・110度CSデジタル放送アンテナと接続したところ、放送は受信できたが番組表が表示されない	● 番組表を表示するには、「番組ナビ」－「番組ナビ設定」－「番組ナビチャンネル設定」の順に選び、BSデジタルまたは110度CSデジタルの「番組表表示」にチェック(✔)を入れてください。 （番組表データを受信するまでに、しばらく時間がかかることがあります。）
	デジタル放送の番組表がところどころ抜けている	● デジタル放送の受信状況などによって起こるもので、故障ではありません。 デジタル放送の番組表表示中に「クイックメニュー」を押して、【番組表更新】を選び、最新の番組データを取得すると、「歯抜け」状態が改善されることがあります。 また、番組データを正しく取得するには、毎日3時間以上、本機の電源を待機状態にしておくことが必要です。
	番組表の縦横表示を切り換えたい	● 番組表表示中に『クイックメニュー』を押して、【縦横表示切換】を選んでください。
	「地上アナログ/ライン入力の番組データ取得」でiNETからADAMSに切り換えられない	●「おすすめサービス」を【利用する】に設定していませんか。 「おすすめサービス」を【利用する】に設定していると、ADAMSからiNETには切り換えられますが、iNETからADAMSには切り換えられなくなります。「おすすめサービス」を【利用しない】に設定してください。(➡ 操作編78ページ)
再生	DVDやCDの再生ができない	● 記録されているフォーマットが未対応、または、リージョン番号が本機で再生できるディスク以外の番号ではないですか。 →ディスクを確認してください。 ● ディスクによごれまたは傷が付いていませんか。 →ディスクのよごれを取る、または交換してください。 ●「HDD」が選ばれていませんか。 →『ドライブ切換』を押して、「DVD」に切り換えてください。 ●「再生できません」と表示されたときは、ディスクを取り出してください。

	このようなとき	ここをお調べください!
再生(つづき)	市販のDVDを再生しているときに、『音声／音多』ボタンを押しているのに音声が日本語に切り換わらない	● DVDビデオに日本語の音声がはいっているかどうかご確認ください。 日本語の音声がはいっているのにもかかわらず、『音声/音多』を何度か押しても切り換わらないときは、DVD側のメニュー画面から音声を切り換えてください。 ※リモコンのボタンでの切換えはディスクによっては制限されている場合があります。
	内蔵HDDのタイトルが再生できない	● 「DVD」が選ばれていませんか。 →『ドライブ切換』を押して、「HDD」に切り換えてください。
	再生中に、不自然なブロック状のノイズ(ブロックノイズ)が見えるときがある	● 以下の場合に発生することがあります。 － 元の映像にブロックノイズがすでにある状態での録画の場合 － 天候などによって、受信状態が悪化した状態での録画の場合 － 画像レート設定が低い状態での録画の場合 － 画面の激しい変化に映像処理が対応できない場合 － ディスク上の物理エラーによる場合 (なお、内蔵HDDの寿命によって大量に発生する場合は内蔵HDDの交換が必要です。販売店または「東芝家電修理ご相談センター」にご相談ください。) 再生でディスクからデータを読み出すときにエラーが発生すると、その部分でブロックノイズが発生する場合があります。この現象は、エラーが発生した部分を何度もくり返して読み出す(リトライ)と起こりにくくなりますが、そのかわりに再生が途中で遅くなったり止まったりする可能性が高くなるので、本機ではエラー発生時の読みなおし回数を制限して、そのときの再生が遅れたり止まったりしないようにしています。
	DVDビデオディスク挿入時に放送内容の番組説明が表示できない	● 市販のDVDビデオディスクやファイナライズ済みのDVD-R/RW（Videoフォーマット）ディスク挿入時に「DVD」が選ばれていると、『モード』『番組説明』『戻る』のボタンはそれぞれ『トップメニュー』『メニュー』『リターン』として動作します。 停止中に放送画面の番組説明を表示するときは、『ドライブ切換』を押して、「HDD」に切り換えてください。
	作成したDVDビデオディスクの番組説明が表示できない	● 本機で作成したディスクの番組説明を表示するには、見るナビや編集ナビ画面を表示し、対象のタイトルにカーソルを合わせた状態で『番組説明』を押してください。
	録画したはずのタイトルが「見るナビ」で表示されない	● 自動削除機能で削除された可能性があります。 自動で削除されないようにするには、タイトルを保護してください。 (➡ 操作編100 ページ) また、録画予約の際に「自動削除」を【しない】に設定しておけば、タイトルが自動削除されることはありません。
	タイトルの削除方法を知りたい	● 以下の方法をご参考ください。 ①見るナビを表示し、削除したいタイトルにカーソルを合わせます。 ②リモコンの『クイックメニュー』を押して【タイトル削除】を選び『決定』を押します。 ③削除確認メッセージが画面上に出てきます。選択肢で【はい】を選んで『決定』を押すと、タイトルは削除されます。 ※一度削除したタイトルは元に戻すことができません。よく確認をしたうえで削除してください。 上記の方法以外にも、複数のタイトルを削除する方法(「一括削除」(➡ 操作編132ページ))があります。
	他の機器で作成したディスクが再生できない	● 他の機器で作成されたディスクは互換性が低く、再生できない場合があります。
	CD-RやCD-RWに記録してあるJPEG画像の再生ができない	● CD-DAフォーマットで記録されたCD-RやCD-RWは再生できますが、JPEG画像などが記録されているディスクの再生はできません。 ● 本機はCD-RやCD-RWには記録できません。
	海外で購入したDVDビデオディスクは再生できる?	● 以下のディスクは再生可能です。 － 映像方式がNTSCで記録されている。 － DVDビデオの場合、リージョンコード／番号が「ALL」または「2」を含んでいる。(ディスクのジャケットなどに記載されています。) ● DVDビデオディスクでも、正式な販売地域以外のディスクや業務用ディスクなどの中には、本機での再生が禁止されているものがあります。正式な販売地域以外のディスクは再生できません。(正式な販売地域のディスクでもすべてディスクの再生を保証するものではありません。)
	市販のHD DVDビデオディスクが再生できない	● 本機はHD DVDディスクには対応していません。
	市販のブルーレイディスクが再生できない	● 本機はブルーレイディスクに対応していません。

困ったときの解決法（つづき）

	このようなとき	ここをお調べください!
録画予約	録画予約ができない	● 時計の時刻設定はしていますか。 →時刻設定をしてください。(導入・設定編47ページ) ● 予約内容がいっぱいになっていませんか。 →不要な予約を取り消してください。(操作編71ページ)
	録画中に、録画予約をキャンセルできない	● 予約録画中は、録画予約をキャンセルできません。現在の録画が終了してから、予約キャンセルしてください。
	近接した二つの番組(7時〜8時、8時〜9時など)を録画予約すると「予約が重複しています」と表示される	●「TS」と「RE」を使って、別の「W録」で予約してください。 または手動で、録画が終了して次の録画が始まるまでの間隔を、2分以上空けてください。(操作編70ページ)
	予約録画終了後に電源が切れるようにしたい	● 電源が待機状態で予約録画が始まった場合、終了時刻に何も作業をしていないと自動的に電源が切れます。 電源を入れていた場合は、録画中に『クイックメニュー』を押して、【録画終了時刻/電源設定】という項目を選び、『決定』を押すと、終了後電源【切る】の表示が出ますので、そのまま『決定』を押してください。 これで設定完了です。※設定をしていても、録画終了時刻に再生動作や編集などの操作をしていると電源が切れません。
	おまかせ自動録画を設定したはずなのに、「録画予約一覧」に番組が表示されない	● おまかせ自動録画は、最長2日以内の番組を、設定した自動録画時間の範囲(合計)で自動的に録画予約します。2日以内になってからご確認ください。
	毎週同じ番組を録画予約したい	●「毎予約」（指定した周期での録画予約)がおすすめです。「録画予約(基本的な設定)」画面の【日時】を選び、【毎水曜日】など、毎週予約したい曜日と時間を設定してください。(操作編61ページ)
録画	DVD-RAMに録画ができない	●「TS」を選んでいませんか。 →TS録画はできません。『W録』を押して「RE」に切り換えてください。 ● ディスクに誤消去防止がされていませんか。 →ディスクのライトプロテクトタブを「PROTECT」の反対側にしてください。 ● ディスクにソフトプロテクトが設定されていませんか。 →ディスクのソフトプロテクトを解除してください。(操作編157ページ) ● パソコンやDVDレコーダーでディスクにプロテクトがかけられていませんか。 →設定した機器でプロテクトを解除してください。 ● ディスクの空き容量が足りなくなっていませんか。 →不要な部分を消去するか(操作編98、132ページ)、または新たなディスクを準備してください。 ● ディスクの初期化をすると、問題が解決される場合があります。 →ディスクを初期化する(操作編44ページ) →DVD-RAM物理フォーマットをする(操作編45ページ) ● コピー制限のある番組を録画できるディスクですか。 →CPRMに対応したDVD-RAMであれば録画可能です。
	内蔵HDDに録画ができない	●「DVD」が選ばれていませんか。 →『ドライブ切換』を押して、「HDD」に切り換えてください。 ● 内蔵HDDの空き容量が足りなくなっていませんか。 →不要なタイトルを消去するか(操作編98、132ページ)、またはとっておきたいタイトルをDVD-RAMなどにダビング(移動)してください。(操作編138ページ〜、142ページ〜) ● 停電などでディスクに保護がかかっていませんか。 →必要なタイトルをDVD-RAMなどにダビングしたあと、HDDの初期化(全削除)をしてください。
	DVD-R/RW(VRフォーマット)に録画ができない	●「TS」を選んでいませんか。 →TS録画はできません。『W録』を押して、「RE」に切り換えてください。 ● ディスクにソフトプロテクトが設定されていませんか。 →ディスクのソフトプロテクトを解除してください。(操作編157ページ) ● パソコンや他社機でディスクにプロテクトがかけられていませんか。 →設定した機器でプロテクトを解除してください。(DVD-RWの場合) ● ディスクの空き容量が足りなくなっていませんか。 →不要な部分を消去するか(DVD-RWの場合)（操作編98、132ページ)、または新たなディスクを準備してください。 ● ディスクの初期化をすると、問題が解決される場合があります。(DVD-RWの場合) →ディスクを初期化する(操作編44ページ) ● コピー制限のある番組を録画できるディスクですか。 →CPRM対応のディスクであれば録画可能です。

	このようなとき	ここをお調べください!
録画（つづき）	録画が止まらない	● ナビ画面などがテレビ画面に表示されていませんか。 →ナビ画面などが出ていると『停止』を押しても止まりません。 ● 現在どのドライブ（HDD ／ DVD）と「W録」が選ばれていますか。 →HDDに録画しているのであれば「HDD」、DVDに録画しているのであれば「DVD」に切り換えてください。 録画をしているW録に合わせて、リモコンの『W録』を押して「TS」または「RE」に切り換えてください。 そのあとに本体またはリモコンの『停止』を押します。予約録画の場合メッセージが表示されますので、そのメッセージに従ってください。 ● リモコンの『チャンネル切換／通常』スイッチが「チャンネル切換」側になっていませんか。 →「通常」側に切り換えて『停止』を押してください。
	録画したはずのタイトルが見つからない	● 正しい録画先を選んでいますか。 →内蔵HDDに録画したタイトルであれば「HDD」に、DVDディスクに録画したタイトルであれば「DVD」に切り換えてください。 ● 自動削除対象になっているタイトルではありませんか？ →削除したくないタイトルは、自動削除を【しない】に設定して録画するか、タイトルを保護してください。
	録画品質を変更したい	● 以下の二つの方法で、よく使う録画品質を五つまで設定、または変更できます。 － 「録画予約（基本的な設定）」画面で、【品質】を選ぶ。 － 停止中に『クイックメニュー』を押し、【録画品質設定】を選ぶ。 停止中、『録画モード』を押すたびに、設定した（1～5）の品質を切り換えることができます。
	マジックチャプター機能が働かない	● ジャンルによっては、マジックチャプター機能が働かない場合があります。 ● チャプター数の上限に達すると、それ以上のチャプターの作成はできなくなります。
	CPRM対応ディスクを使っているのに、録画できない	● Videoフォーマットのディスクではありませんか。 CPRM対応ディスクでも、VRフォーマットで初期化していないと、コピー制限のある番組を録画できません。 →VRフォーマットで初期化してください。（ただし、DVD-Rは一度初期化すると変更できないのでご注意ください。）
	市販のDVDビデオの映像を録画したい	● 市販されているほとんどのDVDビデオなどは、録画禁止処理がされているため、録画はできません。
編集	プレイリストを編集しているときに、パーツが追加できない	● 以下の場合は、パーツ登録やプレイリスト登録をすることができません。 － 編集しているタイトル（プレイリスト）自身、それに含まれるチャプター（プレイリスト） － 静止画タイトル、または静止画と動画が混在するタイトルやチャプター － 録画中のタイトル、または録画準備中
	タイトルを結合できない	● 以下のタイトルは、結合することができません。 － 保護設定されたタイトル － 静止画を含むタイトル － VR録画され、結合すると9時間を超えるタイトル － TS録画され、結合すると約24～27時間を超えるタイトル － TSタイトルとVRタイトル（TSタイトルはTSタイトルと、VRタイトルはVRタイトルとだけしか結合できません）
	ファイナライズしたら、解除できなくなった	● DVD-Rディスクは、一度ファイナライズしたら解除することができませんのでご注意ください。
ダビング	DVD-R/RW(Videoフォーマット)にダビングができない	● ダビングしたいタイトルが以下の条件にあてはまるときは、DVD-R/RW（Videoフォーマット）にはダビングできません。 ①選択したパーツがTS録画されたタイトル ②Videoフォーマットのディスクには記録できない解像度で録画されたタイトル ③コピー制限のあるタイトル ④DVD互換モード(➡ 操作編48ページ)を【切】で録画したタイトル
	Videoフォーマットで初期化したDVDへ、HDDに録画した内容をダビングしたいが、誤ってDVD互換モードを【切】の状態で録画してしまった	● まず、ダビングモードに【ぴったり】または【画質指定】を選びます。DVD互換で【入(主)】または【入(副)】を選び、HDDからHDDにダビング(コピー)してください。できあがったタイトルは、Videoフォーマットのディスクにダビングできます。(➡ 操作編144ページ)
	コピー× が表示されているタイトルを、ダビングしたい	● コピーワンス（1回だけ録画可能）番組を録画したタイトルを表します。 CPRM対応のDVD-RAM、DVD-R/RW（VRフォーマット）ディスクに、1回だけ「移動」ができます。DVDディスクに直接録画したコピー禁止タイトルはコピーも移動もできません。(➡ 操作編134ページ)

	このようなとき	ここをお調べください!
ダビング（つづき）	HDDに録画した [ダビング]、[コピー×] が表示されているタイトルのダビングができない	● コピーできる回数に制限のあるタイトルを表します。 ダビング（コピー）するたびに、コピー可能な回数が減っていき、表示が [コピー×] に変わると「移動」しかできなくなります。DVDディスクにダビングしたタイトルは、DVDからはコピーも移動もできなくなります。 →コピー可能な回数を確認してください。（操作編135ページ） ● CPRM対応のDVD-RAM、DVD-R/RW（VRフォーマット）以外のディスクを使っていませんか？ →デジタル放送などを記録できるCPRM対応のディスクを用意してください。 ● Videoフォーマットで初期化していませんか？ →DVD-R/RW（Videoフォーマット）には、コピーも移動もすることができません。VRフォーマットで初期化してください。
	ネットdeダビングできない	● 以下のような場合、または以下のようなタイトルはネットdeダビングできません。 － TS録画したタイトル（ダビング先がTS録画対応機でもできません） － コピー制限のあるタイトル － ダビング先やダビング元にDVD-R/RW（Videoフォーマット）を選んだ場合 － ダビング先がネットdeダビング対応機ではない － 上記以外にも、ダビング先のDVDドライブ(HD DVDドライブ含む)にHDVRフォーマットディスクが入っている場合は、ネットdeダビングができないことがあります。 ● 将来の機種と接続した際、本機発売時には想定していないドライブが認識された場合、ドライブ欄に#5などの数字が表示される場合がありますが故障ではありません。 ● 将来の機種で、一部のドライブへのダビングに対応できない場合があります。 ● ダビング先のディスクがDVD-R(VRフォーマット)のときは、ディスクの状態によっては、ダビングが中断される場合があります。
	DVD-Video作成ができない	● 以下のタイトルはDVD-Video作成できません。 － TSタイトル － コピー制限のある番組を録画したタイトル － DVD互換モード（操作編48ページ）を【切】で録画したタイトル →DVD互換モードを【切】で録画したタイトルでも、以下の方法でDVD-Video作成できます。 まず、ダビングモードに【ぴったり】または【画質指定】を選びます。DVD互換で【入（主）】または【入（副）】を選び、HDDからHDDにダビング（コピー）してください。できあがったタイトルでDVD-Video作成してください。
	ラインUダビングできない	● 以下の場合はラインUダビングできません。 － 市販のDVDビデオディスクの内容 － コピー制限のあるタイトル － TSタイトル、またはTSタイトルを含むタイトル（プレイリスト）など － 音楽用CDや見るナビなどの画面表示 － L-PCM 96kHz音声で記録されたDVDビデオディスク
	HDDに録画した「コピー×」のタイトルをDVDディスクにダビング（移動）できない	● CPRM対応のDVD-RAM、DVD-R/RW（VRフォーマット）以外のディスクを使っていませんか？ →デジタル放送などを記録できるCPRM対応のディスクを用意してください。 ● Videoフォーマットで初期化していませんか？ →DVD-R/RW（Videoフォーマット）には、コピーも移動もすることができません。VRフォーマットで初期化してください。
	PAL方式のビデオテープをHDDにダビングできない	● 本機ではPAL方式の入力信号をダビングすることはできません。録画およびダビング可能な信号方式は日本国内で標準の NTSC方式のみです。
ネット接続設定／ネットdeナビ	**ネットdeナビなどのネットワーク機能に関しては、8、48、51、52ページもご覧ください。**	
	ネットワークに接続できない	● お使いのネットワーク環境にあわせて接続方法を確認してください。（14、15ページ） ● LANケーブルの種類は正しいですか？直接パソコンなどと接続する場合はクロスケーブルを、ルーターやモデムを介して接続する場合はストレートケーブルをお使いください。（14、15ページ） ● 本機の「イーサネット設定」、パソコンの設定を確認してください。 詳しくは 51ページ「ネットワークにつながらないときは」をご覧ください。

	このようなとき	ここをお調べください!
ネット接続設定／ネットdeナビ(つづき)	ネットdeナビ画面が表示されない	● 本機の電源ははいっていますか？ ● お使いのブラウザの種類とバージョン、Java VMのバージョンはネットdeナビに対応していますか？ ● 本体名でアクセスできない場合や、マッキントッシュをお使いの場合は、ブラウザのアドレス入力欄へ本機のIPアドレスを入力してください。(➡ 19ページ) ● 本機の「イーサネット設定」、パソコンの設定を確認してください。 ● ファイヤーウォールやセキュリティソフトが影響している場合があります。お使いの場合、一時的に解除するか、本機がネット接続を利用できるように設定を変更する必要があります。(セキュリティソフトによって設定方法が異なります。) ● 詳しくは➡ 52ページ「ネットdeナビ・ヘルプ」をご覧ください。
	「ネットdeモニター」が表示されない	● お使いのパソコンにQuickTime7.0.3 がインストールされていますか？ ● 詳しくは➡ 48ページ「ネットdeモニターヘルプ」をご覧ください。
	「ネットdeリモコン」や「ネットdeモニター」、「サムネイル一覧」などをクリックすると、ユーザー名、パスワードの入力画面が表示される	● 本機の「イーサネット設定」で設定した「本体ユーザー名」、「本体パスワード」を入力してください。
	iEPG予約がうまく動作しない	● iEPGに関する設定が正しくない可能性があります。ネットdeナビから「ネットdeナビ設定」を確認してください。 ● iEPGサイトの番組表から予約したときにチャンネルが指定できない場合、「ネットdeナビ設定」の「チャンネル名設定」で、チャンネル名の欄をお使いのiEPG予約時に利用するチャンネル名に合わせる必要があります。
	ネットdeナビ画面で「iEPG1」「iEPG2」ボタンをクリックすると異常なアドレスが表示される	● ネットdeナビ画面で「iEPG1」もしくは「iEPG2」ボタンを押したときに、http://本体名もしくはIPアドレス/@@@@@@のように、@が六つ挿入されたアドレスになるのは正常な動作ですので削除せずにご利用ください。 (@がはいったアドレスは本機を通してiEPGサイトを閲覧し、本機に予約を取り込める状態になっているとご理解ください。)
	DVD-Videoのオリジナルメニューが登録できない	● 背景に指定したビットマップファイルに問題がある場合があります。ファイル形式、画像サイズをご確認のうえ、別のファイルなどで試してください。
リモコン	リモコンが効かない	● リモコンモードが合っていない。 →リモコンのボタンを押したときに、本体表示窓に「DR-1」「DR-2」「DR-3」のいずれかが表示される場合は、本機とリモコンのリモコンモードを合わせてください。(➡ 導入・設定編81ページ) また、リモコンの電池を入れ換えたときや、本体の時刻表示が点滅したときには、それぞれのリモコンモードを確認してください。 ● リモコンの電池が消耗していませんか。 →電池を交換してください。(➡ 導入・設定編7ページ) ● リモコンが受光部に向けられていない。 →リモコン送信部を本機受光部に向けて操作してください。 ● リモコンと受光部が遠すぎる。 →約7m以内のところで操作してください。 ● リモコンと受光部の間に障害物がある。 →障害物を取り除いてください。 ● 本機がリモコンオフモードになっている。 →リモコンオフモードを解除してください。(➡ 導入・設定編81ページ) ● 『チャンネル切換／通常』スイッチが目的の操作に合っていない。 →操作に合わせてスイッチを切り換えてください。(通常の操作時は「通常」側)(➡ 操作編5ページ) ● 数字などはリモコンの『シフト』と一緒に押してみてください。 **『シフト』ボタンを利用する必要がある主なケース** ― タイトル再生時、1/20スキップやワンタッチスキップ/リプレイをしたいときに、左右カーソル移動や左右ページ移動などが動作してしまう場合。 →『シフト』を押しながら、目的の操作ボタンを押します。 ― 文字入力画面で、入力した文字を全削除するとき。 ― 本機を通してテレビ放送を視聴中に、直接チャンネル番号を入力してチャンネルを切り換える場合。 ― 『CH番号入力』を使わずに、直接チャンネル番号を入力したい場合。 ― データ放送の入力画面で、数字を入力する場合。 ● シフトロックしていませんか。 →無操作で約1分経つと、シフトロックは自動的に解除されます。手動で解除する場合は、『シフト』を3秒以上押してから操作してください。(➡ 操作編4ページ)

	このようなとき	ここをお調べください!
時計	時計表示が「0:00」で点滅している	● 時刻設定を行なってください。(導入・設定編47ページ) コンセントを抜いた後、1分以上経過してからコンセントを入れて時計表示が再び「0:00」で点滅するときは、内蔵電池が消耗している場合があります。 →販売店または「東芝家電修理ご相談センター」(107ページ)にご連絡ください。
その他	本機底面が熱い	● 本機の底面の温度が高くなることがありますが、性能・品質には問題ありません。本機の底面を手で触れると熱く感じる場合があります。移動させるときなど、底面を触れる際には、電源プラグを抜いて5分以上経ってから移動させてください。
	本機が操作中に止まってしまい、15分以上何も動作せず、本体やリモコンのボタンに反応しなくなった	● 本体の『電源』ボタンを約10秒間押し続けると、強制的に電源を切ることができます。ただし、この機能は操作不能時に電源を切るための緊急手段ですので、頻繁には行なわないでください。データやディスク自体に障害が出る可能性があります。正常な動作中、特に「読込み中」、「処理中」のアイコンの表示中などに行なうと、ディスクを初期化しなければならなくなる場合があります。 **上記の操作を行なっても電源が切れない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、修理をご依頼ください。**

■アフターサービスをご依頼になる前に

本機を修理に出す前に、内蔵HDDの内容とライブラリ情報をDVD-RAMにダビングし、バックアップしてください。修理の際に内蔵HDDの記録内容が消える場合があります。内蔵HDDが異常になった場合でも、再生できるものはダビングしてください。修理の依頼をされるときは、付属の診断カルテへの記入をお願いします。なお、破損・消失した記録内容の復旧はできませんので、あらかじめご了承ください。

4 テレビ画面に表示されるメッセージ画面について

テレビ画面に以下のような内容のメッセージが表示された場合の対応についてご紹介します。
（メッセージの内容は、実際に画面に表示される文言とは一部異なる場合があります。）

メッセージの内容	ここをお調べください
■本機に登録されたディスクではありません。ライブラリを開くと自動登録されます。	DVDのディスク情報が本機に無いため表示されるメッセージです。ライブラリを手動で開けば自動登録されます。ライブラリ登録の必要がなければ無視しても差し支えありません。 また、このメッセージはライブラリ機能を【使わない】に設定すれば表示されなくなります。(操作編159ページ)
■録画状態に問題があり録画も再生もできません。	録画した番組データが破損、または異常のために録画に失敗した可能性があり、ディスクが読み書きできなくなっています。この状態になると録画内容のダビングなどが一切できなくなります。この状態から回復するにはディスクを初期化してください。**ただし、初期化をすると、録画内容はすべて消去されます。（ディスクによっては初期化できない場合があります。）** 導入・設定編84ページにある免責事項に基づき、データの復旧・補償は一切応じかねますことをご了承願います。
■ディスクに問題があり、再生以外できません。	ディスク上で何らかのトラブルが発生していますので、ディスクを初期化してください。**ただし、初期化をすると、録画内容はすべて消去されます。**あらかじめご了承ください。
■ディスクをチェックしてください。	ディスクの認識が正常にできていませんので、ディスクを入れ直してください。ディスクを入れ直しても改善されない場合は、別のディスクでも試してみてください。
■ディスクがよごれている可能性があります。	ディスクの記録面にホコリやよごれがついていないか確認してください。また、別のディスクでも試してみてください。
■このディスクは初期化できませんでした。ご使用になれません。	ディスクのトラブルの可能性があります。複数枚のディスクで同じメッセージが表示されるときは、本体異常の可能性があります。
■ライトプロテクトを解除してください。	本機非対応のタイプのディスク(DVD+R/DVD+RWなど)が使用されていないか確認してください。 本機以外で作成されたディスクの場合、作成条件をご確認ください。
■記録できないパーツが含まれているため、中止します。	DVD互換モードを入(主音声)にして、画質指定ダビングを行なってください。高速・無劣化でのダビングはできません。
■DVD互換モードが切で録画されたパーツのためダビングできません。	DVD互換モードを入(主音声)にして、画質指定ダビングを行なってください。高速・無劣化でのダビングはできません。
■コピープロテクション情報を検出しました。	コピー禁止の情報が含まれているタイトルです。録画したタイトルの情報を確認してください。
■IPアドレスを取得できませんでした。DHCPを使わない設定で運用してください。	IPアドレスを取得できていない状態ですので、DHCPを使わずにIPアドレスなどを手動で設定してください。
■DNSサーバーからの応答がありません。DNSサーバーのアドレスを確認してください。	DNSサーバーアドレスが正しく取得できていません。パソコンでの設定値を確認するか、またはご契約のプロバイダーに確認していただき、正しいDNSサーバーアドレスを設定してください。
■DNSサーバーを利用した名前の解決ができません。	ご契約のプロバイダーに確認していただき、正しいDNSサーバーアドレスを設定してください。

（つづく）

テレビ画面に表示されるメッセージ画面について（つづき）

メッセージの内容	ここをお調べください
■ルーターからの応答がありません。ルーターとの接続を確認してください。	ルーターとつながっていない状態にありますので、接続を確認してください。LANケーブルを抜き差しすると改善される場合があります。
■ディスクトレイ、又は扉の異常です。	電源が待機状態の時に、本体の『開／閉』を押して強制排出を行なってください。どうしても取り出せない場合は、本体異常の可能性があるため、⇨107ページをご覧になり、修理をご依頼ください。
■HDDが取り外されたことを検出しました。	物理的、あるいは何らかのトラブルによって、HDDの内容または接続情報に異常を検出した状態です。 正常に認識させるためにはHDDを初期化してください。**ただし、HDDの内容はすべて消去されます。**あらかじめご了承ください。
■録画できる信号がありません。	録画可能な信号が入力されていない状態です。接続やアンテナレベルを確認してください。
■再生できませんでした。	ディスクの読み取りに失敗している状態です。 ① HDDの場合は、電源を切り、電源プラグを入れ直してください。それでも改善されない場合はHDDを初期化してください。 **ただし、HDDの内容はすべて消去されます。**あらかじめご了承ください。 ② DVDの場合は、ディスクの記録面によごれやホコリがないか確認し、何度か入れ直してください。また、別のディスクでも試してみてください。
■録画に失敗しました。	ディスクへの記録に失敗している可能性があります。 ① HDDで何度も起こってしまう場合、HDDの記録状態に異常が発生していることが考えられます。HDDの初期化を行なってみてください。**ただし、HDDの内容はすべて消去されます。**あらかじめご了承ください。 ② DVDの場合は、ディスクの初期化を行なうか、別のディスクでも試してみてください。ただし、ディスクによっては初期化できない場合があります。
■録画を開始できません。ディスク情報を確認してください。	録画できない条件が発生しています。ディスク情報を見て、録画時間、タイトル数、ディスク保護を確認してみてください。
■正常に電源が切られませんでした。録画内容が失われた可能性があります。	強制終了か、または正常に電源が切られなかった可能性があります。録画内容を確認してください。
■HDDの内容が複雑になりました。必要な内容をバックアップの上、HDDを初期化してください。	HDD内に細かいパーツが多くなり複雑化しています。早めにHDD初期化を行なってください。**ただし、HDDの内容はすべて消去されます。**あらかじめご了承ください。

4 総合さくいん

数字・アルファベット順

ネット接続設定
ネットdeナビ
機能設定
参考情報

あいうえお順

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

商品の保証とアフターサービス

必ずお読みください

保証書（別添）

- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと、たいせつに保管してください。

補修用性能部品について

- 当社は、HDD&DVDレコーダーの補修用性能部品を製造打ち切り後、8年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理のために取りはずした部品は、弊社で引き取らせていただきます。
  修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

保証期間
お買い上げ日から1年間です。ただし、業務用にご使用の場合、あるいは特殊使用の場合は、保証期間内でも「有料修理」とさせていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

修理を依頼されるときは～出張修理

異常のあるときは、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証期間中は

商品の修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定にしたがって販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容	
品名	HDD&DVDレコーダー
形名	RD-E302
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印なども合わせてお知らせください
お名前	
電話番号	
便利メモ お買い上げ店名	☎（　　）　ー

お客様へ…おぼえのため、お買い上げ店名を記入すると便利です。

保証期間が過ぎているときは

商品を修理すれば使用できる場合には、ご希望によって有料で修理させていただきます。

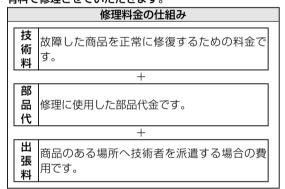
修理料金の仕組み

技術料	故障した商品を正常に修復するための料金です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。

＋

出張料	商品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

商品の修理サービスはお買い上げの販売店がいたします。

■ 修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼はお買い上げの販売店にお申し付けください。

転居されたり、ご贈答品などで販売店に修理のご相談ができない場合

東芝家電修理ご相談センター

フリーダイヤル **0120-1048-41**（トウシバ　ヨイ）
電話受付：365日・24時間受付

携帯電話からのご利用は
ナビダイヤル 0570-06-4114（通話料：有料）

PHSなどからのご利用は
0173-38-3168（通話料：有料）

・「東芝家電修理ご相談センター」は東芝テクノネットワーク株式会社が運営しております。
・お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答などの情報提供に利用いたします。
・利用目的の範囲内で、当該製品に関連する東芝グループ会社や協力会社に、お客様の個人情報を提供する場合があります。

■新商品などの商品選びや、お買い上げ後の基本的な取扱方法および編集やネットワークなどの高度な取扱方法などのご相談については裏表紙をご覧ください。

商品のお問い合わせに関して

― 商品選びのご相談や、お買い上げ後の基本的な取扱方法、故障と思われる場合のご相談 ―

・新製品などの商品選びのご相談
・各種ケーブルの接続などのご相談
・リモコン設定／時刻合わせ等の基本的な設定
・内蔵チューナーのチャンネル設定
・電子番組表 (ADAMS) の設定
・録画／再生／削除等の基本操作
注) ネットワーク接続設定を除きます。

上記についてのお問い合わせは

『東芝 DVD インフォメーションセンター』

（一般回線からのご利用は）フリーダイヤル（通話料無料）**0120-96-3755**
（フリーダイヤルは携帯電話・PHS など一部の電話ではご利用になれません）

（携帯電話からのご利用は）ナビダイヤル（通話料有料）**0570-00-3755**
（PHS・一部の IP 電話などでは、ご利用になれない場合があります）

月～土　10:00 ～ 20:00（当社指定休業日等を除く）
日曜日・祝日　10:00 ～ 16:00

― 本機に関する編集やネットワークなどの高度な取扱方法 ―

・ネットワークに関してのご相談
・録画／編集などの高度な操作について
・その他の RD ／ AK シリーズの機能に関してのご相談

上記についてのお問い合わせは

『RD シリーズサポートダイヤル』

ナビダイヤル（通話料有料）**0570-00-0233**
（PHS・一部の IP 電話などでは、ご利用になれない場合があります）

月～土　10:00 ～ 18:00（当社指定休業日等を除く）
日曜日・祝日　10:00 ～ 16:00（12:30 ～ 13:30 は休止)

■ホームページ上によくあるお問い合わせ情報を掲載しておりますのでご利用ください。
また、番組データ提供に関する情報、メンテナンス情報やトラブル情報につきましても、お問い合わせの前に、以下のホームページをご確認ください。
『http://www3.toshiba.co.jp/hdd-dvd/support/』

●「東芝 DVD インフォメーションセンター」「RD シリーズサポートダイヤル」は株式会社東芝デジタルメディアネットワーク社が運営しております。
●お客様からご提供いただいた個人情報は、ご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
●東芝グループ会社または協力会社が対応させていただくことが適切と判断される場合に、お客様の個人情報を提供することがありますので、あらかじめご了承ください。

愛情点検
★長年ご使用の HDD & DVD レコーダーの点検を！

このような症状はありませんか	● 再生しても音や映像が出ない ● 煙が出たり、異常なにおいや音がする ● 水や異物がはいった	● ディスクが傷ついたり、取り出しができない ● 電源コード、プラグが異常に熱くなる ● その他の異常や故障がある	▶	お願い	故障や事故防止のため、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご連絡ください。点検・修理に要する費用などは販売店にご相談ください。

株式会社 東芝
デジタルメディアネットワーク社
〒105－8001　東京都港区芝浦1－1－1
＊所在地は変更になることがありますのでご了承ください。

79102457
Ⓐ GX1D00004090